

令和7年度（2025年度）
磐田市市民意識調査

調査結果報告書【概要版】

令和7年11月

磐 田 市

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	2
2.	調査の内容	2
3.	調査の設計	2
4.	回収結果	2
5.	調査の信頼性	2
6.	注意事項	3
II	調査の結果 ～ 回答者の基本属性 ～	4
1.	回答者自身について	5
III	調査の結果 ～ 磐田市のまちづくりについて ～	8
1.	磐田市の取組みについて	9
2.	まちへの想いについて	26
3.	コミュニティについて	36
4.	産業（商業・工業・農林水産業）について	44
5.	福祉について	46
6.	子育て・教育について	48
7.	環境について	52
8.	防災について	56
9.	学びについて	58
10.	物価高騰に対する影響について	60
11.	男女共同参画社会について	64
12.	多文化共生社会について	72
13.	セクシュアルマイノリティ（性的少数者）について	78
14.	行政運営について	80
15.	市政への市民参画について	86
付録	調査票	90

I 調査の概要

1. 調査の目的

令和9年度からのまちづくりの指針となる「第3次磐田市総合計画」を策定するにあたり、市民の目線に立って検討を行うために、これまで市で実施してきた取組みに対する市民の評価と、今後の取組みについて何う市民意識調査を実施した。

2. 調査の内容

◎回答者の基本属性

◎磐田市のまちづくりについて

3. 調査の設計

対 象 者：市内に在住の満18歳以上の市民

標 本 数：3,000人（無作為抽出）

調査方法：郵送配布－郵送回答又はインターネット回答

調査期間：令和7年6月18日～7月9日

4. 回収結果

発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
3,000件	997件	994件 (郵送回答：736件、インターネット回答：258件)	33.1%

※有効回収数は、回収数のうち白票・無効票を除いた数

5. 調査の信頼性

本調査は、対象となる母集団から、無作為に抽出した一部の人（標本）について調査を行う「標本調査」となっている。標本調査では、標本から母集団における数値を推定する際に生じる誤差（標本誤差）を伴う。本調査における標本誤差は以下の式で近似できる。

$$\varepsilon = \pm 2 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

ε ：標本誤差
 N ：母集団数
 n ：比率算出の基数
 P ：回答比率

回答者総数（994人）を100%とする質問で、ある回答選択肢に対する回答比率が50%であるとする、母集団（満18歳以上の磐田市民全体）の回答比率は46.8%～53.2%の間であると推定される。

【本調査結果の標本誤差（信頼係数95%）】

回答比率	標本誤差
50%	±3.2%
60%又は40%	±3.1%
70%又は30%	±2.9%
80%又は20%	±2.5%
90%又は10%	±1.9%

6. 注意事項

- ・回答率（％）は、その質問の回答者数を基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、比率の数値の合計が 100.0％にならない場合がある。また、グラフにおける比率の合計は、コメントにおける比率の合計と一致しない場合がある。
- ・複数回答可の設問はすべての比率を合計すると 100.0％を超える場合がある。
- ・グラフ中の「n (Number of caseの略)」は基数で、その質問に回答すべき人数を表している。
- ・本文中に「前回調査」とあるものは、令和2年度調査を指している。
- ・性別を分析軸としたグラフは、回答数の少ない「回答しない」を除いている。
- ・問5の満足度指数・重要度指数・要望度指数は、小数点以下第3位を四捨五入している。

Ⅱ 調査の結果

～ 回答者の基本属性 ～

1. 回答者自身について

(1) 性別

No.	問 43 性別<○印を1つ>	人数(人)	割合(%)
1	男性	417	42.0
2	女性	531	53.4
3	回答しない	36	3.6
	無回答	10	1.0
合計		994	100.0

(2) 年齢

No.	問 44 年齢<○印を1つ>	人数(人)	割合(%)
1	20歳未満	2	0.2
2	20～29歳	46	4.6
3	30～39歳	90	9.1
4	40～49歳	125	12.6
5	50～59歳	172	17.3
6	60～69歳	223	22.4
7	70～79歳	287	28.9
8	80歳以上	42	4.2
	無回答	7	0.7
合計		994	100.0

(3) 職業

No.	問 45 職業<○印を1つ>	人数(人)	割合(%)
1	勤め人(会社員・公務員・団体職員)	351	35.3
2	会社・団体の役員	15	1.5
3	農林漁業の自営業	10	1.0
4	商・工・サービス業等の自営業	28	2.8
5	自由業・専門的職業(開業医、弁護士、芸術家等)	20	2.0
6	パート・アルバイト	156	15.7
7	学生	2	0.2
8	専業主婦(夫)	91	9.2
9	無職	303	30.5
10	その他	8	0.8
	無回答	10	1.0
合計		994	100.0

(4) 家族構成

No.	問 46 家族構成<○印を1つ>	人数(人)	割合(%)
1	単身(ひとり暮らし)	358	36.0
2	一世代(夫婦のみ)	222	22.3
3	二世帯(親と子)	328	33.0
4	三世帯(親と子と孫)	60	6.0
5	兄弟姉妹	9	0.9
6	その他	6	0.6
	無回答	11	1.1
合計		994	100.0

(5) 市内在住の別世帯の親族の有無

No.	問 47 市内在住の別世帯の親族の有無<○印を1つ>	人数(人)	割合(%)
1	はい	520	52.3
2	いいえ	445	44.8
	無回答	29	2.9
合計		994	100.0

(6) 居住地区

No.	問 48 居住地区<○印を1つ>	人数(人)	割合(%)
1	見付地区	160	16.1
2	中泉地区	129	13.0
3	今之浦地区	18	1.8
4	岩田・大藤・向笠地区	43	4.3
5	西貝・御厨・南御厨・田原地区	117	11.8
6	天竜・長野・於保地区	92	9.3
7	福田地区	88	8.9
8	竜洋地区	90	9.1
9	富岡・豊田東・池田地区(豊田中学校区)	80	8.0
10	井通地区・青城地区(豊田南中学校区)	103	10.4
11	豊岡地区	58	5.8
12	わからない	4	0.4
	無回答	12	1.2
合計		994	100.0

(7) 磐田市での居住年数

No.	問 49 磐田市での居住年数<○印を1つ>	人数(人)	割合(%)
1	2年未満	38	3.8
2	2年以上5年未満	57	5.7
3	5年以上10年未満	50	5.0
4	10年以上20年未満	102	10.3
5	20年以上	736	74.0
	無回答	11	1.1
合計		994	100.0

(8) 使用している携帯電話

No.	問 50 使用している携帯電話<○印を1つ>	人数(人)	割合(%)
1	スマートフォン(スマホ)	893	89.8
2	フィーチャーフォン(ガラケー)	63	6.3
3	携帯電話を所持していない	29	2.9
	無回答	9	0.9
合計		994	100.0

(9) 「ウェルビーイング」の認知度

No.	問 51 「ウェルビーイング」の認知度<○印を1つ>	人数(人)	割合(%)
1	言葉も意味も知っている	219	22.0
2	言葉は知っているが、意味は知らない	143	14.4
3	知らない	618	62.2
	無回答	14	1.4
合計		994	100.0

Ⅲ 調査の結果

～ 磐田市のまちづくりについて ～

1. 磐田市の取組みについて

(1) 市政全般の満足度

問1 市政全般について、どの程度満足していますか？＜○印を1つ＞

◎市政全般について、『満足』（「満足」＋「やや満足」）している人は約8割

■前回調査との比較

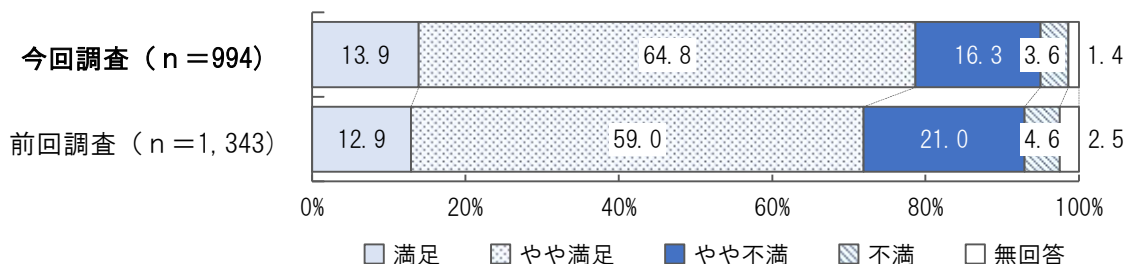
『満足』が増加している

■傾向

【性別】大きな差はない

【年代別】『満足』は30歳未満において最も多く、『不満』は30歳代において最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で『満足』が7割以上



■今回調査の結果

- ・『満足』（「満足」＋「やや満足」）は78.7%、『不満』（「やや不満」＋「不満」）は19.9%となっている。
- ・「やや満足」（64.8%）が最も多く、次いで「やや不満」（16.3%）、「満足」（13.9%）などとなっている。

■前回調査との比較

- ・『満足』が6.8ポイント増加し、『不満』が5.7ポイント減少している。
- ・「やや満足」が5.8ポイント増加している。

■傾向

【性別】・大きな差はない。

・『満足』は男性が78.2%、女性が79.7%となっている。

【年代別】・すべての年代で『満足』が7割を超えている。

・『満足』は30歳未満（83.3%）において最も多く、次いで70歳以上（83.0%）、50歳代（78.5%）などとなっている。

・『不満』は30歳代（27.8%）において最も多く、次いで60歳代（22.9%）、40歳代（22.4%）などとなっている。

【居住地区別】・すべての居住地区で『満足』が7割を超えている。

・『満足』は天竜・長野・於保地区（87.0%）において最も多く、次いで西貝・御厨・南御厨・田原地区（82.1%）、富岡・豊田東・池田地区（81.3%）などとなっている。

・『不満』は豊岡地区（29.3%）において最も多く、次いで中泉・今之浦地区（26.5%）、福田地区（25.0%）などとなっている。

(2) 市役所の窓口サービスの満足度

問2 市役所の窓口サービスについて、どの程度満足していますか？＜○印を1つ＞

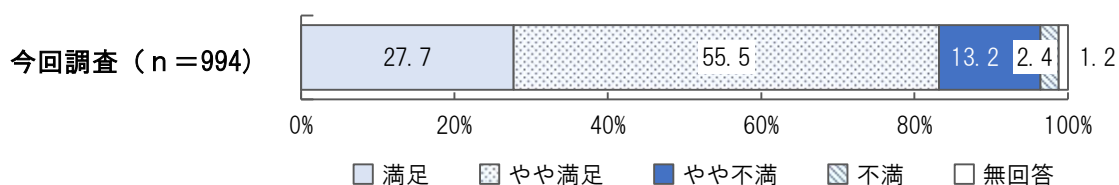
◎市役所の窓口サービスについて、『満足』（「満足」＋「やや満足」）している人は8割以上

■傾向

【性別】大きな差はない

【年代別】『満足』は70歳以上において最も多く、『不満』は30歳未満において最も多い

【居住地区別】ほとんどの居住地区で『満足』が8割以上



■今回調査の結果

・『満足』（「満足」＋「やや満足」）は83.2%、『不満』（「やや不満」＋「不満」）は15.6%となっている。

■傾向

【性別】

- ・大きな差はない。
- ・『満足』は男性が84.2%、女性が84.0%となっている。

【年代別】

- ・すべての年代で『満足』が7割を超えている。
- ・『満足』は70歳以上（90.0%）において最も多く、次いで50歳代（82.0%）、60歳代（80.7%）などとなっている。
- ・『不満』は30歳未満（22.9%）において最も多く、次いで30歳代（22.2%）、40歳代（21.6%）などとなっている。

【居住地区別】

- ・豊岡地区を除くすべての居住地区で『満足』が8割を超えている。
- ・『満足』は天竜・長野・於保地区（89.1%）において最も多く、次いで見付地区と富岡・豊田東・池田地区（それぞれ86.3%）などとなっている。
- ・『不満』は豊岡地区（32.8%）において最も多く、次いで中泉・今之浦地区（19.7%）、岩田・大藤・向笠地区（18.6%）などとなっている。

(3) 市役所の窓口サービスを不満に思う一番の理由

問2で「やや不満」又は「不満」と回答した方のみ

問3 その一番の理由は何ですか？＜○印を1つ＞

◎不満に思う最も多い理由は「利用時間が不便」

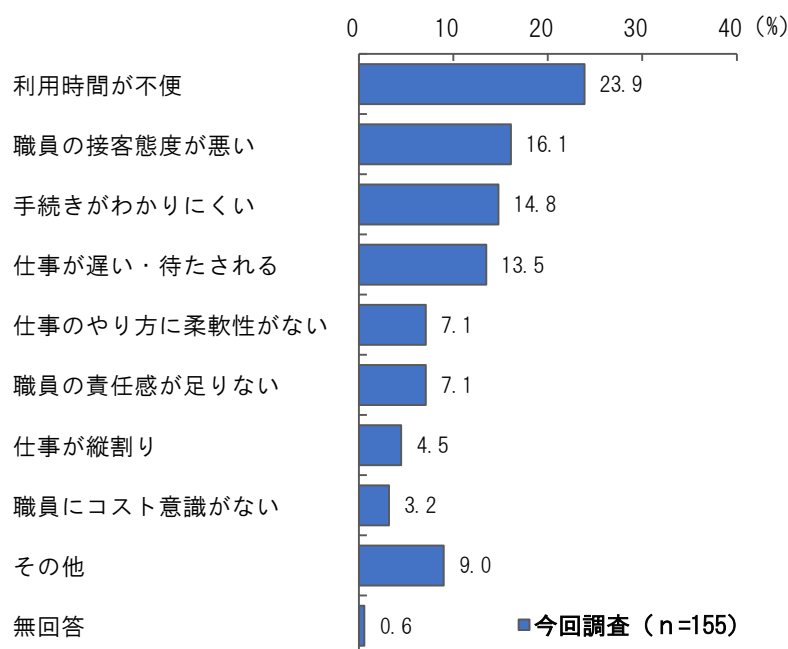
■傾向

【性別】男女ともに「利用時間が不便」が最も多い

【年代別】複数の年代で最も多い理由は「利用時間が不便」

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い理由は

- ・「利用時間が不便」
- ・「職員の接客態度が悪い」
- ・「仕事が遅い・待たされる」



■今回調査の結果

- ・「利用時間が不便」(23.9%) が最も多く、次いで「職員の接客態度が悪い」(16.1%)、「手続きがわかりにくい」(14.8%) などとなっている。

■傾向

【性別】男女ともに「利用時間が不便」が最も多く、次いで「職員の接客態度が悪い」、「手続きがわかりにくい」などとなっている。

【年代別】30歳未満、30歳代、40歳代、50歳代は「利用時間が不便」が最も多い。
60歳代は「手続きがわかりにくい」(17.5%) が最も多い。
70歳以上は「職員の責任感が足りない」(24.0%) が最も多い。

【居住地区別】見付地区は「利用時間が不便」「仕事が遅い・待たされる」(それぞれ 22.7%) が最も多い。
中泉・今之浦地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、天竜・長野・於保地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区は「利用時間が不便」が最も多い。
岩田・大藤・向笠地区、福田地区は「職員の接客態度が悪い」が最も多い。
竜洋地区は「仕事が遅い・待たされる」(27.3%) が最も多い。
豊岡地区は「手続きがわかりにくい」(36.8%) が最も多い。

(4) 磐田市からの情報の入手手段

問4 磐田市では、市の行事や行政サービスなどをお知らせするために、様々な広報活動を行っています。
あなたは、普段、市からの情報を何を通して得ていますか？＜該当するものすべてに○印＞

◎磐田市からの情報の入手手段は

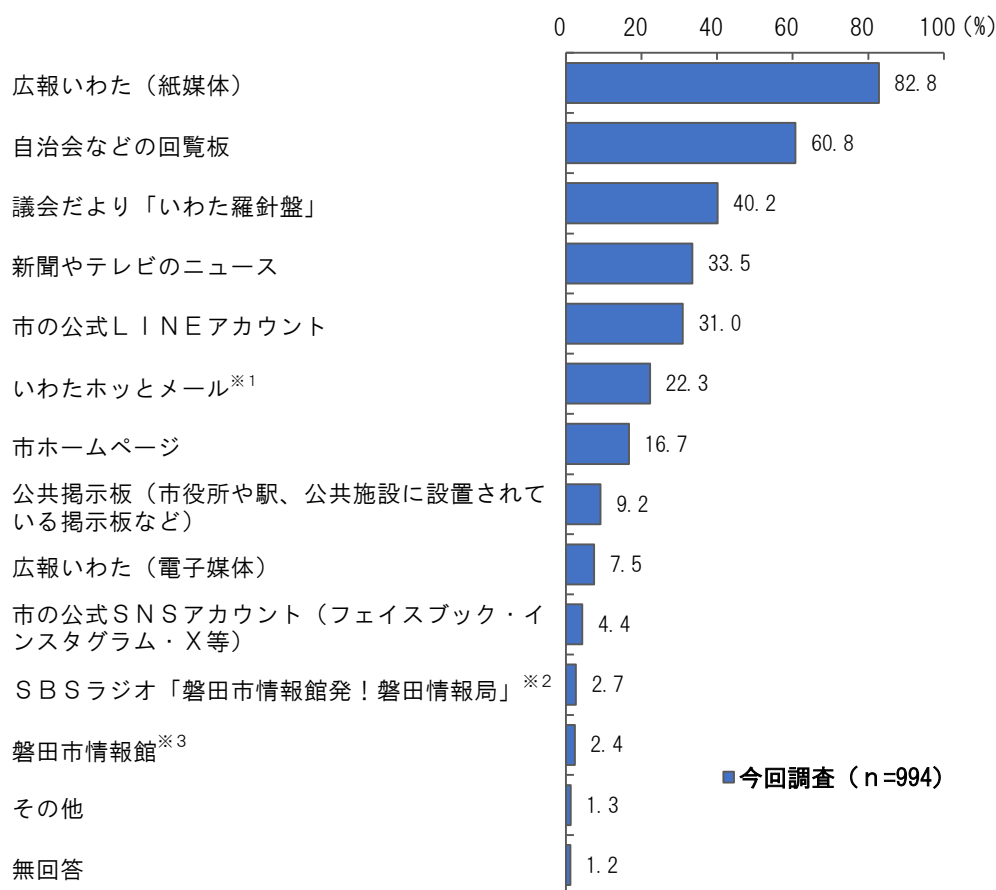
・「広報いわた（紙媒体）」 ・「自治会などの回覧板」 ・「議会だより『いわた羅針盤』」

■傾向

【性別】男女ともに「広報いわた（紙媒体）」が最も多い

【年代別】すべての年代で「広報いわた（紙媒体）」が最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で「広報いわた（紙媒体）」が最も多い



※1：携帯電話やパソコンなどのメール機能を利用して、防犯や子育て、イベント、同報無線放送内容など利用者が希望する項目を選択、登録することで、リアルタイムに情報を受け取れるサービス

※2：SBSラジオ放送を活用し、「商工」「観光」など磐田市の旬な情報を毎週金曜日に発信

※3：「ららぽーと磐田」内にある観光や産業をはじめとした市内の各種情報発信拠点

■今回調査の結果

- ・「広報いわた（紙媒体）」（82.8%）が最も多く、次いで「自治会などの回覧板」（60.8%）、「議会だより『いわた羅針盤』」（40.2%）などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】 ・男女ともに「広報いわた（紙媒体）」が最も多く、次いで「自治会などの回覧板」、「議会だより『いわた羅針盤』」などとなっている。
- 【年 代 別】 ・すべての年代で「広報いわた（紙媒体）」が最も多い。
 - ・30歳未満、30歳代は「市の公式LINEアカウント」が次に多い。
 - ・40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上は「自治会などの回覧板」が次に多い。
- 【居住地区別】 ・すべての居住地区で「広報いわた（紙媒体）」が最も多く、次いで「自治会などの回覧板」などとなっている。

(5) 総合計画の基本施策の取組みの満足度

問5 市では、「安心できるまち、人が集まる磐田市」の実現に向け、総合計画に示す31の基本施策に取り組んでいます。次の①から⑩の各項目の満足度と重要度について、どのように感じていますか？
記入例を参考に、それぞれ最も近いものを選んで○をつけてください。＜○印をそれぞれ1つ＞

◎満足度指数が高い基本施策は

- ・「8 スポーツの振興」 ・「26 水道水の安定供給と下水道の整備」
- ・「21 消防・救急体制の充実」

◎満足度指数が低い基本施策は

- ・「24 公共交通体系と道路網の整備」 ・「23 計画的な土地利用の推進」
- ・「6 移住・定住の推進」

■前回調査との比較

満足度指数の上昇幅が大きい基本施策は

- ・「22 市民生活の安全・安心の確保」 ・「29 効率的・効果的な行政運営の推進」
- ・「8 スポーツの振興」

満足度指数が減少した基本施策は

- ・「24 公共交通体系と道路網の整備」 ・「23 計画的な土地利用の推進」

■傾向

【性別】男性で満足度指数が最も高い施策は「26 水道水の安定供給と下水道の整備」、
女性で満足度指数が最も高い施策は「8 スポーツの振興」

【年代別】複数の年代で満足度指数が最も高い施策は

- ・「8 スポーツの振興」 ・「26 水道水の安定供給と下水道の整備」

【居住地区別】複数の居住地区で満足度指数が最も高い施策は

- ・「8 スポーツの振興」 ・「21 消防・救急体制の充実」

満足度指数の算出

満足度指数	満足度指数とは、「満足」に4点、「やや満足」に3点、「やや不満」に2点、「不満」に1点を加点し、回答人数に掛け、回答総数（無回答数を除く）で除したもので、4に近いほど満足度が高く、1に近いほど満足度が低いことを示している。
-------	---

■満足度順位表（抜粋）

順位	分野	基本施策	満足度指数
1	自治・スポーツ・文化・歴史・共生	8 スポーツの振興	3.03
2	都市基盤・環境	26 水道水の安定供給と下水道の整備	3.00
3	防災・消防・安全安心	21 消防・救急体制の充実	2.99
4	福祉・健康	18 健康づくりの推進	2.92
5	防災・消防・安全安心	22 市民生活の安全・安心の確保	2.91
27	行財政改革	30 持続可能な財政基盤の確立	2.69
28	産業・雇用・観光・移住定住	3 産業を担う人材の育成・就労の支援	2.67
29	産業・雇用・観光・移住定住	6 移住・定住の推進	2.65
30	都市基盤・環境	23 計画的な土地利用の推進	2.54
31	都市基盤・環境	24 公共交通体系と道路網の整備	2.41

■今回調査の結果

- ・満足度指数が高い上位5項目は「8 スポーツの振興」(3.03)、「26 水道水の安定供給と下水道の整備」(3.00)、「21 消防・救急体制の充実」(2.99)、「18 健康づくりの推進」(2.92)、「22 市民生活の安全・安心の確保」(2.91)となっている。
- ・満足度指数が低い上位5項目は「24 公共交通体系と道路網の整備」(2.41)、「23 計画的な土地利用の推進」(2.54)、「6 移住・定住の推進」(2.65)、「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」(2.67)、「30 持続可能な財政基盤の確立」(2.69)となっている。

■前回調査との比較

- ・満足度指数が増加している基本施策は「22 市民生活の安全・安心の確保」(0.14 ポイント)が最も大きく、次いで「29 効率的・効果的な行政運営の推進」(0.13 ポイント)、「8 スポーツの振興」(0.13 ポイント)などとなっている。
- ・満足度指数が減少している基本施策は「24 公共交通体系と道路網の整備」(0.05 ポイント)、「23 計画的な土地利用の推進」(0.01 ポイント)となっている。

■傾 向

- 【性 別】
- ・男性の満足度指数は「26 水道水の安定供給と下水道の整備」(2.99)が最も高く、次いで「8 スポーツの振興」(2.96)、「21 消防・救急体制の充実」(2.95)などとなっている。
 - ・女性の満足度指数は「8 スポーツの振興」(3.11)が最も高く、次いで「21 消防・救急体制の充実」(3.02)、「26 水道水の安定供給と下水道の整備」(3.02)などとなっている。
 - ・男女ともに「24 公共交通体系と道路網の整備」の満足度指数が最も低く、次いで「23 計画的な土地利用の推進」などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・30歳未満、40歳代、70歳以上の満足度指数は「26 水道水の安定供給と下水道の整備」が最も高い。
 - ・30歳代、50歳代、60歳代の満足度指数は「8 スポーツの振興」が最も高い。
 - ・すべての年代の満足度指数で「24 公共交通体系と道路網の整備」が最も低い。
- 【居住地区別】
- ・見付地区、岩田・大藤・向笠地区、福田地区の満足度指数は「21 消防・救急体制の充実」が最も高い。
 - ・中泉・今之浦地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、天竜・長野・於保地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区の満足度指数は「8 スポーツの振興」が最も高い。
 - ・竜洋地区の満足度指数は「26 水道水の安定供給と下水道の整備」(3.25)が最も高い。
 - ・豊岡地区の満足度指数は「18 健康づくりの推進」(3.05)が最も高い。
 - ・すべての居住地区の満足度指数で「24 公共交通体系と道路網の整備」が最も低い。

(5) 総合計画の基本施策の取組みの重要度

問5 市では、「安心できるまち、人が集まる磐田市」の実現に向け、総合計画に示す31の基本施策に取り組んでいます。次の①から⑩の各項目の満足度と重要度について、どのように感じていますか？
記入例を参考に、それぞれ最も近いものを選んで○をつけてください。＜○印をそれぞれ1つ＞

◎重要度指数が高い基本施策は

- ・「20 危機管理・防災対策の推進」
- ・「19 地域医療体制の充実」
- ・「26 水道水の安定供給と下水道の整備」

◎重要度指数が低い基本施策は

- ・「9 文化の振興と歴史遺産の整備、活用」
- ・「11 共生社会の確立」
- ・「5 ブランド力の強化とシティプロモーションの推進」

■前回調査との比較

重要度指数の上昇幅が大きい基本施策は

- ・「24 公共交通体系と道路網の整備」
- ・「26 水道水の安定供給と下水道の整備」
- ・「1 元気な農林水産業の育成」

■傾向

【性別】男性で重要度指数が最も高い施策は「19 地域医療体制の充実」、女性で重要度指数が最も高い施策は「20 危機管理・防災対策の推進」

【年代別】複数の年代で重要度指数が最も高い施策は「20 危機管理・防災対策の推進」

【居住地区別】複数の居住地区で重要度指数が最も高い施策は

- ・「20 危機管理・防災対策の推進」
- ・「19 地域医療体制の充実」

重要度指数の算出

重要度指数	重要度指数とは、「重要」に4点、「やや重要」に3点、「あまり重要でない」に2点、「重要でない」に1点を加点し、回答人数に掛け、回答総数（無回答数を除く）で除したもので、4に近いほど重要度が高く、1に近いほど重要度が低いことを示している。
-------	--

■重要度順位表（抜粋）

順位	分野	基本施策	重要度指数
1	防災・消防・安全安心	20 危機管理・防災対策の推進	3.70
2	福祉・健康	19 地域医療体制の充実	3.68
3	都市基盤・環境	26 水道水の安定供給と下水道の整備	3.66
4	防災・消防・安全安心	21 消防・救急体制の充実	3.65
5	防災・消防・安全安心	22 市民生活の安全・安心の確保	3.59
27	自治・スポーツ・文化・歴史・共生	7 コミュニティと市民活動の活性化	3.12
28	自治・スポーツ・文化・歴史・共生	8 スポーツの振興	3.08
29	産業・雇用・観光・移住定住	5 ブランド力の強化とシティプロモーションの推進	3.05
30	自治・スポーツ・文化・歴史・共生	11 共生社会の確立	3.05
31	自治・スポーツ・文化・歴史・共生	9 文化の振興と歴史遺産の整備、活用	2.98

■今回調査の結果

- ・重要度指数が高い上位5項目は「20 危機管理・防災対策の推進」(3.70)、「19 地域医療体制の充実」(3.68)、「26 水道水の安定供給と下水道の整備」(3.66)、「21 消防・救急体制の充実」(3.65)、「22 市民生活の安全・安心の確保」(3.59)となっている。
- ・重要度指数が低い上位5項目は「9 文化の振興と歴史遺産の整備、活用」(2.98)、「11 共生社会の確立」(3.05)、「5 ブランド力の強化とシティプロモーションの推進」(3.05)、「8 スポーツの振興」(3.08)、「7 コミュニティと市民活動の活性化」(3.12)となっている。

■前回調査との比較

- ・重要度指数が増加している基本施策は「24 公共交通体系と道路網の整備」(0.07 ポイント)が最も大きく、次いで「26 水道水の安定供給と下水道の整備」(0.06 ポイント)、「1 元気な農林水産業の育成」(0.04 ポイント)などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】
 - ・男性の重要度指数は「19 地域医療体制の充実」(3.59)が最も高く、次いで「20 危機管理・防災対策の推進」(3.59)、「26 水道水の安定供給と下水道の整備」(3.57)などとなっている。
 - ・女性の重要度指数は「20 危機管理・防災対策の推進」(3.79)が最も高く、次いで「26 水道水の安定供給と下水道の整備」(3.74)、「19 地域医療体制の充実」(3.74)などとなっている。
- 【年 代 別】
 - ・30歳未満の重要度指数は「12 子ども・子育て支援の充実」(3.79)が最も高い。
 - ・30歳代、40歳代、60歳代の重要度指数は「20 危機管理・防災対策の推進」が最も高い。
 - ・50歳代の重要度指数は「19 地域医療体制の充実」(3.72)が最も高い。
 - ・70歳以上の重要度指数は「26 水道水の安定供給と下水道の整備」(3.68)が最も高い。
 - ・順位の違いはあるが、すべての年代の重要度指数で「20 危機管理・防災対策の推進」「26 水道水の安定供給と下水道の整備」が上位5項目以内に入っている。
- 【居住地区別】
 - ・見付地区、中泉・今之浦地区、天竜・長野・於保地区、井通地区・青城地区、豊岡地区の重要度指数は「20 危機管理・防災対策の推進」が最も高い。
 - ・岩田・大藤・向笠地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区の重要度指数は「19 地域医療体制の充実」が最も高い。
 - ・西貝・御厨・南御厨・田原地区の重要度指数は「26 水道水の安定供給と下水道の整備」(3.67)が最も高い。
 - ・福田地区の重要度指数は「12 子ども・子育て支援の充実」(3.74)が最も高い。

◎重要度が高く、満足度が低い「重点課題施策」は

- ・「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」
- ・「15 地域福祉の推進」
- ・「16 高齢者福祉の充実」
- ・「17 障がい児者福祉の充実」
- ・「20 危機管理・防災対策の推進」
- ・「24 公共交通体系と道路網の整備」
- ・「30 持続可能な財政基盤の確立」

■傾向

【性別】男女ともに「重点課題施策」である基本施策は

- ・「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」
- ・「24 公共交通体系と道路網の整備」

【年代別】すべての年代で「重点課題施策」である基本施策は「24 公共交通体系と道路網の整備」

【居住地区別】ほとんどの居住地区で「重点課題施策」である基本施策は

- ・「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」
- ・「24 公共交通体系と道路網の整備」

31の基本施策の満足度指数と重要度指数をもとに、横軸に満足度、縦軸に重要度をおき、その分布状況を、散布図として整理した。

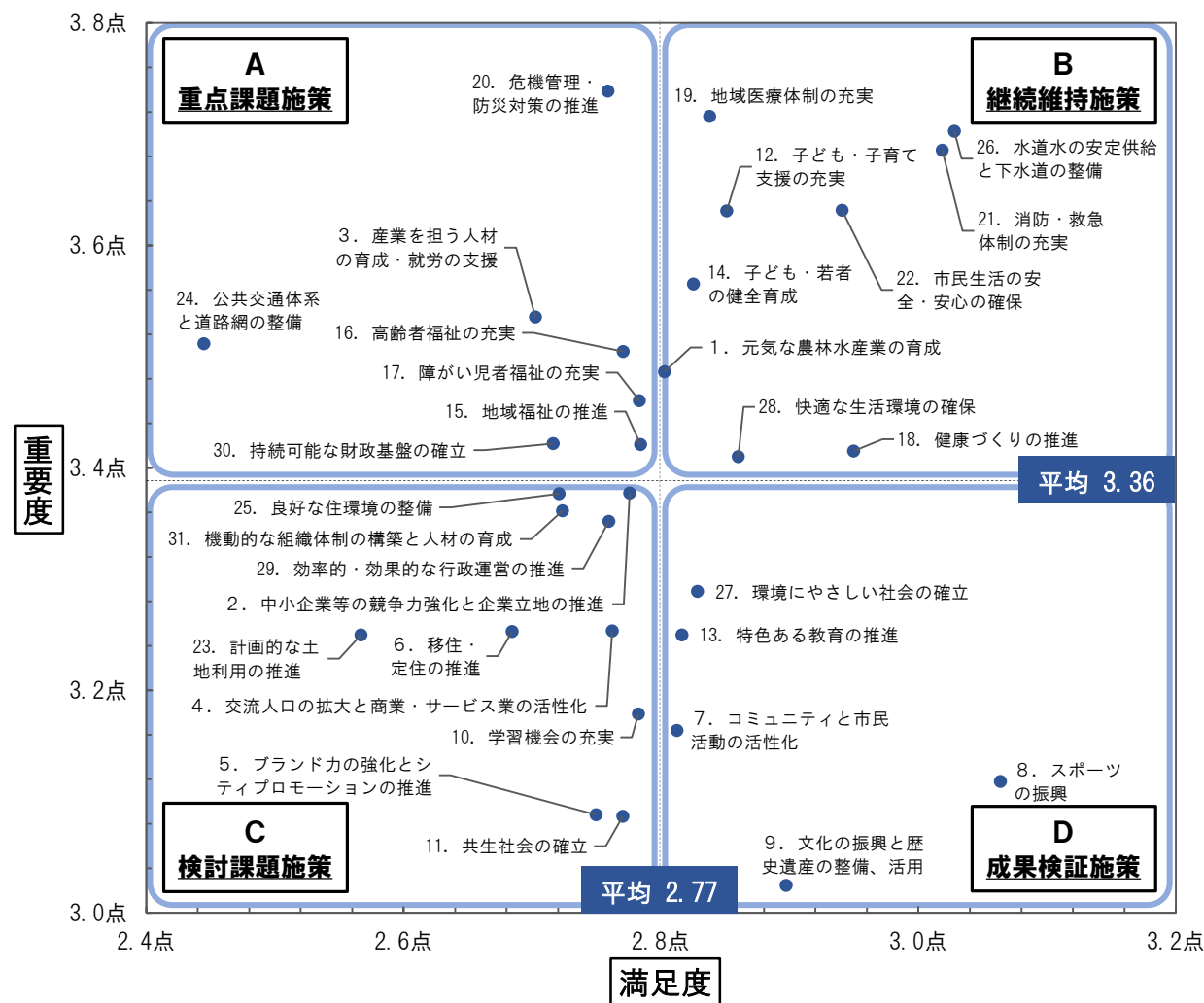
散布図は、各平均値（満足度：2.77、重要度：3.36）を基準（境）とし、下記の4つの領域に分類し、満足度と重要度の関係を示している。

なお、A～Dの領域分類は、あくまで優先度及び重要度の中間値で総体的に分類したものであり、各施策を明確に区分するものではない。

（4つの領域）

区分	領域名	満足度	重要度	内容
A	重点課題施策	低い	高い	これまでの取組みを重点的に改善していく必要のある施策
B	継続維持施策	高い	高い	現在の水準を継続維持するため、今後とも着実に取り組む必要のある施策
C	検討課題施策	低い	低い	これまでの取組みを改善するとともに、施策の重要性を市民に広めていく必要のある施策
D	成果検証施策	高い	低い	これまでの取組みによる成果の検証に基づき、事業のあり方を精査する必要のある施策

■ 散布図（全体）



■ 今回調査の結果

- ・「重点課題施策」は、以下の7施策となっている。
 - 「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」
 - 「15 地域福祉の推進」
 - 「16 高齢者福祉の充実」
 - 「17 障がい児者福祉の充実」
 - 「20 危機管理・防災対策の推進」
 - 「24 公共交通体系と道路網の整備」
 - 「30 持続可能な財政基盤の確立」

■ 傾向

- 【性別】**
- ・男女ともに「重点課題施策」である基本施策は「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」「24 公共交通体系と道路網の整備」となっている。
 - ・男女ともに「継続維持施策」である基本施策は「21 消防・救急体制の充実」「22 市民生活の安全・安心の確保」「26 水道水の安定供給と下水道の整備」となっている。
- 【年代別】**
- ・すべての年代で「重点課題施策」である基本施策は「24 公共交通体系と道路網の整備」となっている。
 - ・すべての年代で「継続維持施策」である基本施策は「21 消防・救急体制の充実」「22 市民生活の安全・安心の確保」「26 水道水の安定供給と下水道の整備」となっている。
- 【居住地区別】**
- ・竜洋地区を除くすべての居住地区で「重点課題施策」である基本施策は「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」、富岡・豊田東・池田地区を除くすべての居住地区で「重点課題施策」である基本施策は「24 公共交通体系と道路網の整備」となっている。
 - ・すべての居住地区で「継続維持施策」である基本施策は「21 消防・救急体制の充実」「26 水道水の安定供給と下水道の整備」となっている。

◎要望度指数が高い基本施策は

- ・「24 公共交通体系と道路網の整備」
- ・「20 危機管理・防災対策の推進」
- ・「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」

■傾向

【性別】男女ともに要望度指数が最も高い基本施策は「24 公共交通体系と道路網の整備」

【年代別】複数の年代で要望度指数が最も高い基本施策は「24 公共交通体系と道路網の整備」

【居住地区別】ほとんどの居住地区で要望度指数が最も高い基本施策は「24 公共交通体系と道路網の整備」

施策の重要度が高く、かつ満足度が低いほど、市民の要望が高い施策と考えられることから、ここでは、31の基本施策の満足度指数と重要度指数をもとに、要望度指数を算出し、整理、分析を行った。

要望度指数は、下記のとおり算出し、重要度が高く、満足度が低いほど、その点数が高くなる指標となっている。

なお、要望度指数は、今後の行政サービス向上、効率的・効果的施策を展開していくための指標として、定義し、点数化したものであり、要望度指数の順位がそのまま施策の優先度等を示すものではない。

$$\text{要望度指数} = \text{重要度指数} \times (5 - \text{満足度指数})$$

■要望度順位表（抜粋）

順位	分野	基本施策	要望度指数
1	都市基盤・環境	24 公共交通体系と道路網の整備	8.97
2	防災・消防・安全安心	20 危機管理・防災対策の推進	8.40
3	産業・雇用・観光・移住定住	3 産業を担う人材の育成・就労の支援	8.14
4	福祉・健康	19 地域医療体制の充実	8.06
5	都市基盤・環境	23 計画的な土地利用の推進	7.91

■今回調査の結果

- ・要望度指数が高い上位5項目は「24 公共交通体系と道路網の整備」(8.97)、「20 危機管理・防災対策の推進」(8.40)、「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」(8.14)、「19 地域医療体制の充実」(8.06)、「23 計画的な土地利用の推進」(7.91)となっている。
- ・分野別にみると、要望度の高い基本施策（上位10項目）の中に、「都市基盤・環境」の基本施策が3項目（「23 計画的な土地利用の推進」、「24 公共交通体系と道路網の整備」、「25 良好な住環境の整備」）入っており、「都市基盤・環境」に係る施策に対する要望が高い。また、「子育て・教育」「福祉・健康」に係る基本施策も2項目ずつ入っている。

■傾向

- 【性別】
- ・男女ともに「24 公共交通体系と道路網の整備」が最も高く、次いで「20 危機管理・防災対策の推進」などとなっている。
 - ・順位の違いはあるが、男女ともに「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」「19 地域医療体制の充実」が上位5項目以内に入っている。
- 【年代別】
- ・30歳未満、50歳代、60歳代、70歳以上は「24 公共交通体系と道路網の整備」が最も高い。
 - ・30歳代は「12 子ども・子育て支援の充実」(9.37)が最も高い。
 - ・40歳代は「20 危機管理・防災対策の推進」(8.73)が最も高い。
- 【居住地区別】
- ・竜洋地区を除くすべての居住地区で「24 公共交通体系と道路網の整備」が最も高い。
 - ・竜洋地区は「16 高齢者福祉の充実」(8.01)が最も高い。

このページは白紙です

(6) 31 の基本施策の取組みのうち、人口減少問題に対して特に重要だと思うもの

問6 全国的な人口減少が進む中、磐田市では、2060年（令和42年）に総人口13万5千人を確保することを目指しています。（※ 2025年3月末人口：16万4,914人）

問5の①から⑩の取組みのうち、人口減少問題に対して特に重要だと思うものはどれですか？5つまで選んで、その取組みの番号を記入してください。

◎人口減少問題に対して特に重要な基本施策は

- ・「12 子ども・子育て支援の充実」 ・「6 移住・定住の推進」
- ・「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」

■前回調査との比較

- ・「1 元気な農林水産業の育成」、「8 スポーツの振興」、「9 文化の振興と歴史遺産の整備、活用」などが増加している
- ・「14 子ども・若者の健全育成」、「13 特色ある教育の推進」、「25 良好な住環境の整備」などが減少している

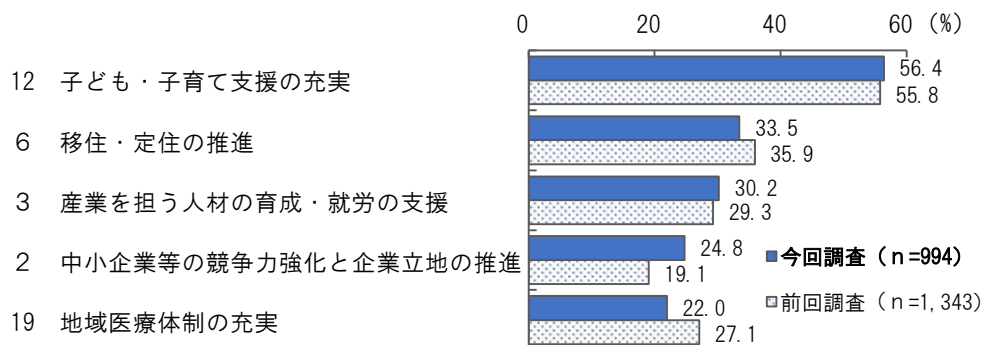
■傾向

【性別】男女ともに「12 子ども・子育て支援の充実」が最も多い

【年代別】すべての年代で「12 子ども・子育て支援の充実」が最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で「12 子ども・子育て支援の充実」が最も多い

上位5項目の抜粋



■今回調査の結果

- ・「12 子ども・子育て支援の充実」(56.4%) が最も多く、次いで「6 移住・定住の推進」(33.5%)、「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」(30.2%) などとなっている。

■前回調査との比較

- ・前回調査で 17 位だった「1 元気な農林水産業の育成」が 9.8 ポイント増加し 8 位、26 位だった「8 スポーツの振興」が 7.4 ポイント増加し 15 位、31 位だった「9 文化の振興と歴史遺産の整備、活用」が 7.0 ポイント増加し 20 位などとなっている。
- ・「14 子ども・若者の健全育成」が 10.7 ポイント、「13 特色ある教育の推進」が 5.5 ポイント、「25 良好な住環境の整備」が 5.4 ポイントなど減少している。

■傾 向

- 【性 別】
- ・順位の違いはあるが、男女ともに上位 4 項目が同じ基本施策となっている。
 - ・男性は「12 子ども・子育て支援の充実」(60.9%) が最も多く、次いで「6 移住・定住の推進」(39.6%)、「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」(30.5%) などとなっている。
 - ・女性は「12 子ども・子育て支援の充実」(52.9%) が最も多く、次いで「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」(30.3%)、「6 移住・定住の推進」(29.9%) などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・すべての年代で「12 子ども・子育て支援の充実」が最も多い。
 - ・30 歳未満、40 歳代、50 歳代、60 歳代は「6 移住・定住の推進」が次に多い。
 - ・30 歳代は「14 子ども・若者の健全育成」(42.2%) が次に多い。
 - ・70 歳以上は「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」(31.3%) が次に多い。
- 【居住地区別】
- ・すべての居住地区で「12 子ども・子育て支援の充実」が最も多い。
 - ・見付地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区は「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」が次に多い。
 - ・中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区、天竜・長野・於保地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区、豊岡地区は「6 移住・定住の推進」が次に多い。
 - ・福田地区は「3 産業を担う人材の育成・就労の支援」「6 移住・定住の推進」(それぞれ 31.8%) が次に多い。

(7) 人口減少対策の一環として、若者のUターンを促進するために有効だと思うもの

問7 人口減少対策の一環として、進学や就職等により県外に転出した若者のUターンを促進するためには、どのような施策が有効だと思いますか？＜○印を3つまで＞

◎若者のUターンを促進するために有効だと思う施策は

- ・「磐田市の企業とのマッチング支援や就職情報の提供」
- ・「若者が希望する職種の企業誘致」
- ・「転居にかかる諸費用や奨学金返済などの経済的な支援」

■傾向

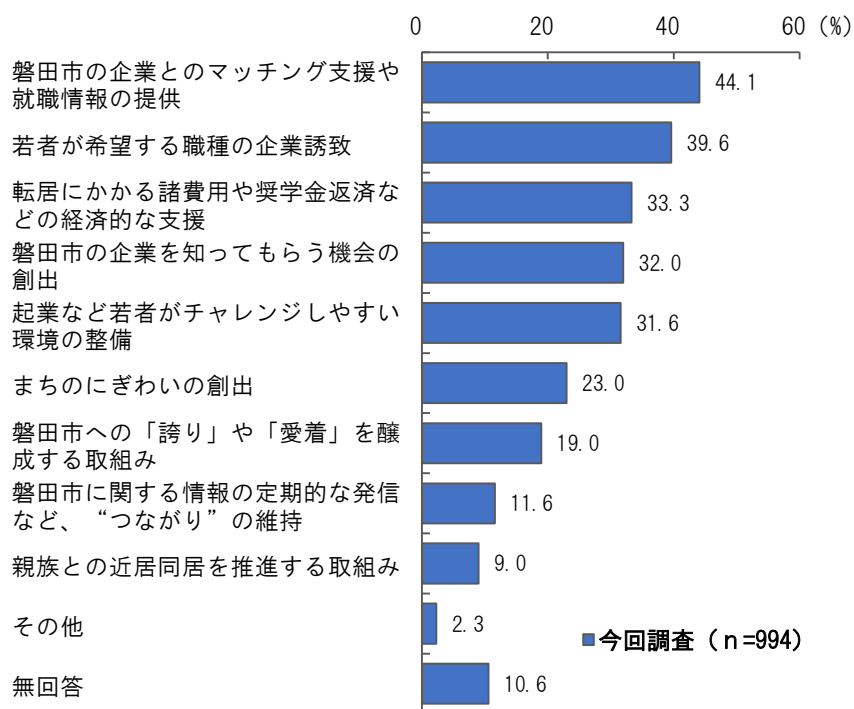
【性別】男女ともに「磐田市の企業とのマッチング支援や就職情報の提供」が最も多い

【年代別】複数の年代で最も多い施策は

- ・「磐田市の企業とのマッチング支援や就職情報の提供」
- ・「転居にかかる諸費用や奨学金返済などの経済的な支援」

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い施策は

- ・「磐田市の企業とのマッチング支援や就職情報の提供」
- ・「若者が希望する職種の企業誘致」



■今回調査の結果

- ・「磐田市の企業とのマッチング支援や就職情報の提供」(44.1%)が最も多く、次いで「若者が希望する職種の企業誘致」(39.6%)、「転居にかかる諸費用や奨学金返済などの経済的な支援」(33.3%)などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】
- ・男性は「磐田市の企業とのマッチング支援や就職情報の提供」(46.8%)が最も多く、次いで「若者が希望する職種の企業誘致」(41.5%)、「転居にかかる諸費用や奨学金返済などの経済的な支援」(32.9%)などとなっている。
 - ・女性は「磐田市の企業とのマッチング支援や就職情報の提供」(42.6%)が最も多く、次いで「若者が希望する職種の企業誘致」(39.4%)、「磐田市の企業を知ってもらう機会の創出」(34.3%)などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・30歳未満、30歳代は「転居にかかる諸費用や奨学金返済などの経済的な支援」が最も多い。
 - ・40歳代、50歳代、70歳以上は「磐田市の企業とのマッチング支援や就職情報の提供」が最も多い。
 - ・60歳代は「若者が希望する職種の企業誘致」(45.3%)が最も多い。
- 【居住地区別】
- ・見付地区、中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区、天竜・長野・於保地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区、豊岡地区は「磐田市の企業とのマッチング支援や就職情報の提供」が最も多い。
 - ・西貝・御厨・南御厨・田原地区、福田地区、井通地区・青城地区は「若者が希望する職種の企業誘致」が最も多い。

2. まちへの想いについて

(1) 磐田市への愛着や親しみ

問8 あなたは磐田市に愛着や親しみを感じていますか？〈○印を1つ〉

◎磐田市に愛着や親しみを『感じている』（「おおいに感じている」＋「少し感じている」）人は8割以上

■前回調査との比較

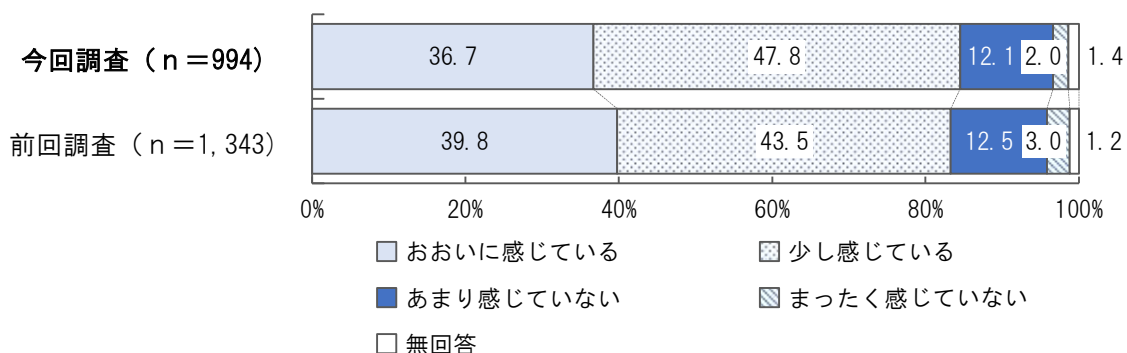
大きな変化はない

■傾向

【性別】「おおいに感じている」は女性において多い

【年代別】年代が上がるにつれ『感じている』が多い

【居住地区別】ほとんどの居住地区で『感じている』が8割以上



■今回調査の結果

- ・『感じている』（「おおいに感じている」＋「少し感じている」）は84.5%、『感じていない』（「あまり感じていない」＋「まったく感じていない」）は14.1%となっている。
- ・「少し感じている」（47.8%）が最も多く、次いで「おおいに感じている」（36.7%）、「あまり感じていない」（12.1%）などとなっている。

■前回調査との比較

- ・大きな変化はない。

■傾向

- 【性別】
 - ・『感じている』は男女ともに85.9%となっている。
 - ・「おおいに感じている」は男性が33.1%、女性が40.9%となっている。
 - ・「少し感じている」は男性が52.8%、女性が45.0%となっている。
- 【年代別】
 - ・すべての年代で『感じている』が7割を超えている。
 - ・年代が上がるにつれ『感じている』が多い。
- 【居住地区別】
 - ・豊岡地区を除くすべての居住地区で『感じている』が8割を超えている。
 - ・『感じている』は天竜・長野・於保地区（90.2%）において最も多く、次いで見付地区（89.4%）、中泉・今之浦地区（86.4%）などとなっている。
 - ・『感じていない』は豊岡地区（22.4%）において最も多く、次いで井通地区・青城地区（16.5%）、福田地区（15.9%）などとなっている。

このページは白紙です

(2) 磐田市が誇れるもの、あるいは磐田市を象徴するもの

問9 磐田市が誇れるもの、あるいは磐田市を象徴するものは何だと思いますか？＜○印を3つまで＞

◎磐田市が誇れるもの、あるいは磐田市を象徴するものは

- ・「自動車、バイク、楽器、繊維業などの産業」
- ・「ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのスポーツ資源」
- ・「メロンやお茶、シラスなどの特産品」

■傾向

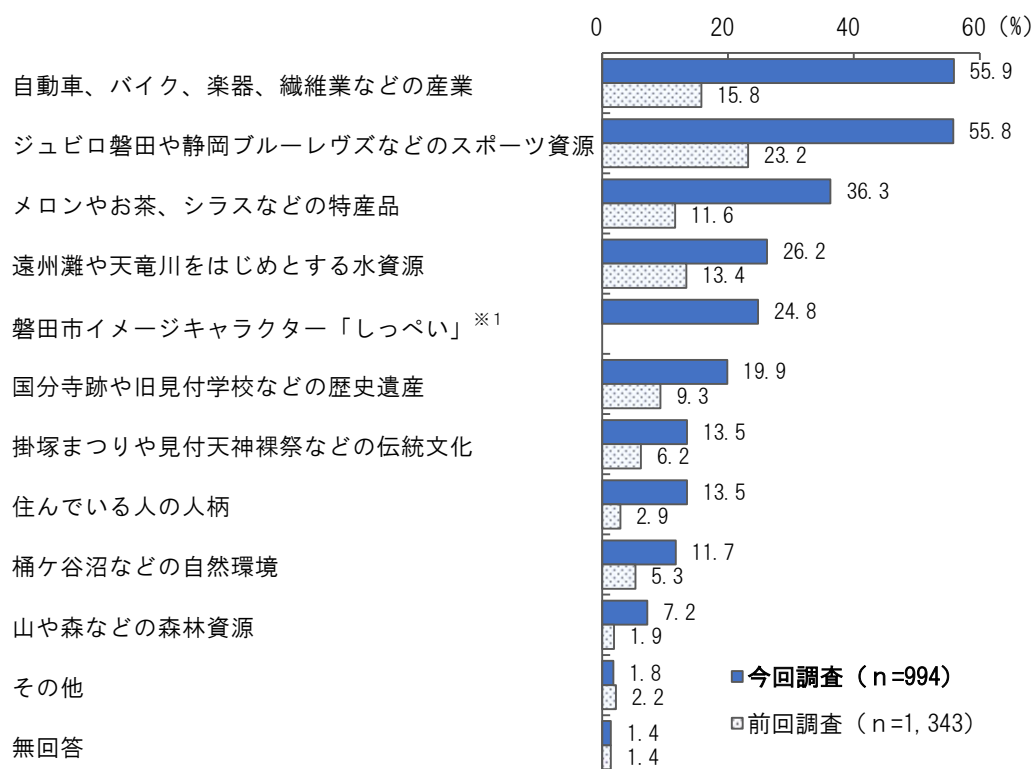
【性別】男性は「自動車、バイク、楽器、繊維業などの産業」、女性は「ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのスポーツ資源」が最も多い

【年代別】複数の年代で最も多い項目は

- ・「自動車、バイク、楽器、繊維業などの産業」
- ・「ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのスポーツ資源」

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い項目は

- ・「自動車、バイク、楽器、繊維業などの産業」
- ・「ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのスポーツ資源」



※1：今回調査のみの選択肢

<参考>

- ・前回調査は1つまで回答可能であり、今回調査と回答数が異なるため、グラフのみの掲載とし、前回調査との比較のコメントは割愛する。
- ・前回調査の選択肢「特になし」(6.9%)は、今回調査にはない。

■今回調査の結果

- ・「自動車、バイク、楽器、繊維業などの産業」(55.9%) が最も多く、次いで「ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのスポーツ資源」(55.8%)、「メロンやお茶、シラスなどの特産品」(36.3%) などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】
- ・男性は「自動車、バイク、楽器、繊維業などの産業」(57.6%) が最も多く、次いで「ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのスポーツ資源」(54.7%)、「遠州灘や天竜川をはじめとする水資源」(30.2%) などとなっている。
 - ・女性は「ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのスポーツ資源」(57.8%) が最も多く、次いで「自動車、バイク、楽器、繊維業などの産業」(55.9%)、「メロンやお茶、シラスなどの特産品」(42.4%) などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・30 歳未満、30 歳代、40 歳代、50 歳代は「ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのスポーツ資源」が最も多い。
 - ・60 歳代、70 歳以上は「自動車、バイク、楽器、繊維業などの産業」が最も多い。
- 【居住地区別】
- ・見付地区、岩田・大藤・向笠地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、竜洋地区は「ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのスポーツ資源」が最も多い。
 - ・中泉・今之浦地区、天竜・長野・於保地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区、豊岡地区は「自動車、バイク、楽器、繊維業などの産業」が最も多い。
 - ・福田地区は「自動車、バイク、楽器、繊維業などの産業」「メロンやお茶、シラスなどの特産品」(それぞれ 55.7%) が最も多い。

(3) 磐田市での居住継続意向

問 10 これからも磐田市に住みたいと思いますか？＜○印を1つ＞

◎磐田市に『住みたい』（「ずっと住みたい」＋「当分の間、住みたい」）人は9割以上

■前回調査との比較

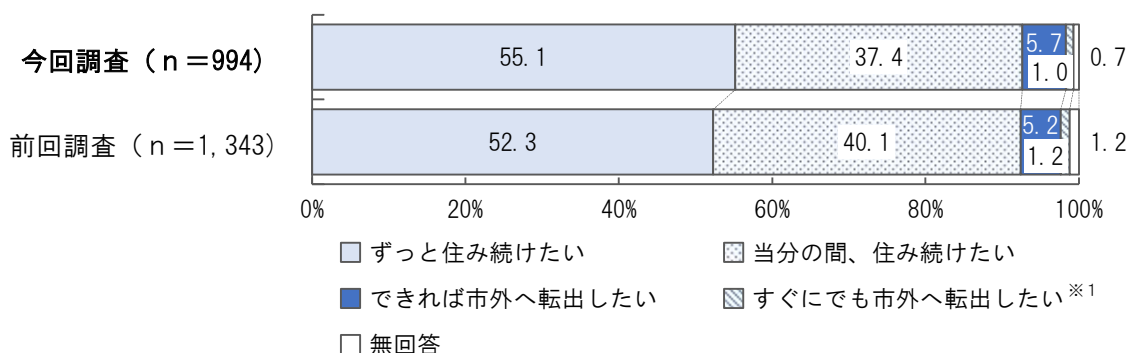
大きな変化はない

■傾向

【性別】「ずっと住みたい」は女性において多い

【年代別】『住みたい』は70歳以上において最も多く、『市外へ転出したい』は30歳未満において最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で『住みたい』が8割以上



■今回調査の結果

- ・『住みたい』（「ずっと住みたい」＋「当分の間、住みたい」）は92.6%、『市外へ転出したい』（「できれば市外へ転出したい」＋「すぐにでも市外へ転出したい」）は6.7%となっている。
- ・「ずっと住みたい」（55.1%）が最も多く、次いで「当分の間、住みたい」（37.4%）、「できれば市外へ転出したい」（5.7%）などとなっている。

■前回調査との比較

- ・大きな変化はない。

■傾向

- 【性別】
- ・『住みたい』は男性が92.8%、女性が93.2%となっている。
 - ・「ずっと住みたい」は男性が50.1%、女性が59.9%となっている。
 - ・「当分の間、住みたい」は男性が42.7%、女性が33.3%となっている。
- 【年代別】
- ・30歳未満を除くすべての年代で『住みたい』が8割を超えている。
 - ・『住みたい』は70歳以上（97.6%）において最も多く、次いで50歳代（93.0%）、30歳代（92.2%）などとなっている。
 - ・『市外へ転出したい』は30歳未満（18.8%）において最も多く、次いで60歳代（10.3%）、40歳代（9.6%）などとなっている。
- 【居住地区別】
- ・すべての居住地区で『住みたい』が8割を超えている。
 - ・『住みたい』は豊岡地区（96.6%）において最も多く、次いで井通地区・青城地区（96.1%）、天竜・長野・於保地区（94.6%）などとなっている。
 - ・『市外へ転出したい』は西貝・御厨・南御厨・田原地区（12.0%）において最も多く、次いで福田地区（11.4%）、岩田・大藤・向笠地区（9.3%）などとなっている。

(4) 磐田市の暮らしやすさ

問 11 磐田市は暮らしやすいと思いますか？＜○印を 1 つ＞

◎磐田市が『暮らしやすい』（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）と思う人は8割以上

■前回調査との比較

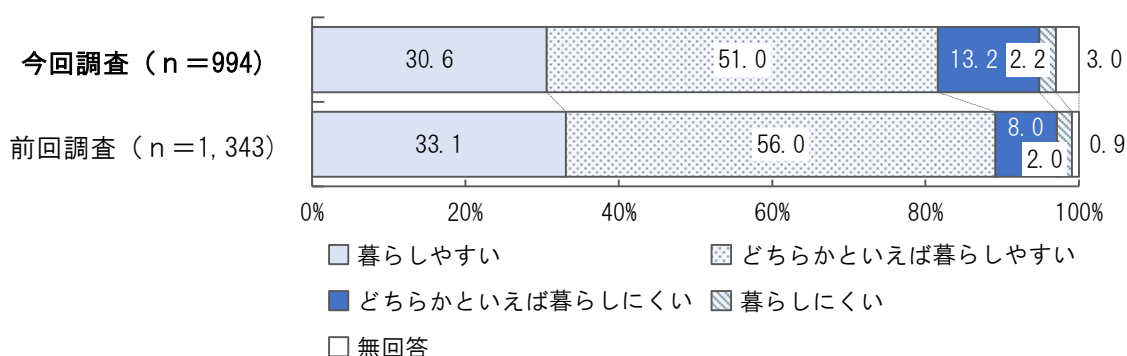
『暮らしにくい』が増加している

■傾向

【性 別】大きな差はない

【年 代 別】『暮らしやすい』は 30 歳代において最も多く、『暮らしにくい』は 60 歳代において最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で『暮らしやすい』が7割以上



■今回調査の結果

- ・『暮らしやすい』（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」）は 81.6%、『暮らしにくい』（「どちらかといえば暮らしにくい」＋「暮らしにくい」）は 15.4%となっている。
- ・「どちらかといえば暮らしやすい」（51.0%）が最も多く、次いで「暮らしやすい」（30.6%）、「どちらかといえば暮らしにくい」（13.2%）などとなっている。

■前回調査との比較

- ・『暮らしにくい』が 5.4 ポイント増加し、『暮らしやすい』が 7.5 ポイント減少している。
- ・「どちらかといえば暮らしにくい」が 5.2 ポイント増加し、「どちらかといえば暮らしやすい」が 5.0 ポイント減少している。

■傾向

【性 別】 ・大きな差はない。

・『暮らしやすい』は男性が 84.4%、女性が 80.4%となっている。

【年 代 別】 ・60 歳代を除くすべての年代で『暮らしやすい』が 8 割を超えている。

・『暮らしやすい』は 30 歳代 (88.9%) において最も多く、次いで 30 歳未満 (87.5%)、50 歳代 (82.0%) などとなっている。

・『暮らしにくい』は 60 歳代 (19.7%) において最も多く、次いで 40 歳代 (16.8%)、50 歳代 (16.3%) などとなっている。

【居住地区別】 ・すべての居住地区で『暮らしやすい』が 7 割を超えている。

・『暮らしやすい』は中泉・今之浦地区 (87.1%) において最も多く、次いで井通地区・青城地区 (86.4%)、見付地区 (86.3%) などとなっている。

・『暮らしにくい』は福田地区 (23.9%) において最も多く、次いで竜洋地区 (22.2%)、豊岡地区 (20.7%) などとなっている。

(5) 磐田市の暮らしやすいところ

問11で「暮らしやすい」又は「どちらかといえば暮らしやすい」と回答した方のみ

問12 あなたが思う、磐田市の「暮らしやすい」ところはどこですか？＜○印を3つまで＞

◎磐田市の暮らしやすいところは

- ・「住まいの環境が良好」
- ・「上下水道が整備されている」
- ・「医療サービスが充実している」

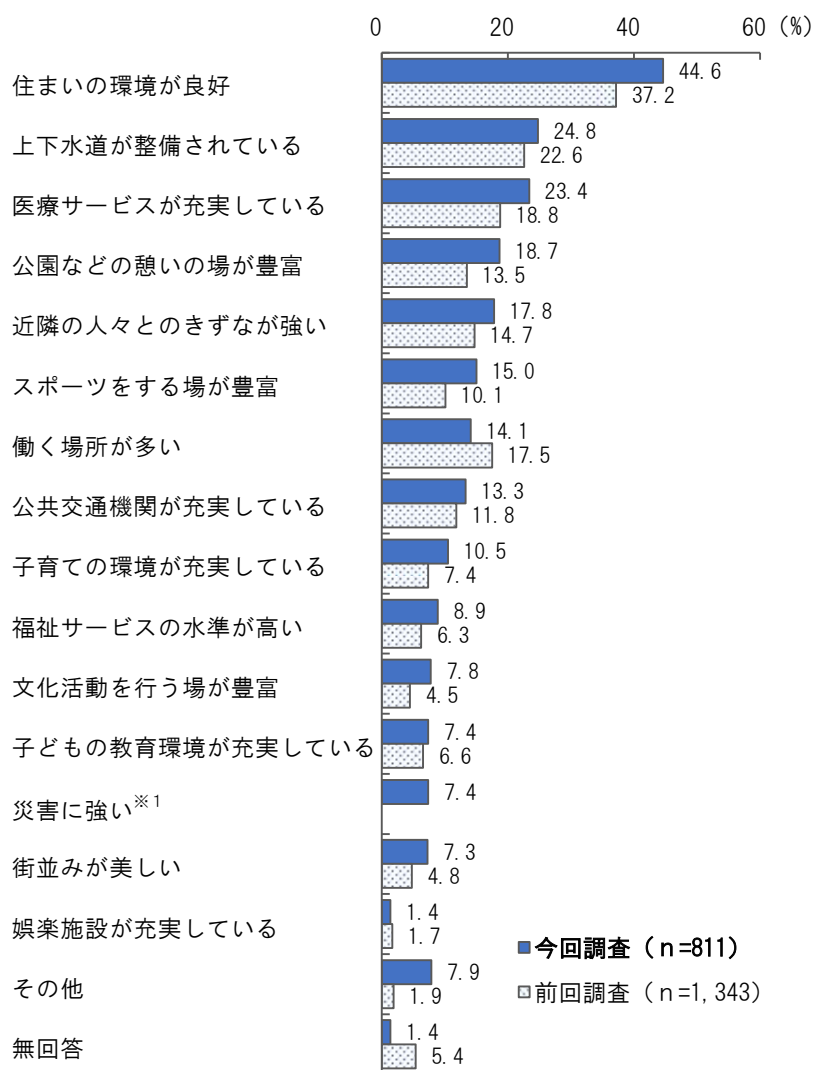
■傾向

【性別】男女ともに「住まいの環境が良好」が最も多い

【年代別】すべての年代で「住まいの環境が良好」が最も多い

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い項目は

- ・「住まいの環境が良好」
- ・「上下水道が整備されている」



※1：今回調査のみの選択肢

＜参考＞

- ・前回調査は回答の対象者が全員であり、今回調査と回答の対象者が異なるため、グラフのみの掲載とし、前回調査との比較のコメントは割愛する。
- ・前回調査の選択肢「災害が少ない」(51.7%)、「公害が少ない」(30.0%)は、今回調査にはない。

■今回調査の結果

- ・「住まいの環境が良好」(44.6%) が最も多く、次いで「上下水道が整備されている」(24.8%)、「医療サービスが充実している」(23.4%) などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】
- ・男性は「住まいの環境が良好」(43.2%) が最も多く、次いで「上下水道が整備されている」(29.3%)、「医療サービスが充実している」(26.1%) などとなっている。
 - ・女性は「住まいの環境が良好」(46.8%) が最も多く、次いで「近隣の人々とのきずなが強い」(22.2%)、「上下水道が整備されている」「医療サービスが充実している」(それぞれ 21.1%) などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・すべての年代で「住まいの環境が良好」が最も多い。
 - ・30 歳未満は「スポーツをする場が豊富」(31.0%) が次に多い。
 - ・30 歳代は「公園などの憩いの場が豊富」(27.5%) が次に多い。
 - ・40 歳代は「スポーツをする場が豊富」「子育ての環境が充実している」(それぞれ 22.8%) が次に多い。
 - ・50 歳代は「上下水道が整備されている」「公園などの憩いの場が豊富」(それぞれ 21.3%) が次に多い。
 - ・60 歳代、70 歳以上は「上下水道が整備されている」が次に多い。
- 【居住地区別】
- ・見付地区、中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、天竜・長野・於保地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区、豊岡地区は「住まいの環境が良好」が最も多い。
 - ・福田地区は「住まいの環境が良好」「上下水道が整備されている」「近隣の人々とのきずなが強い」(それぞれ 32.3%) が最も多い。
 - ・竜洋地区は「上下水道が整備されている」(36.9%) が最も多い。

(6) 磐田市の暮らしにくいところ

問11で「どちらかといえば暮らしにくい」又は「暮らしにくい」と回答した方のみ

問13 あなたが思う、磐田市の「暮らしにくい」ところはどこですか？＜○印を3つまで＞

◎磐田市の暮らしにくいところは

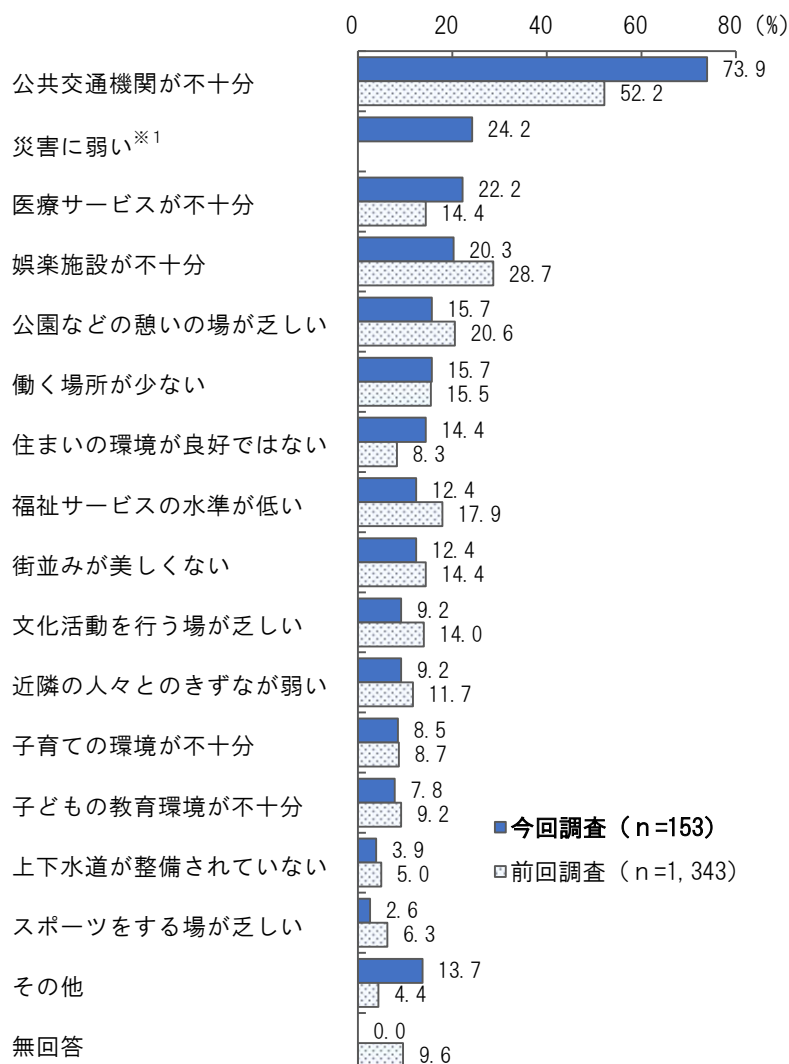
- ・「公共交通機関が不十分」 ・「災害に弱い」 ・「医療サービスが不十分」

■傾向

【性別】男女ともに「公共交通機関が不十分」が最も多い

【年代別】すべての年代で「公共交通機関が不十分」が最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で「公共交通機関が不十分」が最も多い



※1：今回調査のみの選択肢

<参考>

- ・前回調査は回答の対象者が全員であり、今回調査と回答の対象者が異なるため、グラフのみの掲載とし、前回調査との比較のコメントは割愛する。
- ・前回調査の選択肢「災害が多い」(3.5%)、「公害が多い」(1.0%)は、今回調査にはない。

■今回調査の結果

- ・「公共交通機関が不十分」(73.9%)が最も多く、次いで「災害に弱い」(24.2%)、「医療サービスが不十分」(22.2%)などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】
- ・男性は「公共交通機関が不十分」(72.4%)が最も多く、次いで「災害に弱い」(20.7%)、「娯楽施設が不十分」(19.0%)などとなっている。
 - ・女性は「公共交通機関が不十分」(74.4%)が最も多く、次いで「災害に弱い」「医療サービスが不十分」(それぞれ25.6%)などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・すべての年代で「公共交通機関が不十分」が最も多い。
 - ・30歳未満、40歳代は「娯楽施設が不十分」が次に多い。
 - ・30歳代は「災害に弱い」「娯楽施設が不十分」「公園などの憩いの場が乏しい」など(それぞれ33.3%)が次に多い。
 - ・50歳代、60歳代は「災害に弱い」が次に多い。
 - ・70歳以上は「医療サービスが不十分」(28.6%)が次に多い。
- 【居住地区別】
- ・すべての居住地区で「公共交通機関が不十分」が最も多い。
 - ・見付地区は「娯楽施設が不十分」「街並みが美しくない」(それぞれ25.0%)が次に多い。
 - ・中泉・今之浦地区、豊岡地区は「災害に弱い」が次に多い。
 - ・岩田・大藤・向笠地区は「働く場所が少ない」「文化活動を行う場が乏しい」「子育ての環境が不十分」(それぞれ33.3%)が次に多い。
 - ・西貝・御厨・南御厨・田原地区は「娯楽施設が不十分」「住まいの環境が良好ではない」(それぞれ23.8%)が次に多い。
 - ・天竜・長野・於保地区、福田地区は「災害に弱い」「医療サービスが不十分」「公園などの憩いの場が乏しい」が次に多い。
 - ・竜洋地区は「娯楽施設が不十分」(35.0%)が次に多い。
 - ・富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区は「医療サービスが不十分」が次に多い。

3. コミュニティについて

(1) 参加している地域活動

問14 あなたはどのような地域活動に参加していますか？＜該当するものすべてに○印＞

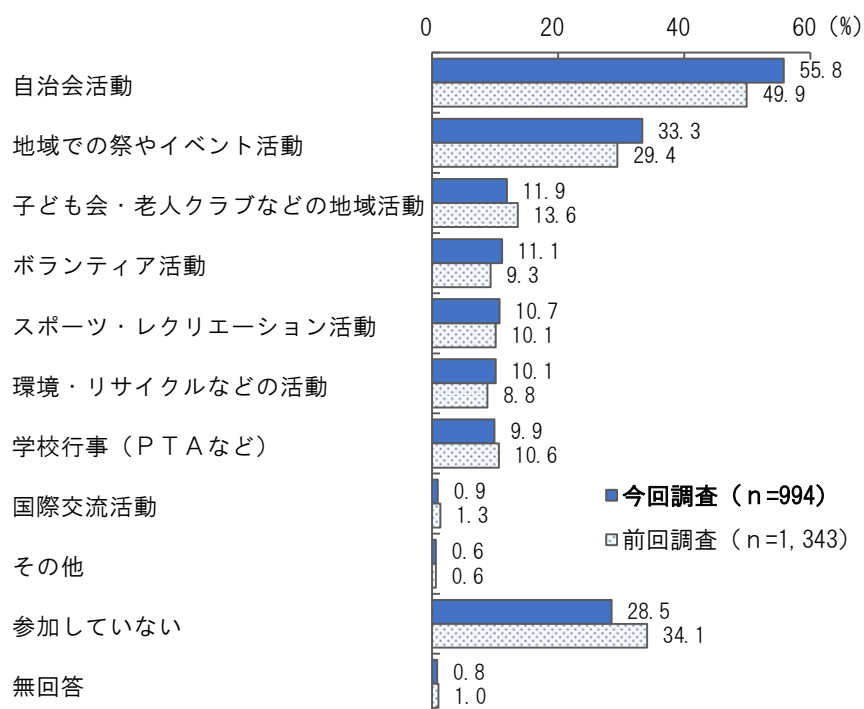
◎『何らかの地域活動に参加している』（「参加していない」「無回答」を除く）人は7割以上

■前回調査との比較

- ・『何らかの地域活動に参加している』が増加している
- ・活動内容は、「自治会活動」が増加している

■傾向

- 【性別】『何らかの地域活動に参加している』は女性において多い
- 【年代別】年代が上がるにつれ『何らかの地域活動に参加している』が多い
- 【居住地区別】活動内容は、すべての居住地区で「自治会活動」が最も多い



■今回調査の結果

- ・『何らかの地域活動に参加している』（「参加していない」「無回答」を除く）は70.7%となっている。
- ・活動内容は「自治会活動」（55.8%）が最も多く、次いで「地域での祭やイベント活動」（33.3%）、「子ども会・老人クラブなどの地域活動」（11.9%）などとなっている。

■前回調査との比較

- ・『何らかの地域活動に参加している』が5.8ポイント増加している。
- ・活動内容は、前回調査から引き続き1位の「自治会活動」が5.9ポイント増加している。
- ・「参加していない」が5.6ポイント減少している。

■傾 向

- 【性 別】
 - ・『何らかの地域活動に参加している』は男性が67.1%、女性が75.0%となっている。
 - ・活動内容は、男性は「自治会活動」（55.2%）が最も多く、次いで「地域での祭やイベント活動」（35.3%）、「ボランティア活動」（11.8%）などとなっている。
 - ・女性は「自治会活動」（55.6%）が最も多く、次いで「地域での祭やイベント活動」（31.5%）、「子ども会・老人クラブなどの地域活動」（15.1%）などとなっている。
- 【年 代 別】
 - ・年代が上がるにつれ『何らかの地域活動に参加している』が多い。
 - ・活動内容は、30歳未満は「地域での祭やイベント活動」（12.5%）が最も多い。
 - ・30歳未満を除くすべての年代で「自治会活動」が最も多い。
- 【居住地区別】
 - ・『何らかの地域活動に参加している』は竜洋地区（81.1%）において最も多く、中泉・今之浦地区（59.2%）において最も少ない。
 - ・活動内容は、すべての居住地区で「自治会活動」が最も多く、次いで「地域での祭やイベント活動」などとなっている。

(2) 地域活動に参加する理由

問14で『地域活動に参加している』（「参加していない」「無回答」を除く）と回答した方のみ

問15 あなたが、地域活動に参加する理由は何ですか？＜該当するものすべてに○印＞

◎地域活動に参加する理由は

- ・「順番がまわってきたから」
- ・「参加者同士の交流ができるから」
- ・「地域や住民の役に立つことができるから」

■前回調査との比較

「順番がまわってきたから」が増加している

■傾向

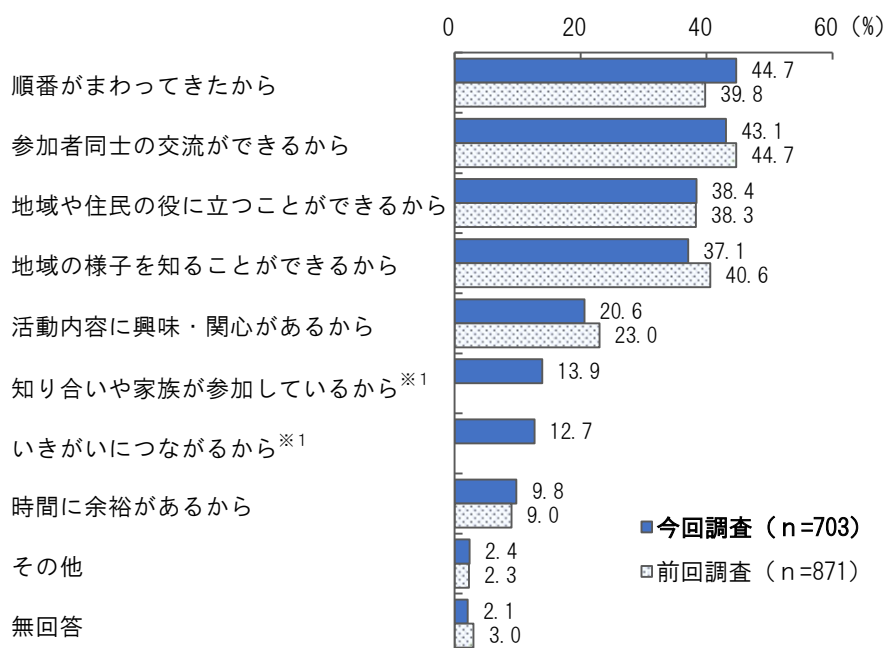
【性別】男性は「地域や住民の役に立つことができるから」、女性は「参加者同士の交流ができるから」が最も多い

【年代別】複数の年代で最も多い理由は

- ・「順番がまわってきたから」
- ・「参加者同士の交流ができるから」

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い理由は

- ・「順番がまわってきたから」
- ・「参加者同士の交流ができるから」



※1：今回調査のみの選択肢

＜参考＞

・前回調査の選択肢「災害などの緊急の際に助かるから」（21.7%）、「家族が参加しているから」（7.8%）、「知り合いに誘われたから」（6.8%）は、今回調査にはない。

■今回調査の結果

- ・「順番がまわってきたから」(44.7%)が最も多く、次いで「参加者同士の交流ができるから」(43.1%)、「地域や住民の役に立つことができるから」(38.4%)などとなっている。

■前回調査との比較

- ・前回調査で3位だった「順番がまわってきたから」が4.9ポイント増加し1位となっている。

■傾 向

- 【性 別】
 - ・男性は「地域や住民の役に立つことができるから」(47.5%)が最も多く、次いで「順番がまわってきたから」(46.8%)、「参加者同士の交流ができるから」(41.4%)などとなっている。
 - ・女性は「参加者同士の交流ができるから」(45.0%)が最も多く、次いで「順番がまわってきたから」(42.6%)、「地域の様子を知ることができるから」(38.0%)などとなっている。
- 【年 代 別】
 - ・30歳未満は「順番がまわってきたから」「参加者同士の交流ができるから」(それぞれ29.4%)が最も多い。
 - ・30歳代、40歳代、50歳代、60歳代は「順番がまわってきたから」が最も多い。
 - ・70歳以上は「参加者同士の交流ができるから」(57.6%)が最も多い。
- 【居住地区別】
 - ・見付地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、天竜・長野・於保地区は「順番がまわってきたから」が最も多い。
 - ・中泉・今之浦地区、竜洋地区、井通地区・青城地区は「参加者同士の交流ができるから」が最も多い。
 - ・岩田・大藤・向笠地区、福田地区、富岡・豊田東・池田地区は「順番がまわってきたから」「参加者同士の交流ができるから」が最も多い。
 - ・豊岡地区は「地域や住民の役に立つことができるから」(59.6%)が最も多い。

(3) 地域活動に参加していない主な理由

問14で「参加していない」と回答した方のみ

問16 あなたが、地域活動に参加していない主な理由は何ですか？〈○印を1つ〉

◎地域活動に参加していない主な理由として最も多いものは
「仕事等が忙しく参加する時間がないから」

■前回調査との比較

「活動の必要性を感じていないから」が増加している

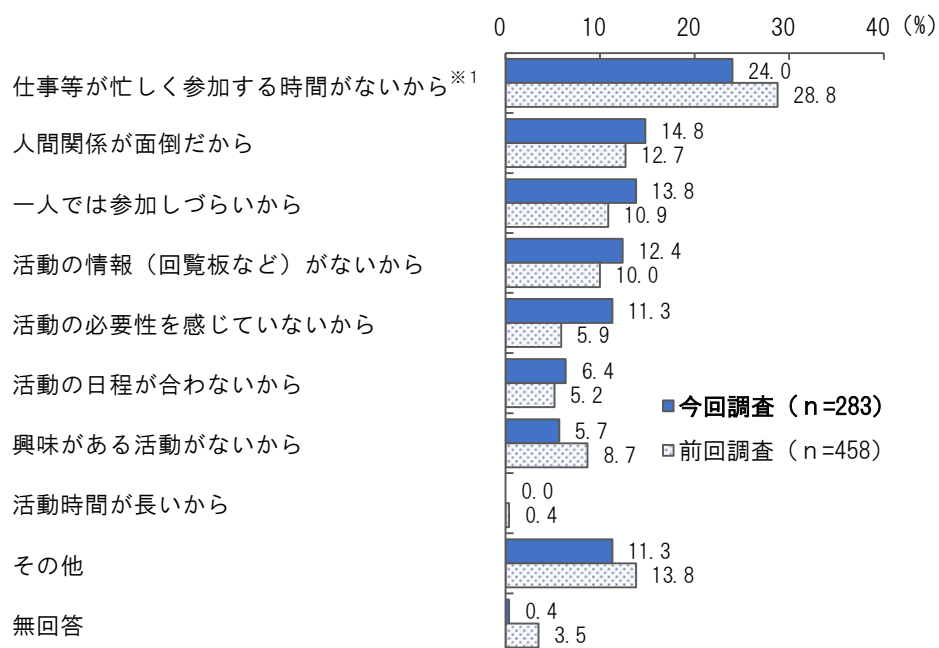
■傾向

【性別】男女ともに「仕事等が忙しく参加する時間がないから」が最も多い

【年代別】複数の年代で「仕事等が忙しく参加する時間がないから」が最も多い

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い理由は

・「仕事等が忙しく参加する時間がないから」 ・「人間関係が面倒だから」



※1：前回調査は「仕事をしているため参加する時間がないから」であった

■今回調査の結果

- ・「仕事等が忙しく参加する時間がないから」(24.0%)が最も多く、次いで「人間関係が面倒だから」(14.8%)、「一人では参加しづらいから」(13.8%)などとなっている。

■前回調査との比較

- ・前回調査で6位だった「活動の必要性を感じていないから」が5.4ポイント増加し5位となっている。

■傾 向

- 【性 別】 ・男女ともに「仕事等が忙しく参加する時間がないから」が最も多く、次いで「人間関係が面倒だから」「一人では参加しづらいから」などとなっている。
- 【年 代 別】 ・30歳未満は「活動の情報(回覧板など)がないから」(26.7%)が最も多い。
・30歳代、40歳代、50歳代、60歳代は「仕事等が忙しく参加する時間がないから」が最も多い。
・70歳以上は「活動の必要性を感じていないから」(19.7%)が最も多い。
- 【居住地区別】 ・見付地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、福田地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区は「仕事等が忙しく参加する時間がないから」が最も多い。
・中泉・今之浦地区、井通地区・青城地区、豊岡地区は「人間関係が面倒だから」が最も多い。
・岩田・大藤・向笠地区は「人間関係が面倒だから」「活動の必要性を感じていないから」(それぞれ18.2%)が最も多い。
・天竜・長野・於保地区は「一人では参加しづらいから」(32.3%)が最も多い。

(4) 地域活動をより活発にするための支援策として、特に優先すべきもの

問17 地域活動をより活発にするための支援策として、特に優先すべきものは何だと思いますか？

<○印を3つまで>

◎地域活動をより活発にするための支援策として、特に優先すべきものは

- ・「活動機会の情報提供の充実」
- ・「活動に対する補助金・助成金支援」
- ・「相談窓口の充実」

■傾向

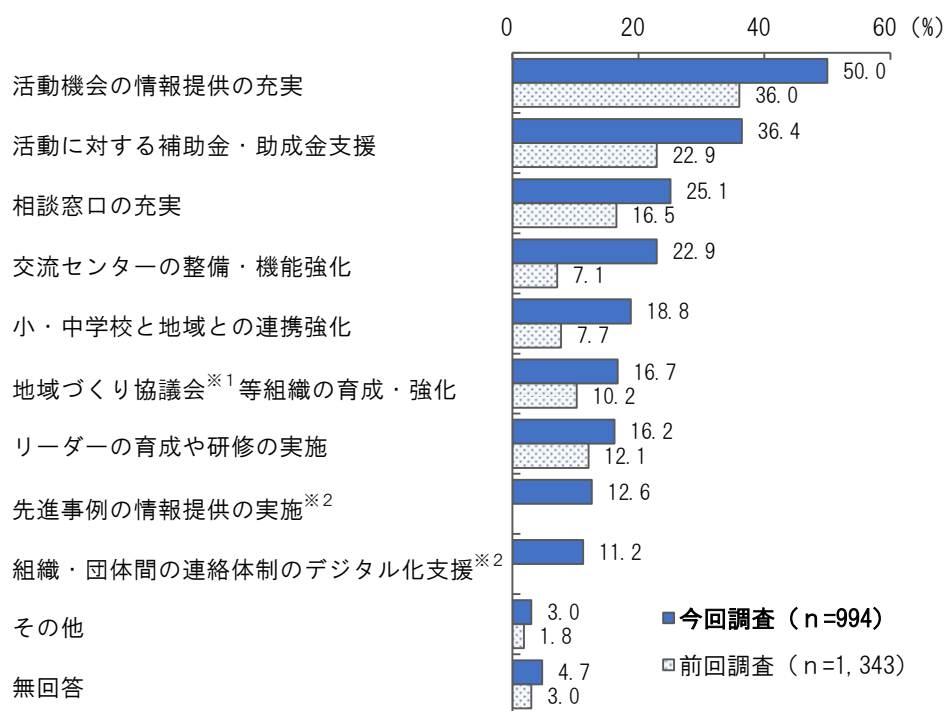
【性別】男女ともに「活動機会の情報提供の充実」が最も多い

【年代別】複数の年代で最も多い項目は

- ・「活動機会の情報提供の充実」
- ・「活動に対する補助金・助成金支援」

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い項目は

- ・「活動機会の情報提供の充実」
- ・「活動に対する補助金・助成金支援」



※1：地域の連携体制や団体・活動の見直しなど、地域課題への対応策を考える組織

※2：今回調査のみの選択肢

<参考>

- ・前回調査は2つまで回答可能であり、今回調査と回答数が異なるため、グラフのみの掲載とし、前回調査との比較のコメントは割愛する。
- ・前回調査の選択肢「交流センターの使いやすさ」(17.0%)、「組織・団体をつなぐ連絡体制」(11.5%)、「わからない」(15.0%)は、今回調査にはない。

■今回調査の結果

- ・「活動機会の情報提供の充実」(50.0%)が最も多く、次いで「活動に対する補助金・助成金支援」(36.4%)、「相談窓口の充実」(25.1%)などとなっている。

■傾 向

- 【性別】 ・男女ともに「活動機会の情報提供の充実」が最も多く、次いで「活動に対する補助金・助成金支援」、「相談窓口の充実」などとなっている。
- 【年代別】 ・30歳未満、50歳代、60歳代、70歳以上は「活動機会の情報提供の充実」が最も多い。
・30歳代、40歳代は「活動に対する補助金・助成金支援」が最も多い。
- 【居住地区別】 ・見付地区、中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、天竜・長野・於保地区、福田地区、竜洋地区、井通地区・青城地区は「活動機会の情報提供の充実」が最も多い。
・富岡・豊田東・池田地区、豊岡地区は「活動に対する補助金・助成金支援」が最も多い。

4. 産業（商業・工業・農林水産業）について

（１）今後、市内の産業をさらに活性化するために、特に優先すべきもの

問18 今後、市内の産業をさらに活性化するために、特に優先すべきものは何だと思いますか？

＜○印を3つまで＞

◎今後、市内の産業をさらに活性化するために、特に優先すべきものは

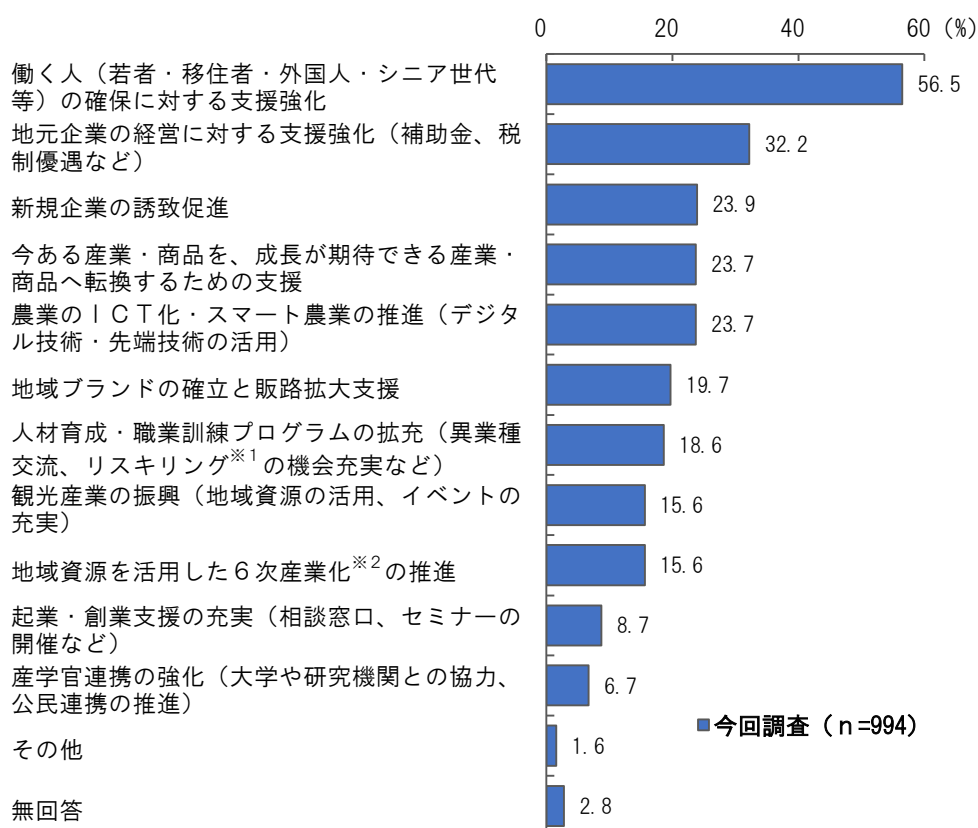
- ・「働く人（若者・移住者・外国人・シニア世代等）の確保に対する支援強化」
- ・「地元企業の経営に対する支援強化（補助金、税制優遇など）」 ・「新規企業の誘致促進」

■傾向

【性別】男女ともに「働く人（若者・移住者・外国人・シニア世代等）の確保に対する支援強化」が最も多い

【年代別】すべての年代で「働く人（若者・移住者・外国人・シニア世代等）の確保に対する支援強化」が最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で「働く人（若者・移住者・外国人・シニア世代等）の確保に対する支援強化」が最も多い



※1：新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適應するために、必要なスキルを獲得すること

※2：生産（第1次）、食品加工（第2次）、流通・販売（第3次）にも生産者が主体的・総合体に関わることで高付加価値化を図る経営方法

■今回調査の結果

- ・「働く人（若者・移住者・外国人・シニア世代等）の確保に対する支援強化」（56.5%）が最も多く、次いで「地元企業の経営に対する支援強化（補助金、税制優遇など）」（32.2%）、「新規企業の誘致促進」（23.9%）などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】**
- ・男性は「働く人（若者・移住者・外国人・シニア世代等）の確保に対する支援強化」（54.4%）が最も多く、次いで「地元企業の経営に対する支援強化（補助金、税制優遇など）」（33.6%）、「新規企業の誘致促進」（28.8%）などとなっている。
 - ・女性は「働く人（若者・移住者・外国人・シニア世代等）の確保に対する支援強化」（58.4%）が最も多く、次いで「地元企業の経営に対する支援強化（補助金、税制優遇など）」（30.7%）、「今ある産業・商品を、成長が期待できる産業・商品へ転換するための支援」（23.7%）などとなっている。
- 【年 代 別】**
- ・すべての年代で「働く人（若者・移住者・外国人・シニア世代等）の確保に対する支援強化」が最も多い。
 - ・30歳未満、30歳代、40歳代、60歳代、70歳以上は「地元企業の経営に対する支援強化（補助金、税制優遇など）」が次に多い。
 - ・50歳代は「農業のICT化・スマート農業の推進（デジタル技術・先端技術の活用）」（30.8%）が次に多い。
- 【居住地区別】**
- ・すべての居住地区で「働く人（若者・移住者・外国人・シニア世代等）の確保に対する支援強化」が最も多い。
 - ・見付地区、中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区、天竜・長野・於保地区、福田地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区、豊岡地区は「地元企業の経営に対する支援強化（補助金、税制優遇など）」が次に多い。
 - ・西貝・御厨・南御厨・田原地区は「今ある産業・商品を、成長が期待できる産業・商品へ転換するための支援」（28.2%）が次に多い。
 - ・井通地区・青城地区は「新規企業の誘致促進」（30.1%）が次に多い。

5. 福祉について

(1) 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、特に優先すべきもの

問19 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、特に優先すべきものは何だと思いますか？
 <○印を3つまで>

◎誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、特に優先すべきものは

- ・「医療・介護・予防・住まい・生活支援についての身近な相談窓口の充実」
- ・「公共交通など移動手段の確保」
- ・「認知症や独居高齢者の支援拡充（早期発見・早期対応、在宅介護、家族支援など）」

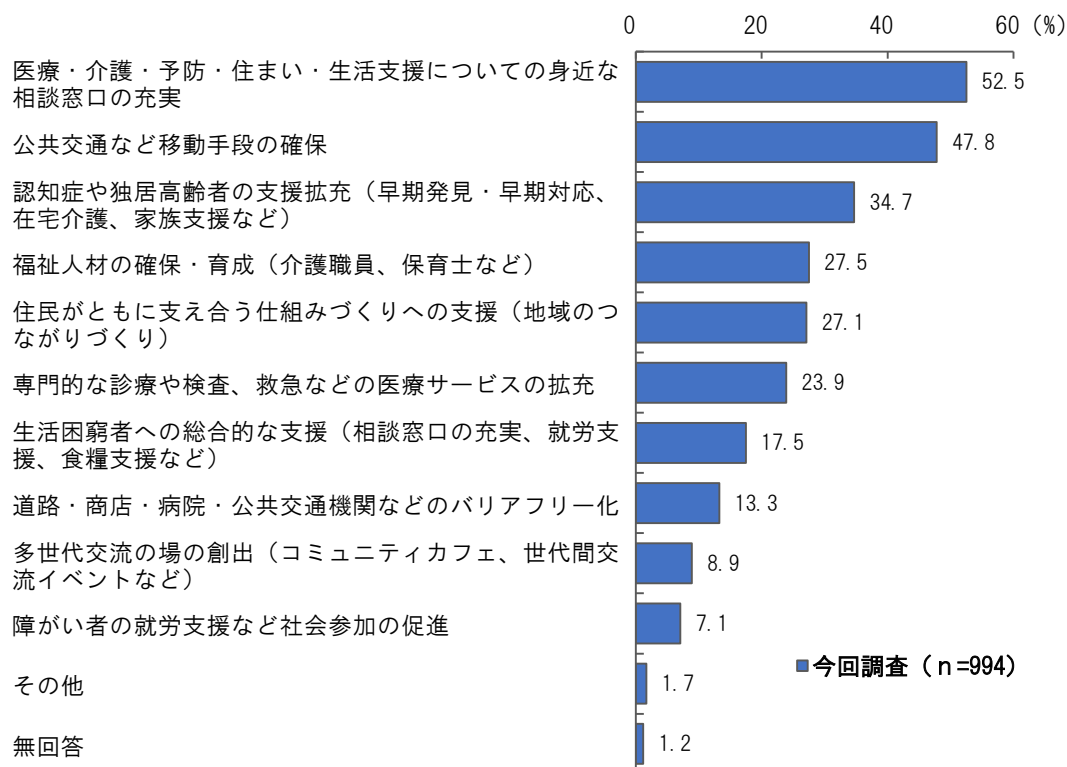
■傾向

【性別】男女ともに「医療・介護・予防・住まい・生活支援についての身近な相談窓口の充実」が最も多い

【年代別】すべての年代で「医療・介護・予防・住まい・生活支援についての身近な相談窓口の充実」が最も多い

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い項目は

- ・「医療・介護・予防・住まい・生活支援についての身近な相談窓口の充実」
- ・「公共交通など移動手段の確保」



■今回調査の結果

- ・「医療・介護・予防・住まい・生活支援についての身近な相談窓口の充実」(52.5%)が最も多く、次いで「公共交通など移動手段の確保」(47.8%)、「認知症や独居高齢者の支援拡充（早期発見・早期対応、在宅介護、家族支援など）」(34.7%)などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】 ・男女ともに「医療・介護・予防・住まい・生活支援についての身近な相談窓口の充実」が最も多く、次いで「公共交通など移動手段の確保」、「認知症や独居高齢者の支援拡充（早期発見・早期対応、在宅介護、家族支援など）」などとなっている。
- 【年 代 別】 ・すべての年代で「医療・介護・予防・住まい・生活支援についての身近な相談窓口の充実」が最も多く、次いで「公共交通など移動手段の確保」などとなっている。
- 【居住地区別】 ・見付地区、中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区、天竜・長野・於保地区、竜洋地区、井通地区・青城地区は「医療・介護・予防・住まい・生活支援についての身近な相談窓口の充実」が最も多い。
 - ・西貝・御厨・南御厨・田原地区、福田地区、富岡・豊田東・池田地区、豊岡地区は「公共交通など移動手段の確保」が最も多い。

6. 子育て・教育について

(1) 安心して子どもを産み育てるために、特に優先すべきもの

問20 安心して子どもを産み育てるために、特に優先すべきものは何だと思いますか？〈○印を3つまで〉

◎安心して子どもを産み育てるために、特に優先すべきものは

- ・「保育所・認定こども園の充実と待機児童の解消」
- ・「仕事と育児の両立支援（育児休業制度の充実、企業への働きかけ）」
- ・「子育て世帯への経済的支援の拡充」

■傾向

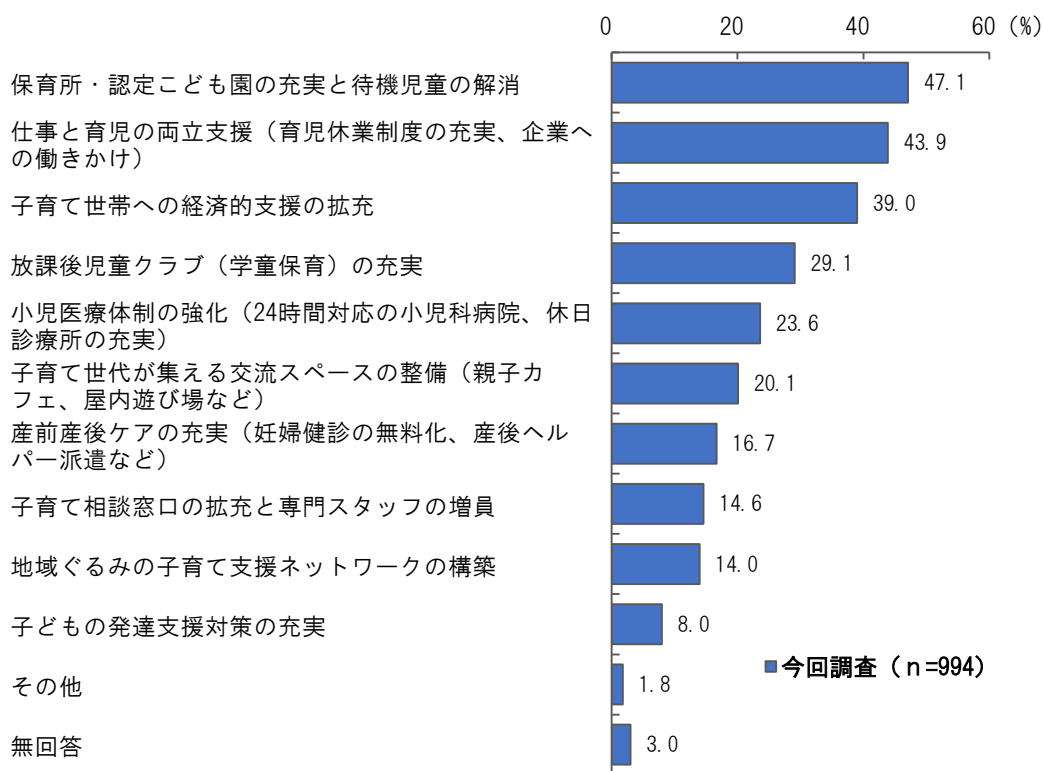
【性別】男性は「子育て世帯への経済的支援の拡充」、女性は「保育所・認定こども園の充実と待機児童の解消」が最も多い

【年代別】複数の年代で最も多い項目は

- ・「保育所・認定こども園の充実と待機児童の解消」
- ・「子育て世帯への経済的支援の拡充」

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い項目は

- ・「保育所・認定こども園の充実と待機児童の解消」
- ・「仕事と育児の両立支援（育児休業制度の充実、企業への働きかけ）」
- ・「子育て世帯への経済的支援の拡充」



■今回調査の結果

- ・「保育所・認定こども園の充実と待機児童の解消」(47.1%) が最も多く、次いで「仕事と育児の両立支援（育児休業制度の充実、企業への働きかけ）」(43.9%)、「子育て世帯への経済的支援の拡充」(39.0%) などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】
- ・男性は「子育て世帯への経済的支援の拡充」(46.3%) が最も多く、次いで「保育所・認定こども園の充実と待機児童の解消」(43.4%)、「仕事と育児の両立支援（育児休業制度の充実、企業への働きかけ）」(41.5%) などとなっている。
 - ・女性は「保育所・認定こども園の充実と待機児童の解消」(51.2%) が最も多く、次いで「仕事と育児の両立支援（育児休業制度の充実、企業への働きかけ）」(46.1%)、「子育て世帯への経済的支援の拡充」(33.1%) などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・30歳未満、30歳代、40歳代は「子育て世帯への経済的支援の拡充」が最も多い。
 - ・50歳代、60歳代は「保育所・認定こども園の充実と待機児童の解消」が最も多い。
 - ・70歳以上は「仕事と育児の両立支援（育児休業制度の充実、企業への働きかけ）」(45.6%) が最も多い。
- 【居住地区別】
- ・見付地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区は「仕事と育児の両立支援（育児休業制度の充実、企業への働きかけ）」が最も多い。
 - ・中泉・今之浦地区、豊岡地区は「子育て世帯への経済的支援の拡充」が最も多い。
 - ・岩田・大藤・向笠地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、天竜・長野・於保地区、福田地区、井通地区・青城地区は「保育所・認定こども園の充実と待機児童の解消」が最も多い。

(2) 子どもたちに対する教育を充実させるために、特に優先すべきもの

問21 子どもたちに対する教育を充実させるために、特に優先すべきものは何だと思いますか？

<○印を3つまで>

◎子どもたちに対する教育を充実させるために、特に優先すべきものは

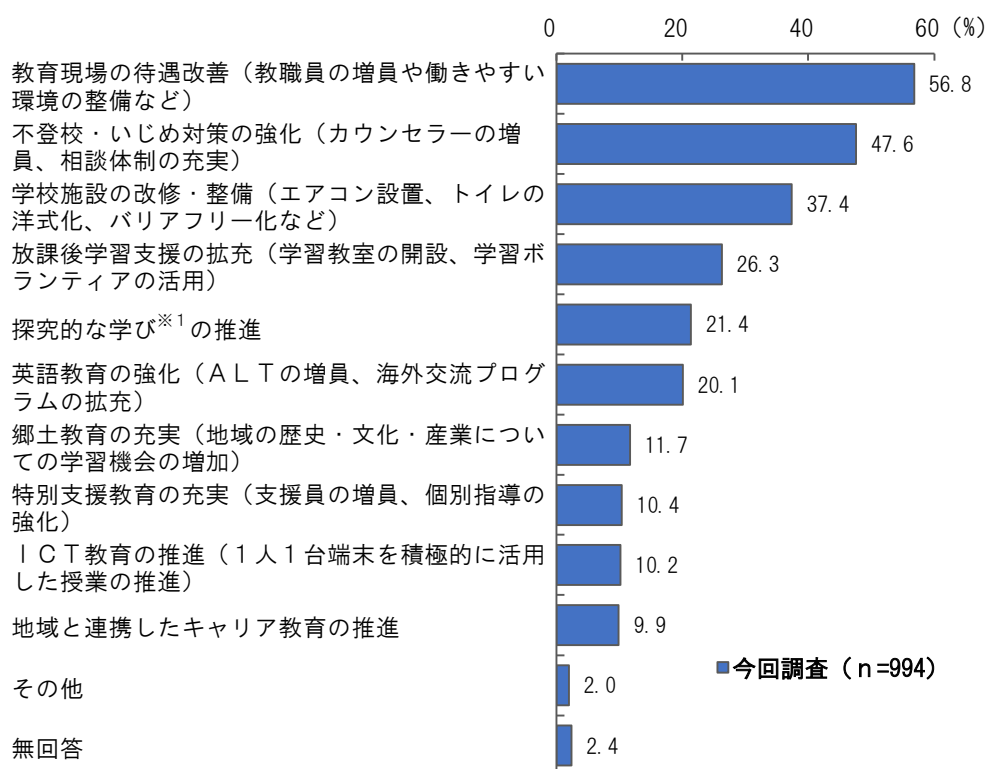
- ・「教育現場の待遇改善（教職員の増員や働きやすい環境の整備など）」
- ・「不登校・いじめ対策の強化（カウンセラーの増員、相談体制の充実）」
- ・「学校施設の改修・整備（エアコン設置、トイレの洋式化、バリアフリー化など）」

■傾向

【性別】男女ともに「教育現場の待遇改善（教職員の増員や働きやすい環境の整備など）」が最も多い

【年代別】すべての年代で「教育現場の待遇改善（教職員の増員や働きやすい環境の整備など）」が最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で「教育現場の待遇改善（教職員の増員や働きやすい環境の整備など）」が最も多い



※1：生徒自身が自分で問題を設定し、その問題を解決するために情報を収集・分析し、意見を交換したり協働したりしながら進める学習活動のこと

■今回調査の結果

- ・「教育現場の待遇改善（教職員の増員や働きやすい環境の整備など）」（56.8%）が最も多く、次いで「不登校・いじめ対策の強化（カウンセラーの増員、相談体制の充実）」（47.6%）、「学校施設の改修・整備（エアコン設置、トイレの洋式化、バリアフリー化など）」（37.4%）などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】 ・男女ともに「教育現場の待遇改善（教職員の増員や働きやすい環境の整備など）」が最も多く、次いで「不登校・いじめ対策の強化（カウンセラーの増員、相談体制の充実）」、「学校施設の改修・整備（エアコン設置、トイレの洋式化、バリアフリー化など）」などとなっている。
- 【年 代 別】 ・すべての年代で「教育現場の待遇改善（教職員の増員や働きやすい環境の整備など）」が最も多い。
・30歳未満、40歳代は「学校施設の改修・整備（エアコン設置、トイレの洋式化、バリアフリー化など）」が次に多い。
・30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上は「不登校・いじめ対策の強化（カウンセラーの増員、相談体制の充実）」が次に多い。
- 【居住地区別】 ・すべての居住地区で「教育現場の待遇改善（教職員の増員や働きやすい環境の整備など）」が最も多い。
・見付地区、中泉・今之浦地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、天竜・長野・於保地区、福田地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区は「不登校・いじめ対策の強化（カウンセラーの増員、相談体制の充実）」が次に多い。
・岩田・大藤・向笠地区、豊岡地区は「学校施設の改修・整備（エアコン設置、トイレの洋式化、バリアフリー化など）」が次に多い。

7. 環境について

(1) 環境に配慮した取組みで行っているもの

問22 あなたは環境に配慮した取組みを行っていますか？＜該当するものすべてに○印＞

◎環境に配慮した取組みで行っているものは

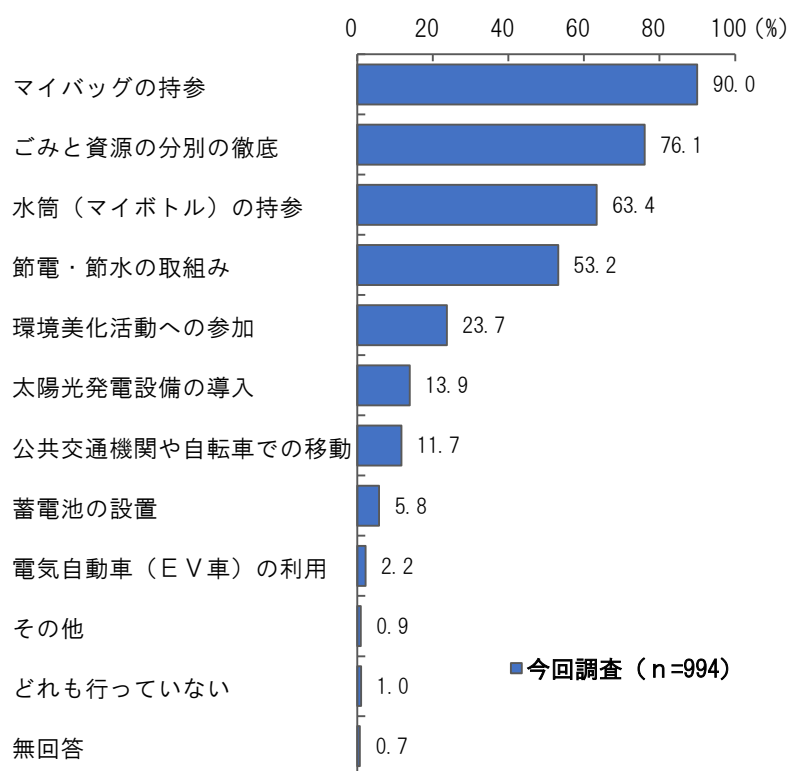
・「マイバッグの持参」 ・「ごみと資源の分別の徹底」 ・「水筒（マイボトル）の持参」

■傾向

【性別】男女ともに「マイバッグの持参」が最も多い

【年代別】すべての年代で「マイバッグの持参」が最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で「マイバッグの持参」が最も多い



■今回調査の結果

・「マイバッグの持参」(90.0%) が最も多く、次いで「ごみと資源の分別の徹底」(76.1%)、「水筒（マイボトル）の持参」(63.4%) などとなっている。

■傾向

【性別】・男性は「マイバッグの持参」(83.2%) が最も多く、次いで「ごみと資源の分別の徹底」(71.0%)、「節電・節水の取組み」(47.5%) などとなっている。
・女性は「マイバッグの持参」(95.5%) が最も多く、次いで「ごみと資源の分別の徹底」(81.0%)、「水筒（マイボトル）の持参」(76.5%) などとなっている。

【年代別】・すべての年代で「マイバッグの持参」が最も多い。
・30歳未満、30歳代は「水筒（マイボトル）の持参」が次に多い。
・40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上は「ごみと資源の分別の徹底」が次に多い。

【居住地区別】・すべての居住地区で「マイバッグの持参」が最も多く、次いで「ごみと資源の分別の徹底」などとなっている。

このページは白紙です

(2) カーボンニュートラルの取組みを推進するために、特に優先すべきもの

問23 カーボンニュートラルの取組みを推進するために、特に優先すべきものは何だと思いますか？

<○印を3つまで>

◎カーボンニュートラルの取組みを推進するために、特に優先すべきものは

- ・「再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の導入拡大」
- ・「ごみの減量化とリサイクルの推進」
- ・「公共交通機関の利用促進と自転車専用道路の整備」

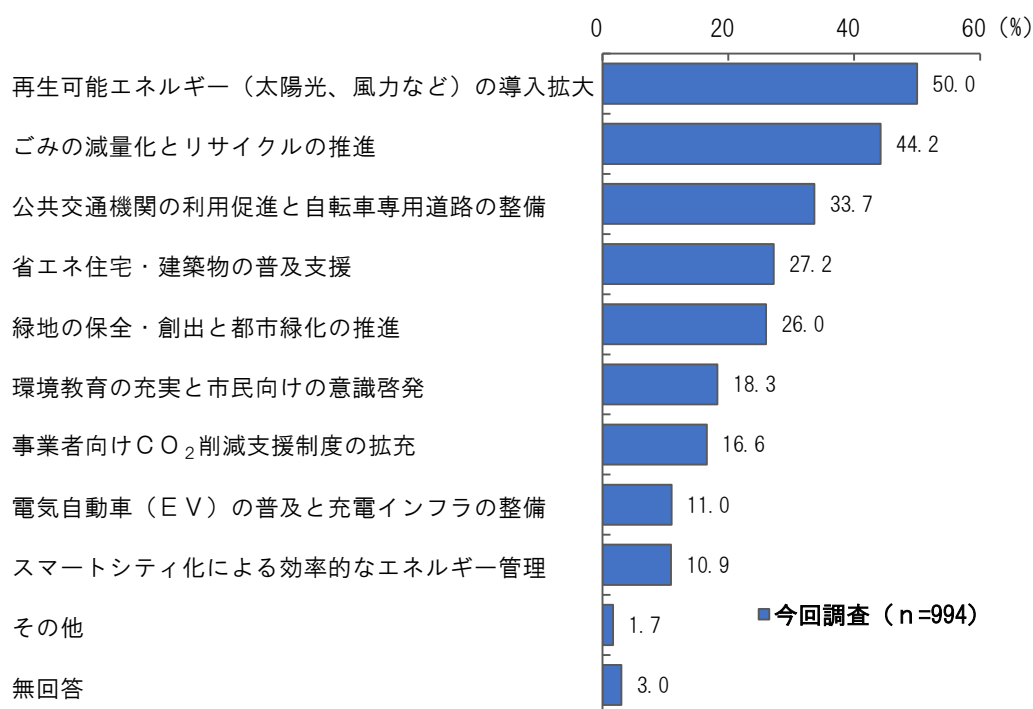
■傾向

【性別】男女ともに「再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の導入拡大」が最も多い

【年代別】ほとんどの年代で「再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の導入拡大」が最も多い

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い項目は

- ・「再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の導入拡大」
- ・「ごみの減量化とリサイクルの推進」



■今回調査の結果

- ・「再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の導入拡大」（50.0%）が最も多く、次いで「ごみの減量化とリサイクルの推進」（44.2%）、「公共交通機関の利用促進と自転車専用道路の整備」（33.7%）などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】 ・男女ともに「再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の導入拡大」が最も多く、次いで「ごみの減量化とリサイクルの推進」、「公共交通機関の利用促進と自転車専用道路の整備」などとなっている。
- 【年 代 別】 ・70 歳以上を除くすべての年代で「再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の導入拡大」が最も多い。
・70 歳以上は「ごみの減量化とリサイクルの推進」（58.7%）が最も多い。
- 【居住地区別】 ・見付地区、岩田・大藤・向笠地区、福田地区は「ごみの減量化とリサイクルの推進」が最も多い。
・中泉・今之浦地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、天竜・長野・於保地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区、豊岡地区は「再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の導入拡大」が最も多い。

8. 防災について

(1) 磐田市の総合的な防災対策として、特に優先すべきもの

問24 磐田市の総合的な防災対策として、特に優先すべきものは何だと思いますか？〈○印を3つまで〉

◎磐田市の総合的な防災対策として、特に優先すべきものは

- ・「避難所・避難場所の周知と整備（備蓄品含む）」
- ・「インフラの整備（河川の堤防強化や排水施設の整備、道路や橋梁の耐震化）」
- ・「家庭での防災対策（耐震化、備蓄等）」

■傾向

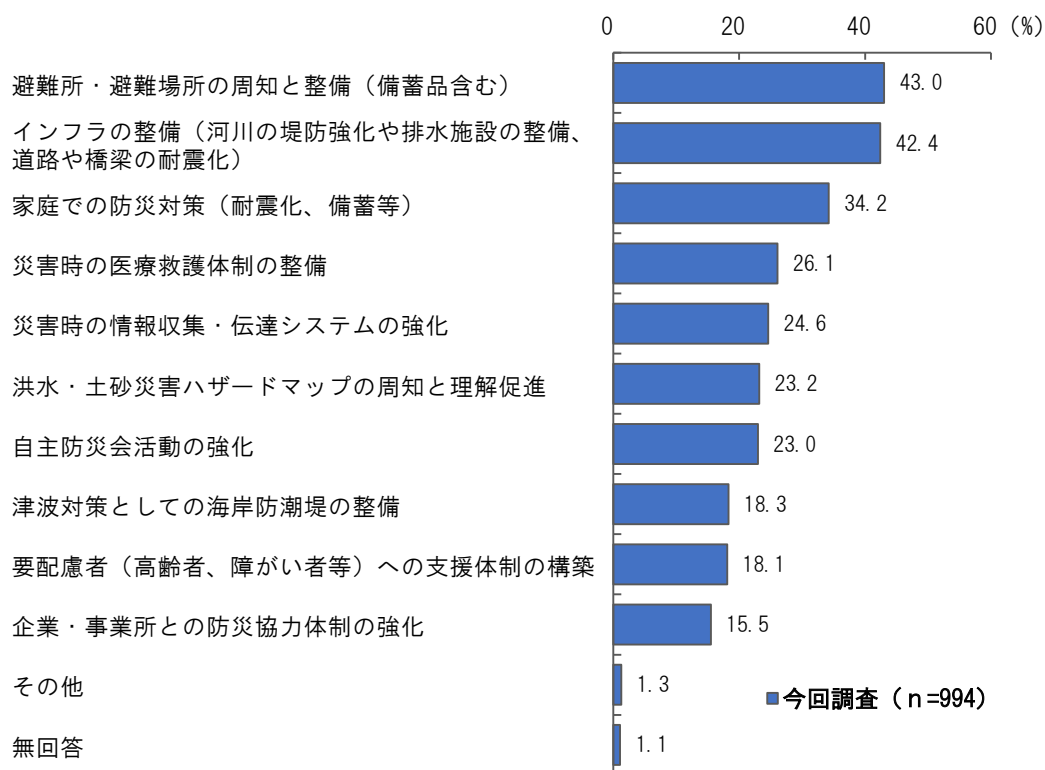
【性別】男性は「避難所・避難場所の周知と整備（備蓄品含む）」、女性は「インフラの整備（河川の堤防強化や排水施設の整備、道路や橋梁の耐震化）」が最も多い

【年代別】複数の年代で最も多い項目は

- ・「避難所・避難場所の周知と整備（備蓄品含む）」
- ・「インフラの整備（河川の堤防強化や排水施設の整備、道路や橋梁の耐震化）」

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い項目は

- ・「避難所・避難場所の周知と整備（備蓄品含む）」
- ・「インフラの整備（河川の堤防強化や排水施設の整備、道路や橋梁の耐震化）」



■今回調査の結果

- ・「避難所・避難場所の周知と整備（備蓄品含む）」（43.0％）が最も多く、次いで「インフラの整備（河川の堤防強化や排水施設の整備、道路や橋梁の耐震化）」（42.4％）、「家庭での防災対策（耐震化、備蓄等）」（34.2％）などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】
- ・男性は「避難所・避難場所の周知と整備（備蓄品含む）」（45.1％）が最も多く、次いで「インフラの整備（河川の堤防強化や排水施設の整備、道路や橋梁の耐震化）」（41.5％）、「家庭での防災対策（耐震化、備蓄等）」（31.9％）などとなっている。
 - ・女性は「インフラの整備（河川の堤防強化や排水施設の整備、道路や橋梁の耐震化）」（43.3％）が最も多く、次いで「避難所・避難場所の周知と整備（備蓄品含む）」（41.4％）、「家庭での防災対策（耐震化、備蓄等）」（36.2％）などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・30歳未満、50歳代、60歳代は「避難所・避難場所の周知と整備（備蓄品含む）」が最も多い。
 - ・30歳代、40歳代、70歳以上は「インフラの整備（河川の堤防強化や排水施設の整備、道路や橋梁の耐震化）」が最も多い。
- 【居住地区別】
- ・見付地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、豊岡地区は「インフラの整備（河川の堤防強化や排水施設の整備、道路や橋梁の耐震化）」が最も多い。
 - ・中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区、天竜・長野・於保地区、福田地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区は「避難所・避難場所の周知と整備（備蓄品含む）」が最も多い。
 - ・井通地区・青城地区は「家庭での防災対策（耐震化、備蓄等）」（45.6％）が最も多い。

9. 学びについて

(1) すべての世代が生涯豊かに暮らせるよう、学びを楽しみ、人と人との対話を通じた交流が生まれるまちを目指し、今後さらに進めなければならないこと

問25 磐田市では、すべての世代が生涯豊かに暮らせるよう、学びを楽しみ、人と人との対話を通じた交流が生まれるまちを目指していますが、今後さらに進めなければならないことは何だと思われますか。
<○印を3つまで>

◎すべての世代が生涯豊かに暮らせるよう、学びを楽しみ、人と人との対話を通じた交流が生まれるまちを目指し、今後さらに進めなければならないことは

- ・「多世代交流イベントの定期的な開催」 ・「生涯学習講座（交流センター等）の充実」
- ・「高齢者の知識・経験を活かすシニアボランティア制度の拡充」

■傾向

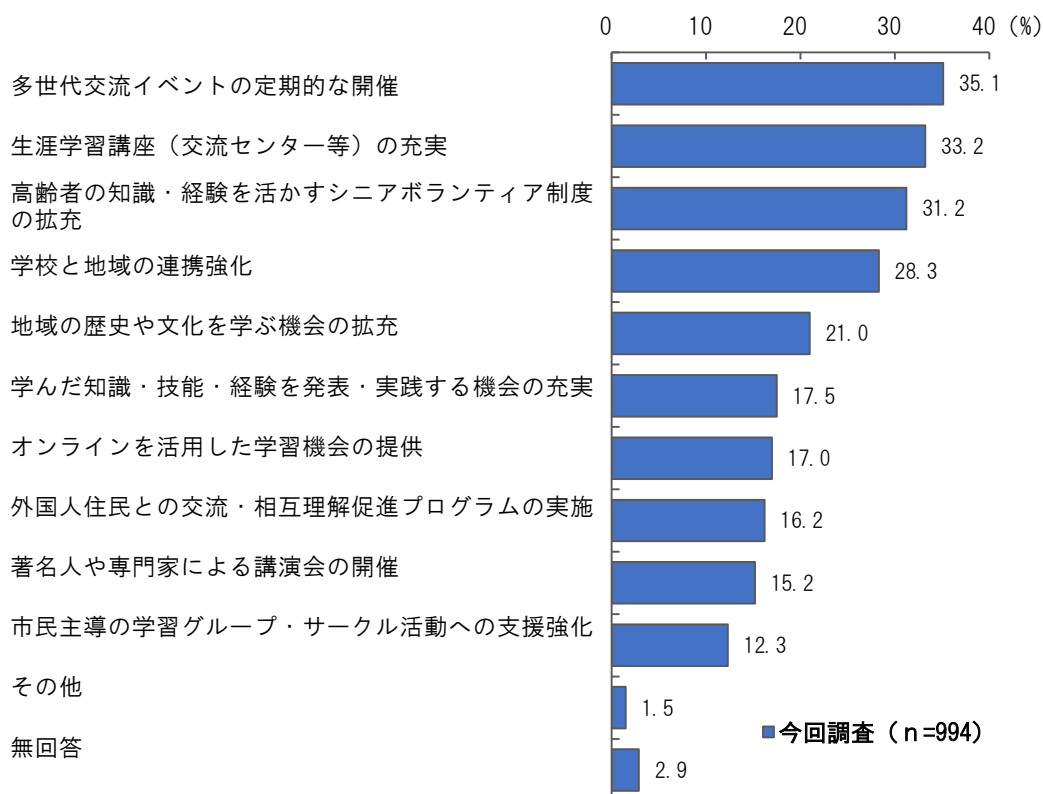
【性別】男性は「多世代交流イベントの定期的な開催」、女性は「生涯学習講座（交流センター等）の充実」が最も多い

【年代別】複数の年代で最も多い項目は

- ・「生涯学習講座（交流センター等）の充実」 ・「学校と地域の連携強化」

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い項目は

- ・「多世代交流イベントの定期的な開催」
- ・「生涯学習講座（交流センター等）の充実」
- ・「高齢者の知識・経験を活かすシニアボランティア制度の拡充」



■今回調査の結果

- ・「多世代交流イベントの定期的な開催」(35.1%)が最も多く、次いで「生涯学習講座(交流センター等)の充実」(33.2%)、「高齢者の知識・経験を活かすシニアボランティア制度の拡充」(31.2%)などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】
- ・男性は「多世代交流イベントの定期的な開催」(33.1%)が最も多く、次いで「学校と地域の連携強化」(30.0%)、「生涯学習講座(交流センター等)の充実」(28.1%)などとなっている。
 - ・女性は「生涯学習講座(交流センター等)の充実」(38.4%)が最も多く、次いで「多世代交流イベントの定期的な開催」(36.3%)、「高齢者の知識・経験を活かすシニアボランティア制度の拡充」(35.4%)などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・30歳未満、30歳代は「学校と地域の連携強化」が最も多い。
 - ・40歳代は「多世代交流イベントの定期的な開催」(38.4%)が最も多い。
 - ・50歳代は「高齢者の知識・経験を活かすシニアボランティア制度の拡充」(36.0%)が最も多い。
 - ・60歳代、70歳以上は「生涯学習講座(交流センター等)の充実」が最も多い。
- 【居住地区別】
- ・見付地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区、豊岡地区は「多世代交流イベントの定期的な開催」が最も多い。
 - ・中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区は「生涯学習講座(交流センター等)の充実」が最も多い。
 - ・西貝・御厨・南御厨・田原地区、井通地区・青城地区は「高齢者の知識・経験を活かすシニアボランティア制度の拡充」が最も多い。
 - ・天竜・長野・於保地区は「多世代交流イベントの定期的な開催」「高齢者の知識・経験を活かすシニアボランティア制度の拡充」(それぞれ39.1%)が最も多い。
 - ・福田地区は「多世代交流イベントの定期的な開催」「生涯学習講座(交流センター等)の充実」(それぞれ36.4%)が最も多い。

10. 物価高騰に対する影響について

(1) 近年の様々な物価高騰の影響のうち、特に影響が大きいと実感しているもの

問26 近年の様々な物価高騰の影響のうち、特に影響が大きいと実感しているものはどれですか？

＜○印を3つまで＞

◎近年の様々な物価高騰の影響のうち、特に影響が大きいと実感しているものは

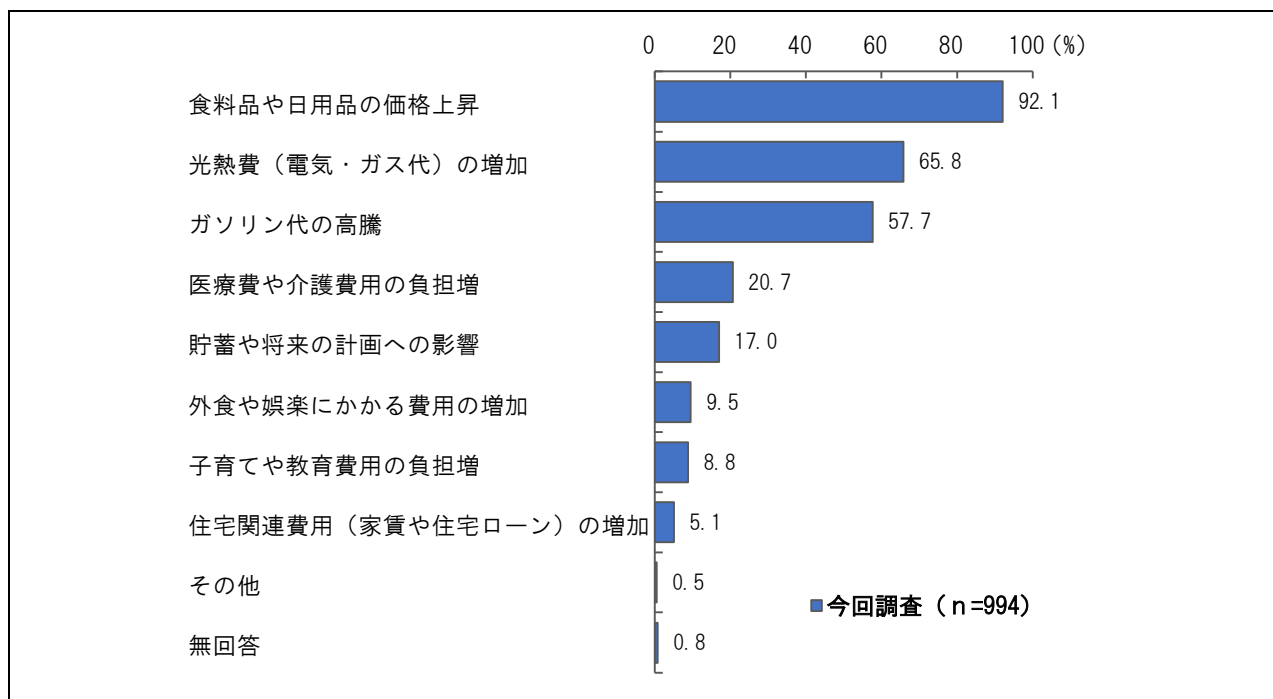
- ・「食料品や日用品の価格上昇」
- ・「光熱費（電気・ガス代）の増加」
- ・「ガソリン代の高騰」

■傾向

【性別】男女ともに「食料品や日用品の価格上昇」が最も多い

【年代別】すべての年代で「食料品や日用品の価格上昇」が最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で「食料品や日用品の価格上昇」が最も多い



■今回調査の結果

- ・「食料品や日用品の価格上昇」(92.1%) が最も多く、次いで「光熱費（電気・ガス代）の増加」(65.8%)、「ガソリン代の高騰」(57.7%) などとなっている。

■傾向

【性別】男女ともに「食料品や日用品の価格上昇」が最も多く、次いで「光熱費（電気・ガス代）の増加」、「ガソリン代の高騰」などとなっている。

【年代別】

- ・すべての年代で「食料品や日用品の価格上昇」が最も多い。
- ・30歳未満、30歳代は「ガソリン代の高騰」が次に多い。
- ・40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上は「光熱費（電気・ガス代）の増加」が次に多い。

【居住地区別】

- ・すべての居住地区で「食料品や日用品の価格上昇」が最も多い。
- ・見付地区、中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、福田地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区は「光熱費（電気・ガス代）の増加」が次に多い。
- ・天竜・長野・於保地区、豊岡地区は「ガソリン代の高騰」が次に多い。

このページは白紙です

(2) 物価高騰への対策として、特に重要だと思うこと

問27 物価高騰への対策として、どのようなことが特に重要だと思いますか？＜○印を3つまで＞

◎物価高騰への対策として特に重要だと思うことは

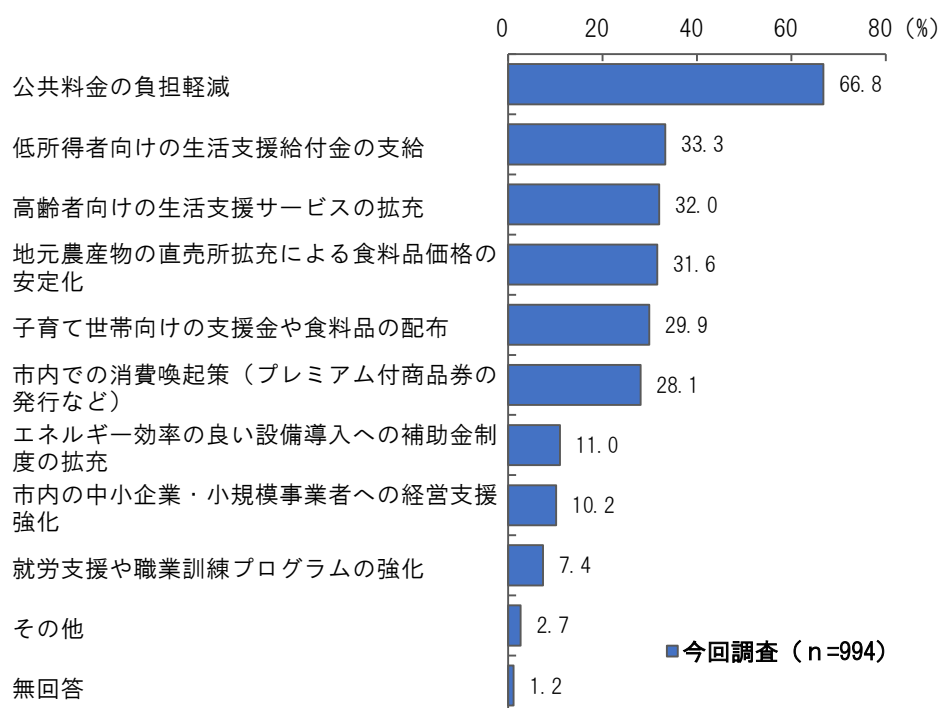
- ・「公共料金の負担軽減」
- ・「低所得者向けの生活支援給付金の支給」
- ・「高齢者向けの生活支援サービスの拡充」

■傾向

【性別】男女ともに「公共料金の負担軽減」が最も多い

【年代別】すべての年代で「公共料金の負担軽減」が最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で「公共料金の負担軽減」が最も多い



■今回調査の結果

- ・「公共料金の負担軽減」(66.8%)が最も多く、次いで「低所得者向けの生活支援給付金の支給」(33.3%)、「高齢者向けの生活支援サービスの拡充」(32.0%)などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】
- ・男性は「公共料金の負担軽減」(65.9%)が最も多く、次いで「子育て世帯向けの支援金や食料品の配布」(34.8%)、「低所得者向けの生活支援給付金の支給」(32.6%)などとなっている。
 - ・女性は「公共料金の負担軽減」(67.8%)が最も多く、次いで「地元農産物の直売所拡充による食料品価格の安定化」(36.2%)、「低所得者向けの生活支援給付金の支給」(33.9%)などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・すべての年代で「公共料金の負担軽減」が最も多い。
 - ・30歳未満、30歳代、40歳代は「子育て世帯向けの支援金や食料品の配布」が次に多い。
 - ・50歳代、60歳代は「低所得者向けの生活支援給付金の支給」が次に多い。
 - ・70歳以上は「高齢者向けの生活支援サービスの拡充」(48.0%)が次に多い。
- 【居住地区別】
- ・すべての居住地区で「公共料金の負担軽減」が最も多い。
 - ・見付地区、岩田・大藤・向笠地区、福田地区、富岡・豊田東・池田地区は「低所得者向けの生活支援給付金の支給」が次に多い。
 - ・中泉・今之浦地区は「地元農産物の直売所拡充による食料品価格の安定化」(35.4%)が次に多い。
 - ・西貝・御厨・南御厨・田原地区、竜洋地区は「高齢者向けの生活支援サービスの拡充」が次に多い。
 - ・天竜・長野・於保地区は「低所得者向けの生活支援給付金の支給」「子育て世帯向けの支援金や食料品の配布」「市内での消費喚起策(プレミアム付商品券の発行など)」(それぞれ33.7%)が次に多い。
 - ・井通地区・青城地区、豊岡地区は「子育て世帯向けの支援金や食料品の配布」が次に多い。

11. 男女共同参画社会について

(1) 男女の役割を固定的に考えることについての賛否

問28 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについてどう思いますか？〈○印を1つ〉

◎男女の役割を固定的に考えることについて、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）と考える人は7割以上

■前回調査との比較

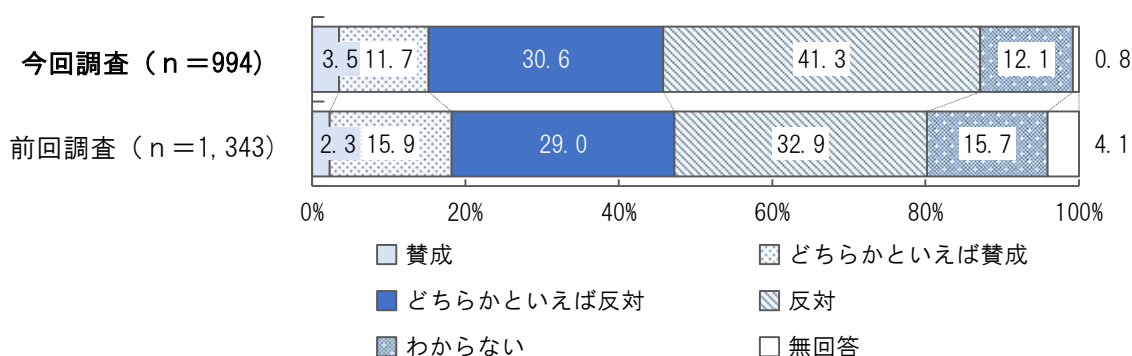
『反対』が増加している

■傾向

【性別】「反対」は女性において多い

【年代別】『反対』は30歳代において最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で『反対』が6割以上



■今回調査の結果

- ・『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）は15.2%、『反対』（「どちらかといえば反対」＋「反対」）は71.9%となっている。
- ・「反対」（41.3%）が最も多く、次いで「どちらかといえば反対」（30.6%）、「どちらかといえば賛成」（11.7%）などとなっている。一方、「わからない」は12.1%となっている。

■前回調査との比較

- ・『反対』が10.0ポイント増加している。
- ・「反対」が8.4ポイント増加している。

■傾向

- 【性別】
- ・『反対』は男性が70.0%、女性が74.0%となっている。
 - ・「反対」は男性が38.8%、女性が43.7%となっている。

- 【年代別】
- ・すべての年代で『反対』が6割を超えている。
 - ・『反対』は30歳代（82.2%）において最も多く、次いで60歳代（75.8%）、40歳代（74.4%）などとなっている。

- 【居住地区別】
- ・すべての居住地区で『反対』が6割を超えている。
 - ・『反対』は見付地区（77.5%）において最も多く、次いで西貝・御厨・南御厨・田原地区（76.1%）、豊岡地区（75.9%）などとなっている。

(2) 各分野における女性の意見の反映状況

問29 あなたは、次のような分野で女性の意見がどの程度反映されていると思いますか？記入例を参考に、それぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。＜○印をそれぞれ1つ＞

①市議会などの政治

◎『反映されていない』（「あまり反映されていない」＋「ほとんど反映されていない」と回答した人が4割以上

■前回調査との比較

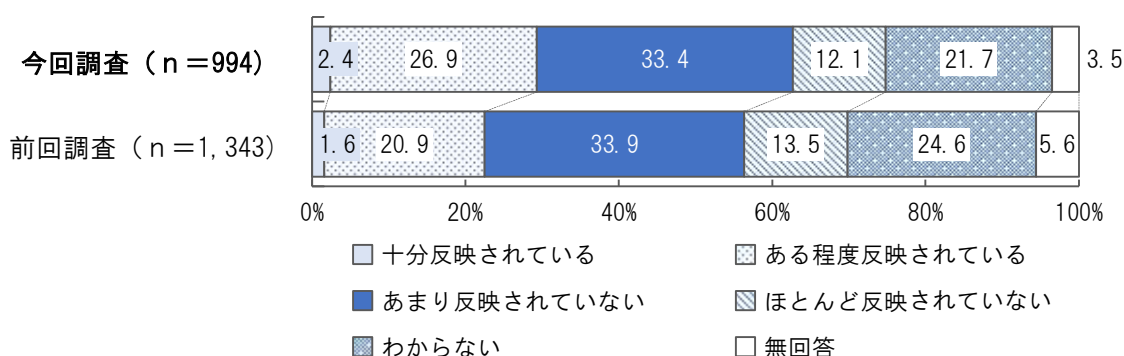
『反映されている』が増加している

■傾向

【性別】大きな差はない

【年代別】ほとんどの年代で『反映されていない』が4割以上

【居住地区別】ほとんどの居住地区で『反映されていない』が4割以上



■今回調査の結果

- ・『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）は29.3%、『反映されていない』（「あまり反映されていない」＋「ほとんど反映されていない」）は45.5%となっている。
- ・「あまり反映されていない」（33.4%）が最も多く、次いで「ある程度反映されている」（26.9%）、「ほとんど反映されていない」（12.1%）などとなっている。一方、「わからない」は21.7%となっている。

■前回調査との比較

- ・『反映されている』が6.8ポイント増加している。
- ・「ある程度反映されている」が6.0ポイント増加している。

■傾向

【性別】 ・大きな差はない。

・『反映されている』は男性が32.1%、女性が27.5%となっている。

【年代別】 ・30歳未満を除くすべての年代で『反映されていない』が4割を超えている。

・『反映されていない』は40歳代（53.6%）において最も多く、次いで60歳代（51.6%）、30歳代（46.7%）などとなっている。

【居住地区別】 ・竜洋地区を除くすべての居住地区で『反映されていない』が4割を超えている。

・『反映されていない』は豊岡地区（58.6%）において最も多く、次いで福田地区（53.4%）、天竜・長野・於保地区（48.9%）などとなっている。

②市などの行政

◎『反映されていない』（「あまり反映されていない」＋「ほとんど反映されていない」）と回答した人が4割以上

■前回調査との比較

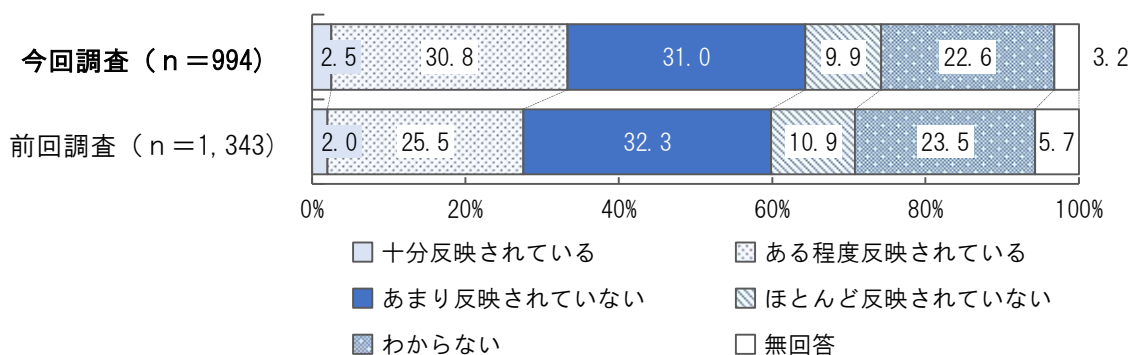
『反映されている』が増加している

■傾向

【性別】大きな差はない

【年代別】ほとんどの年代で『反映されていない』が3割以上

【居住地区別】すべての居住地区で『反映されていない』が3割以上



■今回調査の結果

- ・『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）は33.3%、『反映されていない』（「あまり反映されていない」＋「ほとんど反映されていない」）は40.8%となっている。
- ・「あまり反映されていない」（31.0%）が最も多く、次いで「ある程度反映されている」（30.8%）、「ほとんど反映されていない」（9.9%）などとなっている。一方、「わからない」は22.6%となっている。

■前回調査との比較

- ・『反映されている』が5.8ポイント増加している。
- ・「ある程度反映されている」が5.3ポイント増加している。

■傾向

【性別】 ・大きな差はない。

・『反映されている』は男性が36.5%、女性が32.2%となっている。

【年代別】 ・30歳未満を除くすべての年代で『反映されていない』が3割を超えている。

・『反映されていない』は40歳代（48.0%）において最も多く、次いで30歳代（46.7%）、60歳代（43.9%）などとなっている。

【居住地区別】 ・すべての居住地区で『反映されていない』が3割を超えている。

・『反映されていない』は豊岡地区（62.1%）において最も多く、次いで福田地区（44.3%）、井通地区・青城地区（41.7%）などとなっている。

③企業などの職場

◎『反映されていない』（「あまり反映されていない」＋「ほとんど反映されていない」）と回答した人が4割以上

■前回調査との比較

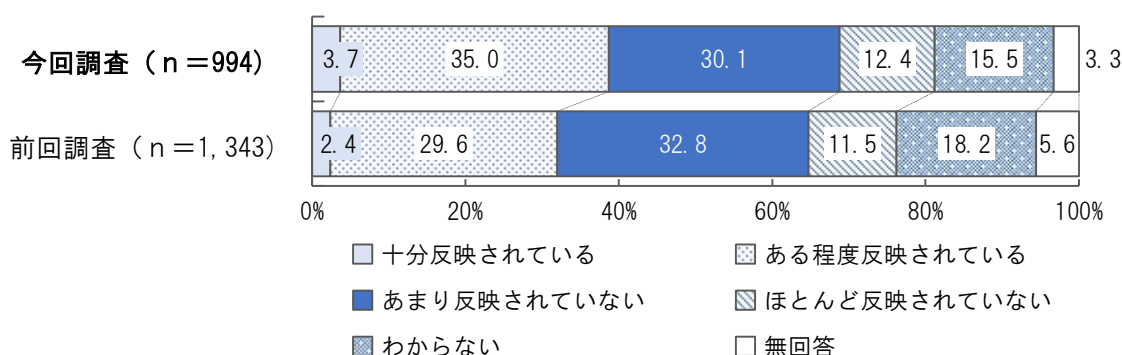
『反映されている』が増加している

■傾向

【性別】『反映されている』は男性において多い

【年代別】ほとんどの年代で『反映されていない』が3割以上

【居住地区別】すべての居住地区で『反映されていない』が3割以上



■今回調査の結果

- ・『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）は38.7%、『反映されていない』（「あまり反映されていない」＋「ほとんど反映されていない」）は42.5%となっている。
- ・「ある程度反映されている」（35.0%）が最も多く、次いで「あまり反映されていない」（30.1%）、「ほとんど反映されていない」（12.4%）などとなっている。一方、「わからない」は15.5%となっている。

■前回調査との比較

- ・『反映されている』が6.7ポイント増加している。

■傾向

- 【性別】
- ・『反映されている』は男性が42.9%、女性が36.0%となっている。
 - ・「わからない」は男性が13.2%、女性が18.3%となっている。

- 【年代別】
- ・30歳未満を除くすべての年代で『反映されていない』が3割を超えている。
 - ・『反映されていない』は60歳代（47.1%）において最も多く、次いで30歳代（46.7%）、50歳代（44.8%）などとなっている。

- 【居住地区別】
- ・すべての居住地区で『反映されていない』が3割を超えている。
 - ・『反映されていない』は天竜・長野・於保地区（47.8%）において最も多く、次いで福田地区（47.7%）、西貝・御厨・南御厨・田原地区（47.0%）などとなっている。

④地域づくり協議会や自治会、PTAなどの地域

◎『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）と回答した人が4割以上

■前回調査との比較

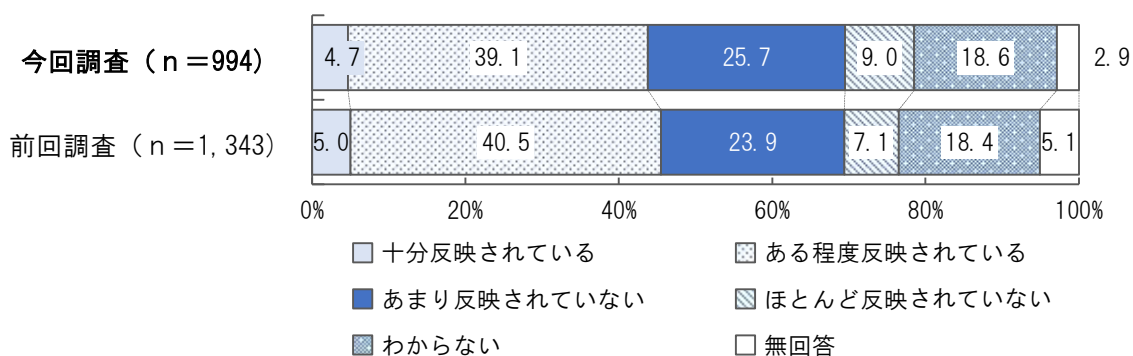
大きな変化はない

■傾向

【性別】大きな差はない

【年代別】ほとんどの年代で『反映されている』が4割以上

【居住地区別】『反映されている』は西貝・御厨・南御厨・田原地区において最も多く、『反映されていない』は福田地区において最も多い



■今回調査の結果

- ・『反映されている』（「十分反映されている」＋「ある程度反映されている」）は43.9%、『反映されていない』（「あまり反映されていない」＋「ほとんど反映されていない」）は34.6%となっている。
- ・「ある程度反映されている」（39.1%）が最も多く、次いで「あまり反映されていない」（25.7%）、「ほとんど反映されていない」（9.0%）などとなっている。一方、「わからない」は18.6%となっている。

■前回調査との比較

- ・大きな変化はない。

■傾向

【性別】・大きな差はない。

・『反映されている』は男性が44.8%、女性が44.1%となっている。

【年代別】・30歳代を除くすべての年代で『反映されている』が4割を超えている。

・『反映されていない』は30歳代（42.2%）において最も多く、次いで40歳代（36.8%）、50歳代（36.6%）などとなっている。

【居住地区別】・福田地区、井通地区・青城地区を除くすべての居住地区で『反映されている』が4割を超えている。

・『反映されていない』は福田地区（50.0%）において最も多く、次いで豊岡地区（41.4%）、富岡・豊田東・池田地区（28.8%）などとなっている。

このページは白紙です

(3) 男女ともに活躍していくために、特に必要なこと

問30 男女ともに家庭生活や地域生活、仕事の場で活躍していくためには、特に必要なことは何だと思いますか？〈○印を3つまで〉

◎男女ともに活躍していくために、特に必要なことは

- ・「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」
- ・「家事・育児参加に対する男性の抵抗感をなくすこと」
- ・「社会の中で男性による家事、子育て、介護、地域活動についての理解を高めること」

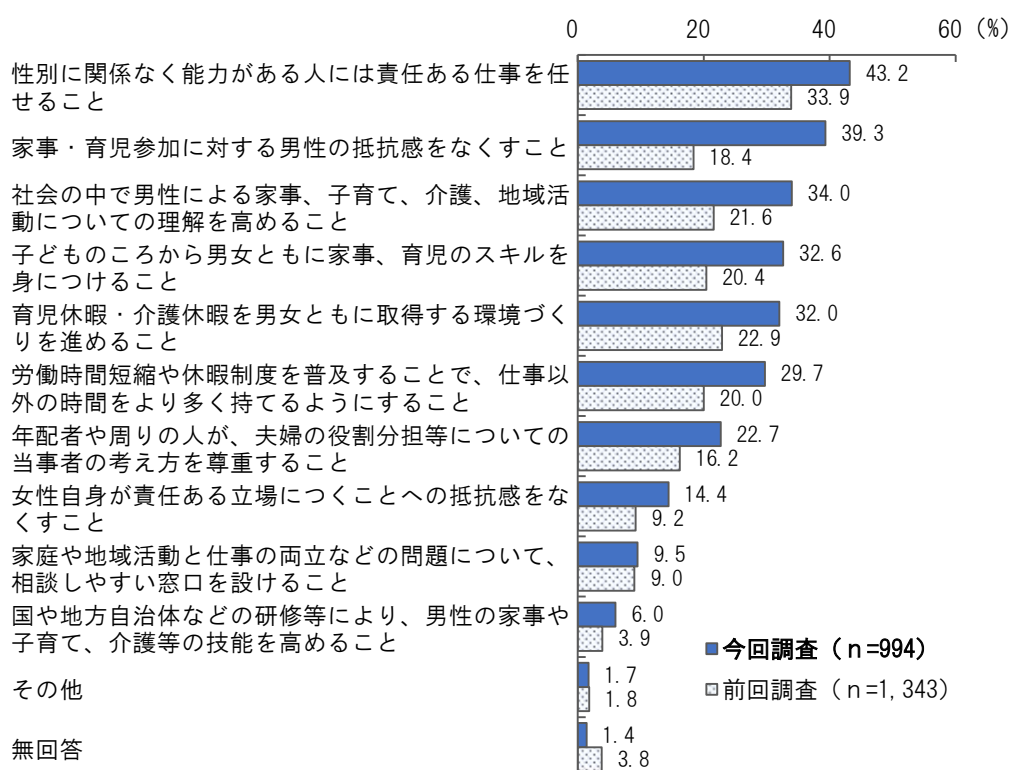
■傾向

【性別】男性は「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」、女性は「家事・育児参加に対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も多い

【年代別】複数の年代で「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」が最も多い

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い項目は

- ・「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」
- ・「家事・育児参加に対する男性の抵抗感をなくすこと」



<参考>

- ・前回調査は2つまで回答可能であり、今回調査と回答数が異なるため、グラフのみの掲載とし、前回調査との比較のコメントは割愛する。
- ・前回調査の選択肢「わからない」(3.1%)は、今回調査にはない。

■ 今回調査の結果

- ・「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」(43.2%) が最も多く、次いで「家事・育児参加に対する男性の抵抗感をなくすこと」(39.3%)、「社会の中で男性による家事、子育て、介護、地域活動についての理解を高めること」(34.0%) などとなっている。

■ 傾 向

- 【性 別】**
- ・男性は「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」(45.6%) が最も多く、次いで「家事・育児参加に対する男性の抵抗感をなくすこと」(36.2%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(34.3%) などとなっている。
 - ・女性は「家事・育児参加に対する男性の抵抗感をなくすこと」(43.7%) が最も多く、次いで「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」(41.2%)、「子どものころから男女ともに家事、育児のスキルを身につけること」(36.7%) などとなっている。
- 【年 代 別】**
- ・30 歳未満は「育児休暇・介護休暇を男女ともに取得する環境づくりを進めること」(54.2%) が最も多い。
 - ・30 歳代は「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(それぞれ 38.9%) が最も多い。
 - ・40 歳代は「子どものころから男女ともに家事、育児のスキルを身につけること」(45.6%) が最も多い。
 - ・50 歳代は「家事・育児参加に対する男性の抵抗感をなくすこと」(41.9%) が最も多い。
 - ・60 歳代、70 歳以上は「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」が最も多い。
- 【居住地区別】**
- ・見付地区、中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区、豊岡地区は「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」が最も多い。
 - ・天竜・長野・於保地区は「子どものころから男女ともに家事、育児のスキルを身につけること」(39.1%) が最も多い。
 - ・福田地区、竜洋地区は「性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること」「家事・育児参加に対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も多い。

12. 多文化共生社会について

(1) 外国人に対する差別や差別意識を感じることの有無

問31 外国人に対する差別や差別意識があると思いますか？〈○印を1つ〉

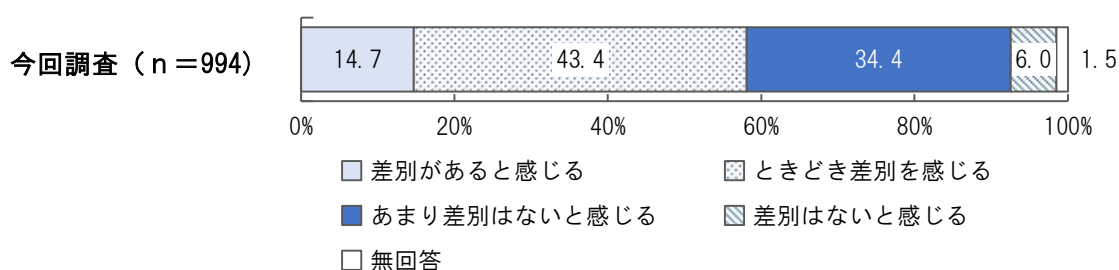
◎外国人に対する差別や差別意識を感じることの有無について『差別があると感じる』(「差別があると感じる」＋「ときどき差別を感じる」)人は約6割

■傾向

【性別】「差別があると感じる」は男性において多い

【年代別】ほとんどの年代で『差別があると感じる』が5割以上

【居住地区別】すべての居住地区で『差別があると感じる』が5割以上



■今回調査の結果

- ・『差別があると感じる』(「差別があると感じる」＋「ときどき差別を感じる」)は58.0%、『差別はないと感じる』(「あまり差別はないと感じる」＋「差別はないと感じる」)は40.4%となっている。
- ・「ときどき差別を感じる」(43.4%)が最も多く、次いで「あまり差別はないと感じる」(34.4%)、「差別があると感じる」(14.7%)などとなっている。

■傾向

- 【性別】
- ・『差別はないと感じる』は男性が38.6%、女性が41.2%となっている。
 - ・「差別があると感じる」は男性が18.7%、女性が10.9%となっている。
- 【年代別】
- ・70歳以上を除くすべての年代で『差別があると感じる』が5割を超えている。
 - ・『差別があると感じる』は40歳代(72.0%)において最も多く、次いで30歳代(63.3%)、60歳代(61.9%)などとなっている。
 - ・『差別はないと感じる』は70歳以上(48.3%)において最も多く、次いで30歳未満(43.8%)、50歳代(41.3%)などとなっている。
- 【居住地区別】
- ・すべての居住地区で『差別があると感じる』が5割を超えている。
 - ・『差別があると感じる』は岩田・大藤・向笠地区(62.8%)において最も多く、次いで中泉・今之浦地区(60.5%)、福田地区と井通地区・青城地区(それぞれ60.2%)などとなっている。
 - ・『差別はないと感じる』は豊岡地区(48.3%)において最も多く、次いで西貝・御厨・南御厨・田原地区(45.3%)、天竜・長野・於保地区(42.4%)などとなっている。

(2) 外国人と日本人が互いに尊重し、対等な立場で暮らすために最も必要なこと

問32 外国人と日本人が互いを尊重し、対等な立場で暮らすために最も必要なことは何だと思いますか？
 <○印を1つ>

◎外国人と日本人が互いに尊重し、対等な立場で暮らすために最も必要なことは 「外国人に地域のルールや習慣を伝える」

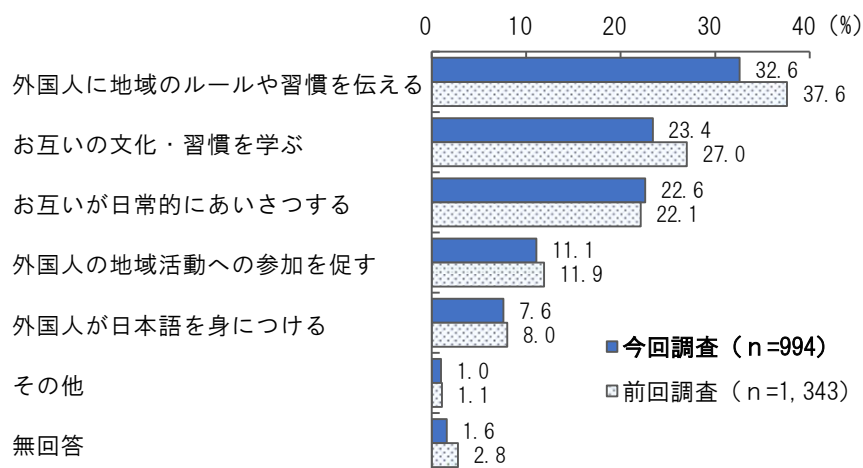
■傾向

【性別】男女ともに「外国人に地域のルールや習慣を伝える」が最も多い

【年代別】複数の年代で最も多い項目は

・「外国人に地域のルールや習慣を伝える」 ・「お互いの文化・習慣を学ぶ」

【居住地区別】ほとんどの居住地区で「外国人に地域のルールや習慣を伝える」が最も多い



<参考>

・前回調査は複数回答可の設問として集計しており、今回調査と回答数が異なるため、グラフのみの掲載とし、前回調査との比較のコメントは割愛する。

■今回調査の結果

・「外国人に地域のルールや習慣を伝える」(32.6%) が最も多く、次いで「お互いの文化・習慣を学ぶ」(23.4%)、「お互いが日常的にあいさつする」(22.6%) などとなっている。

■傾向

【性別】
 ・男性は「外国人に地域のルールや習慣を伝える」(36.2%) が最も多く、次いで「お互いの文化・習慣を学ぶ」(22.3%)、「お互いが日常的にあいさつする」(18.5%) などとなっている。
 ・女性は「外国人に地域のルールや習慣を伝える」(30.1%) が最も多く、次いで「お互いが日常的にあいさつする」(26.4%)、「お互いの文化・習慣を学ぶ」(24.1%) などとなっている。

【年代別】
 ・30歳未満は「外国人に地域のルールや習慣を伝える」「お互いの文化・習慣を学ぶ」(それぞれ29.2%) が最も多い。
 ・30歳代、50歳代、60歳代、70歳以上は「外国人に地域のルールや習慣を伝える」が最も多い。
 ・40歳代は「お互いの文化・習慣を学ぶ」(35.2%) が最も多い。

【居住地区別】
 ・豊岡地区を除くすべての居住地区で「外国人に地域のルールや習慣を伝える」が最も多い。
 ・豊岡地区は「お互いが日常的にあいさつする」(32.8%) が最も多い。

(3) 居住地域における地域活動への外国人住民の参加状況

問33 あなたが生活している地域では、防災訓練や草刈り等の地域活動に外国人住民は参加していますか？
<○印を1つ>

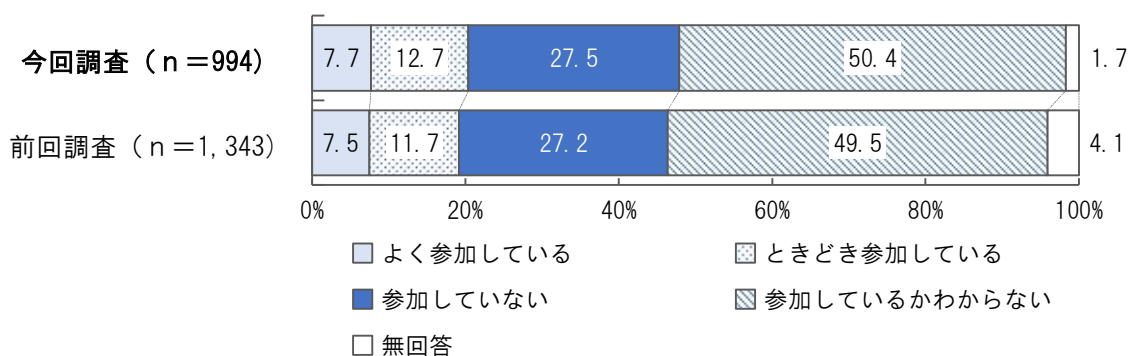
◎外国人住民が地域活動に『参加している』（「よく参加している」＋「ときどき参加している」）と回答した人は2割以上

■前回調査との比較

大きな変化はない

■傾向

【居住地区別】『参加している』は竜洋地区において最も多く、「参加していない」は豊岡地区において最も多い



■今回調査の結果

- ・『参加している』（「よく参加している」＋「ときどき参加している」）は20.4%となっている。
- ・「参加しているかわからない」（50.4%）が最も多く、次いで「参加していない」（27.5%）、「ときどき参加している」（12.7%）などとなっている。

■前回調査との比較

- ・大きな変化はない。

■傾向

- 【居住地区別】
- ・『参加している』は竜洋地区（38.9%）において最も多く、次いで西貝・御厨・南御厨・田原地区（29.1%）、富岡・豊田東・池田地区（26.3%）などとなっている。
 - ・「参加していない」は豊岡地区（36.2%）において最も多く、次いで岩田・大藤・向笠地区（32.6%）、福田地区（31.8%）などとなっている。

このページは白紙です

(4) 地域活動への外国人住民の参加を促すために必要なこと

問34 防災訓練や草刈り等の地域活動に外国人住民の参加を促すために必要なことは何だと思いますか？
 <該当するものすべてに○印>

◎地域活動への外国人住民の参加を促すために必要なことは

- ・「外国人に自治会への加入を促す」
- ・「外国人を雇用する企業に協力を依頼する」
- ・「多言語で案内チラシを作成する」

■前回調査との比較

大きな変化はない

■傾向

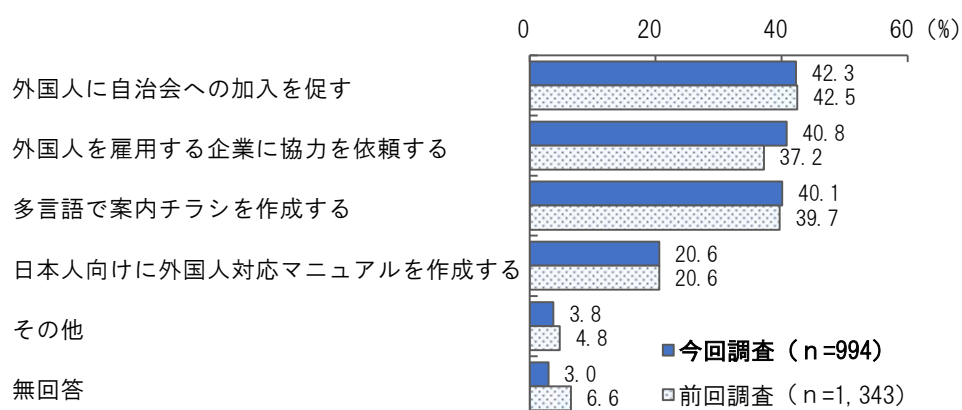
【性別】男性は「外国人を雇用する企業に協力を依頼する」、女性は「外国人に自治会への加入を促す」が最も多い

【年代別】複数の年代で最も多い項目は

- ・「外国人を雇用する企業に協力を依頼する」
- ・「多言語で案内チラシを作成する」

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い項目は

- ・「外国人に自治会への加入を促す」
- ・「外国人を雇用する企業に協力を依頼する」
- ・「多言語で案内チラシを作成する」



■今回調査の結果

- ・「外国人に自治会への加入を促す」(42.3%) が最も多く、次いで「外国人を雇用する企業に協力を依頼する」(40.8%)、「多言語で案内チラシを作成する」(40.1%) などとなっている。

■前回調査との比較

- ・大きな変化はない。

■傾 向

- 【性 別】
- ・男性は「外国人を雇用する企業に協力を依頼する」(41.2%) が最も多く、次いで「外国人に自治会への加入を促す」(40.8%)、「多言語で案内チラシを作成する」(36.9%) などとなっている。
 - ・女性は「外国人に自治会への加入を促す」(44.1%) が最も多く、次いで「外国人を雇用する企業に協力を依頼する」(41.2%)、「多言語で案内チラシを作成する」(40.9%) などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・30 歳未満、30 歳代、50 歳代は「外国人を雇用する企業に協力を依頼する」が最も多い。
 - ・40 歳代、60 歳代は「多言語で案内チラシを作成する」が最も多い。
 - ・70 歳以上は「外国人に自治会への加入を促す」(55.3%) が最も多い。
- 【居住地区別】
- ・見付地区、富岡・豊田東・池田地区は「多言語で案内チラシを作成する」が最も多い。
 - ・中泉・今之浦地区、井通地区・青城地区、豊岡地区は「外国人を雇用する企業に協力を依頼する」が最も多い。
 - ・岩田・大藤・向笠地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、天竜・長野・於保地区、福田地区、竜洋地区は「外国人に自治会への加入を促す」が最も多い。

13. セクシュアルマイノリティ（性的少数者）について

（１）セクシュアルマイノリティ（性的少数者）の認知度

問35 あなたは、セクシュアルマイノリティ（性的少数者）※¹という言葉を知っていましたか？

<○印を1つ>

※1：どのような性別の人を好きになるかという「性的指向」や、自分の性をどのように認識しているのかという「性自認」に関して、少数者である方たちを表す言葉

◎セクシュアルマイノリティという『言葉を知っていた』（「言葉も意味も知っていた」＋「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」）人は8割以上

■前回調査との比較

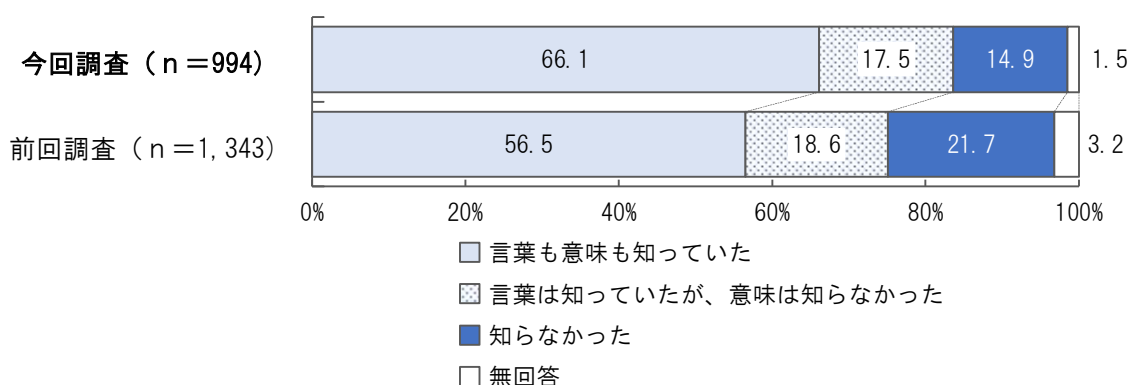
『言葉を知っていた』が増加している

■傾向

【性別】大きな差はない

【年代別】ほとんどの年代で『言葉を知っていた』が8割以上

【居住地区別】すべての居住地区で『言葉を知っていた』が7割以上



■今回調査の結果

- ・『言葉を知っていた』（「言葉も意味も知っていた」＋「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」）は83.6%となっている。
- ・「言葉も意味も知っていた」（66.1%）が最も多く、次いで「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」（17.5%）、「知らなかった」（14.9%）となっている。

■前回調査との比較

- ・『言葉を知っていた』が8.5ポイント増加している。
- ・「言葉も意味も知っていた」が9.6ポイント増加し、「知らなかった」が6.8ポイント減少している。

■傾向

- 【性別】
 - ・大きな差はない。
 - ・『言葉を知っていた』は男性が84.7%、女性が83.1%となっている。
- 【年代別】
 - ・70歳以上を除くすべての年代で『言葉を知っていた』が8割を超えている。
 - ・『言葉を知っていた』は30歳代（92.2%）において最も多く、次いで30歳未満（91.7%）、40歳代（88.0%）などとなっている。
 - ・年代が下がるにつれ「言葉も意味も知っていた」がおおむね多い。
- 【居住地区別】
 - ・すべての居住地区で『言葉を知っていた』が7割を超えている。
 - ・『言葉を知っていた』は見付地区（90.6%）において最も多く、次いで井通地区・青城地区（87.4%）、中泉・今之浦地区（87.1%）などとなっている。

(2) 身近な人からセクシュアルマイノリティであると打ち明けられた場合の受け入れ

問36 セクシュアルマイノリティ（性的少数者）と言われる方々は、周囲の理解不足や偏見などにより、社会の中で様々な困難に直面しています。あなたは身近な人（家族・友人等）から、セクシュアルマイノリティであると打ち明けられたとき、受け入れることができますか？＜○印を1つ＞

◎身近な人からセクシュアルマイノリティであると打ち明けられた場合、「受け入れることができる」人と「わからない」人がそれぞれ約5割

■前回調査との比較

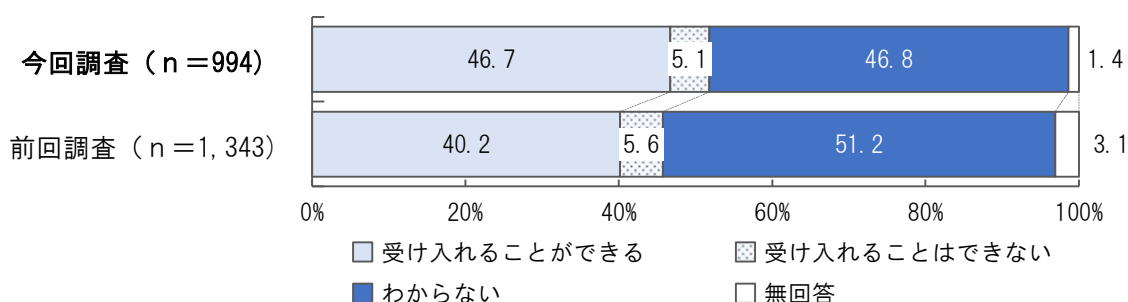
「受け入れることができる」が増加している

■傾向

【性別】大きな差はない

【年代別】年代が下がるにつれ「受け入れることができる」が多い

【居住地区別】「受け入れることができる」は見付地区において最も多く、「わからない」は福田地区において最も多い



■今回調査の結果

- ・「わからない」(46.8%) が最も多く、次いで「受け入れることができる」(46.7%)、「受け入れることはできない」(5.1%) となっている。

■前回調査との比較

- ・「受け入れることができる」が6.5ポイント増加している。

■傾向

【性別】 ・大きな差はない。

・「受け入れることができる」は男性が44.4%、女性が49.0%となっている。

【年代別】 ・年代が下がるにつれ「受け入れることができる」が多い。

・30歳未満、30歳代、40歳代、50歳代は「受け入れることができる」が最も多く、60歳代、70歳以上は「わからない」が最も多い。

【居住地区別】 ・「受け入れることができる」は見付地区(56.3%)において最も多く、次いで中泉・今之浦地区(54.4%)、天竜・長野・於保地区(53.3%)などとなっている。

・「わからない」は福田地区(55.7%)において最も多く、次いで西貝・御厨・南御厨・田原地区(54.7%)、富岡・豊田東・池田地区(53.8%)などとなっている。

14. 行政運営について

(1) これからの行政サービスの水準と市民の負担のあり方についての考え

問37 地方自治体を取り巻く財政状況は厳しく、今までの行政サービスをすべて同じ水準で維持することは難しい状況です。このような時代の中、これからの行政サービスの水準と市民の負担のあり方についてどう思いますか？〈○印を1つ〉

◎これからの行政サービスの水準と市民の負担のあり方について、最も多い項目は
「行政をはじめ、市民・地域・事業者などが協力し合う共創のまちづくりを推進し、持続可能な行政サービスを提供すればよい」

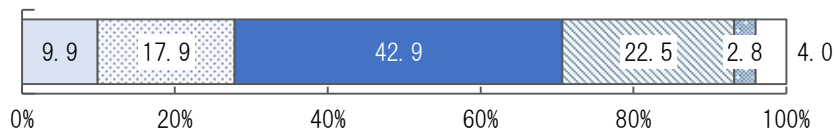
■傾向

【性別】男女ともに「行政をはじめ、市民・地域・事業者などが協力し合う共創のまちづくりを推進し、持続可能な行政サービスを提供すればよい」が最も多い

【年代別】すべての年代で「行政をはじめ、市民・地域・事業者などが協力し合う共創のまちづくりを推進し、持続可能な行政サービスを提供すればよい」が最も多い

【居住地区別】ほとんどの居住地区で「行政をはじめ、市民・地域・事業者などが協力し合う共創のまちづくりを推進し、持続可能な行政サービスを提供すればよい」が最も多い

今回調査（n=994）



- ☐ 行政サービスの水準は維持すべきであり、市民の負担が増えることはやむをえない
- ☐ 公共施設の利用料金など、行政サービスを直接受ける人の負担は増えてもやむをえない
- ☒ 行政をはじめ、市民・地域・事業者などが協力し合う共創のまちづくりを推進し、持続可能な行政サービスを提供すればよい
- ☐ 市民・地域・事業者の負担は増やさず、財政状況に応じた行政サービスを提供すればよい
- ☐ その他
- ☐ 無回答

■ 今回調査の結果

- ・「行政をはじめ、市民・地域・事業者などが協力し合う共創のまちづくりを推進し、持続可能な行政サービスを提供すればよい」(42.9%)が最も多く、次いで「市民・地域・事業者の負担は増やさず、財政状況に応じた行政サービスを提供すればよい」(22.5%)、「公共施設の利用料金など、行政サービスを直接受ける人の負担は増えてもやむをえない」(17.9%)などとなっている。

■ 傾 向

- 【性 別】 ・男女ともに「行政をはじめ、市民・地域・事業者などが協力し合う共創のまちづくりを推進し、持続可能な行政サービスを提供すればよい」が最も多く、次いで「市民・地域・事業者の負担は増やさず、財政状況に応じた行政サービスを提供すればよい」、「公共施設の利用料金など、行政サービスを直接受ける人の負担は増えてもやむをえない」などとなっている。
- 【年 代 別】 ・すべての年代で「行政をはじめ、市民・地域・事業者などが協力し合う共創のまちづくりを推進し、持続可能な行政サービスを提供すればよい」が最も多い。
 - ・30歳未満、30歳代は「公共施設の利用料金など、行政サービスを直接受ける人の負担は増えてもやむをえない」が次に多い。
 - ・40歳代、50歳代、60歳代、70歳代は「市民・地域・事業者の負担は増やさず、財政状況に応じた行政サービスを提供すればよい」が次に多い。
- 【居住地区別】 ・豊岡地区を除くすべての居住地区で「行政をはじめ、市民・地域・事業者などが協力し合う共創のまちづくりを推進し、持続可能な行政サービスを提供すればよい」が最も多い。
 - ・豊岡地区は「市民・地域・事業者の負担は増やさず、財政状況に応じた行政サービスを提供すればよい」(37.9%)が最も多い。

(2) 磐田市の効率的な行政運営のために、今後さらに進めなければならないこと

問38 磐田市においても行財政改革を推進し、効率的な行政運営に努めているところですが、今後さらに進めなければならないことは何だと思いませんか？＜○印を3つまで＞

◎磐田市の効率的な行政運営のために、今後さらに進めなければならないことは

- ・「職員数の適正化と人材育成の強化」
- ・「行政手続きや行政サービスのデジタル化・オンライン化の推進」
- ・「事業の選択と集中（不要不急の事業の見直し、新規事業の厳選）」

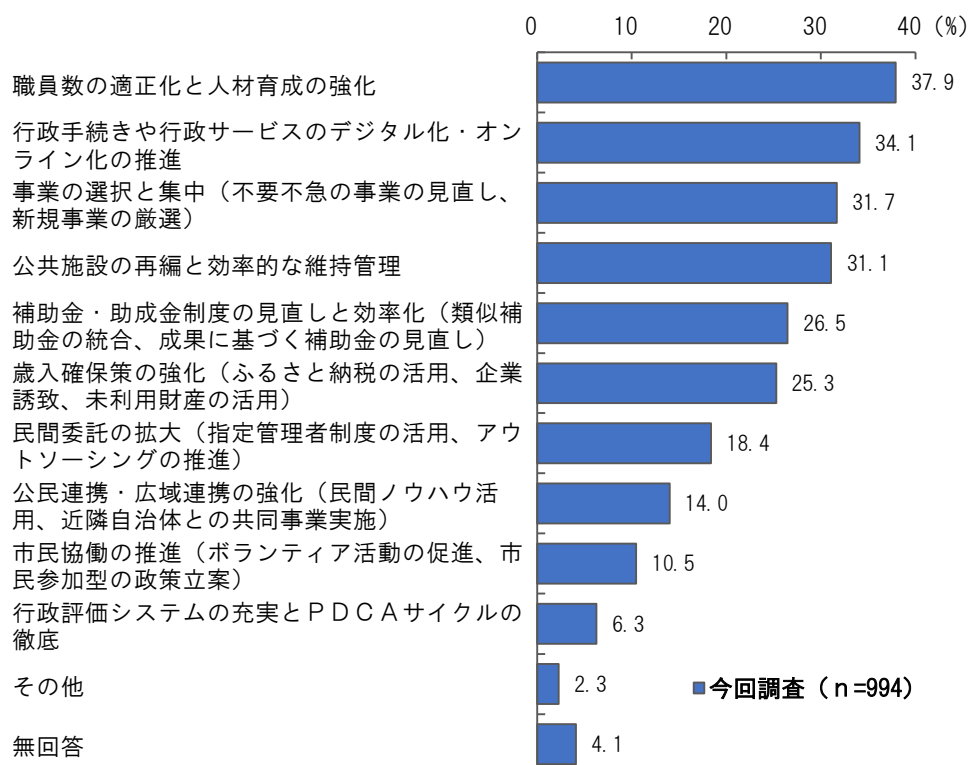
■傾向

【性別】男性は「行政手続きや行政サービスのデジタル化・オンライン化の推進」、女性は「職員数の適正化と人材育成の強化」が最も多い

【年代別】複数の年代で「行政手続きや行政サービスのデジタル化・オンライン化の推進」が最も多い

【居住地区別】複数の居住地区で最も多い項目は

- ・「職員数の適正化と人材育成の強化」
- ・「行政手続きや行政サービスのデジタル化・オンライン化の推進」



■今回調査の結果

- ・「職員数の適正化と人材育成の強化」(37.9%) が最も多く、次いで「行政手続きや行政サービスのデジタル化・オンライン化の推進」(34.1%)、「事業の選択と集中（不要不急の事業の見直し、新規事業の厳選）」(31.7%) などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】
- ・男性は「行政手続きや行政サービスのデジタル化・オンライン化の推進」(42.4%) が最も多く、次いで「職員数の適正化と人材育成の強化」(35.3%)、「公共施設の再編と効率的な維持管理」(33.8%) などとなっている。
 - ・女性は「職員数の適正化と人材育成の強化」(39.9%) が最も多く、次いで「事業の選択と集中（不要不急の事業の見直し、新規事業の厳選）」(30.7%)、「公共施設の再編と効率的な維持管理」(29.8%) などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・30 歳未満、30 歳代、40 歳代、50 歳代は「行政手続きや行政サービスのデジタル化・オンライン化の推進」が最も多い。
 - ・60 歳代は「公共施設の再編と効率的な維持管理」(39.5%) が最も多い。
 - ・70 歳以上は「職員数の適正化と人材育成の強化」(41.3%) が最も多い。
- 【居住地区別】
- ・見付地区は「職員数の適正化と人材育成の強化」「行政手続きや行政サービスのデジタル化・オンライン化の推進」(それぞれ 36.9%) が最も多い。
 - ・中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区、福田地区、竜洋地区、井通地区・青城地区、豊岡地区は「職員数の適正化と人材育成の強化」が最も多い。
 - ・西貝・御厨・南御厨・田原地区は「行政手続きや行政サービスのデジタル化・オンライン化の推進」(36.8%) が最も多い。
 - ・天竜・長野・於保地区は「公共施設の再編と効率的な維持管理」(37.0%) が最も多い。
 - ・富岡・豊田東・池田地区は「事業の選択と集中（不要不急の事業の見直し、新規事業の厳選）」(43.8%) が最も多い。

(3) デジタルの行政手続きや行政サービスで、今までに利用したことがあるもの

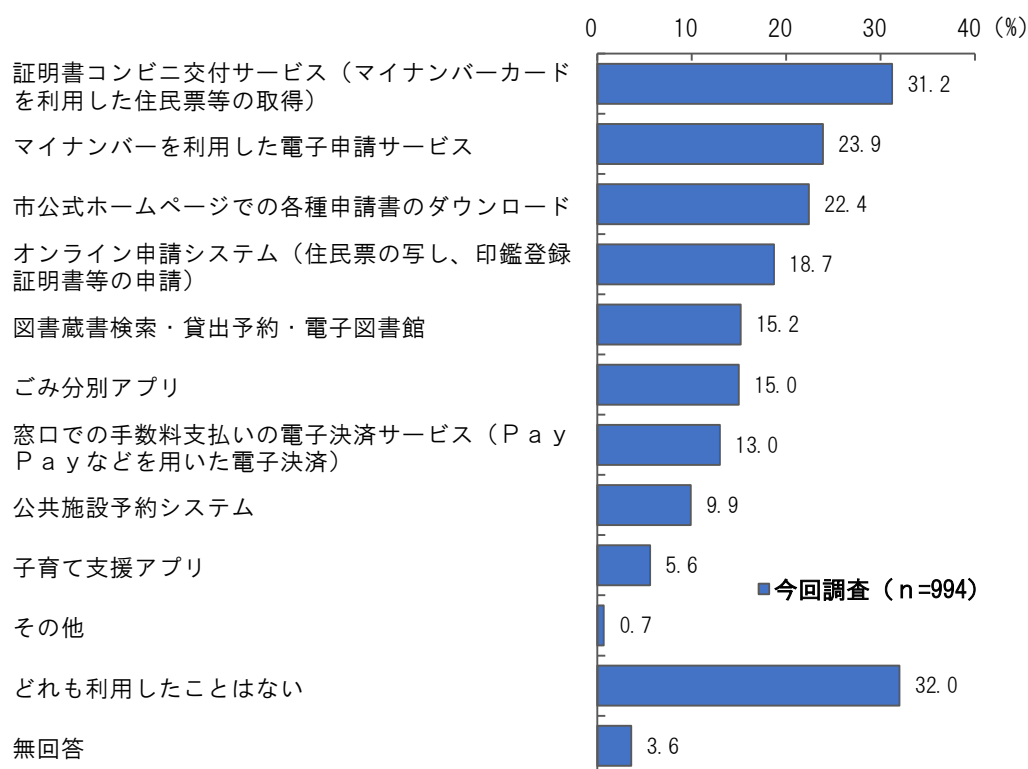
問39 市民サービス向上のため、行政手続きや行政サービスのデジタル化を進めています。今までに利用したことがあるものを教えてください。＜該当するものすべてに○印＞

◎デジタルの行政手続きや行政サービスで、今までに利用したことがあるものは

- ・「証明書コンビニ交付サービス（マイナンバーカードを利用した住民票等の取得）」
- ・「マイナンバーを利用した電子申請サービス」
- ・「市公式ホームページでの各種申請書のダウンロード」

■傾向

- 【性別】男女ともに「証明書コンビニ交付サービス（マイナンバーカードを利用した住民票等の取得）」が最も多い
- 【年代別】すべての年代で「証明書コンビニ交付サービス（マイナンバーカードを利用した住民票等の取得）」が最も多い
- 【居住地区別】複数の居住地区で「証明書コンビニ交付サービス（マイナンバーカードを利用した住民票等の取得）」が最も多い



■ 今回調査の結果

- ・「証明書コンビニ交付サービス（マイナンバーカードを利用した住民票等の取得）」（31.2%）が最も多く、次いで「マイナンバーを利用した電子申請サービス」（23.9%）、「市公式ホームページでの各種申請書のダウンロード」（22.4%）などとなっている。一方、「どれも利用したことはない」は 32.0% となっている。

■ 傾 向

- 【性 別】
- ・男性は「証明書コンビニ交付サービス（マイナンバーカードを利用した住民票等の取得）」（36.0%）が最も多く、次いで「市公式ホームページでの各種申請書のダウンロード」（29.0%）、「マイナンバーを利用した電子申請サービス」（28.5%）などとなっている。
 - ・女性は「証明書コンビニ交付サービス（マイナンバーカードを利用した住民票等の取得）」（27.1%）が最も多く、次いで「マイナンバーを利用した電子申請サービス」（21.1%）、「市公式ホームページでの各種申請書のダウンロード」（18.1%）などとなっている。
- 【年 代 別】
- ・すべての年代で「証明書コンビニ交付サービス（マイナンバーカードを利用した住民票等の取得）」が最も多い。
 - ・30 歳未満、30 歳代、50 歳代、70 歳以上は「マイナンバーを利用した電子申請サービス」が次に多い。
 - ・40 歳代、60 歳代は「市公式ホームページでの各種申請書のダウンロード」が次に多い。
- 【居住地区別】
- ・見付地区、中泉・今之浦地区、岩田・大藤・向笠地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、天竜・長野・於保地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区は「証明書コンビニ交付サービス（マイナンバーカードを利用した住民票等の取得）」が最も多い。
 - ・福田地区は「マイナンバーを利用した電子申請サービス」（20.5%）が最も多い。
 - ・豊岡地区は「市公式ホームページでの各種申請書のダウンロード」（34.5%）が最も多い。

15. 市政への市民参画について

(1) 市政参画の関心度

問40 あなたは、市政への参画についてどの程度関心がありますか？〈○印を1つ〉

◎市政への参画に『関心がある』（「非常に関心がある」＋「やや関心がある」）人は約5割

■前回調査との比較

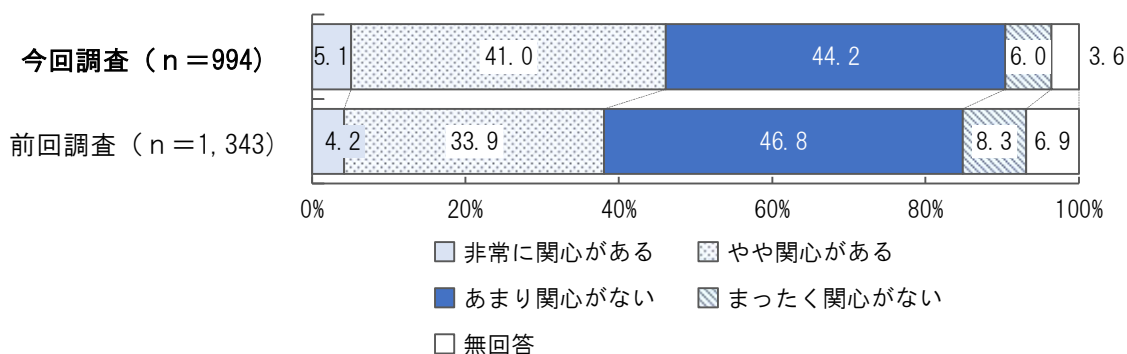
『関心がある』が増加している

■傾向

【性別】『関心がある』は男性が多い

【年代別】『関心がある』は30歳未満において最も多く、『関心がない』は50歳代において最も多い

【居住地区別】ほとんどの居住地区で『関心がある』が4割以上



■今回調査の結果

- ・『関心がある』（「非常に関心がある」＋「やや関心がある」）は46.2%、『関心がない』（「あまり関心がない」＋「まったく関心がない」）は50.2%となっている。
- ・「あまり関心がない」（44.2%）が最も多く、次いで「やや関心がある」（41.0%）、「まったく関心がない」（6.0%）などとなっている。

■前回調査との比較

- ・『関心がある』が8.1ポイント増加している。
- ・「やや関心がある」が7.1ポイント増加している。

■傾向

- 【性別】
- ・『関心がある』は男性が49.9%、女性が44.4%となっている。
 - ・「あまり関心がない」は男性が41.0%、女性が47.1%となっている。

- 【年代別】
- ・すべての年代で『関心がある』が4割を超えている。
 - ・『関心がある』は30歳未満（56.3%）において最も多く、次いで30歳代（48.9%）、70歳以上（47.4%）などとなっている。
 - ・『関心がない』は50歳代（58.1%）において最も多く、次いで40歳代と60歳代（それぞれ52.0%）などとなっている。

- 【居住地区別】
- ・天竜・長野・於保地区を除くすべての居住地区で『関心がある』が4割を超えている。
 - ・『関心がある』は中泉・今之浦地区（50.3%）において最も多く、次いで見付地区（49.4%）、竜洋地区（48.9%）などとなっている。
 - ・『関心がない』は福田地区（58.0%）において最も多く、次いで天竜・長野・於保地区（57.6%）、井通地区・青城地区（54.4%）などとなっている。

このページは白紙です

(2) 市民の市政参画を促すために、特に必要なこと

問41 市民の市政参画を促すために、特に必要なことは何だと思いますか？＜○印を3つまで＞

◎市民の市政参画を促すために、特に必要なことは

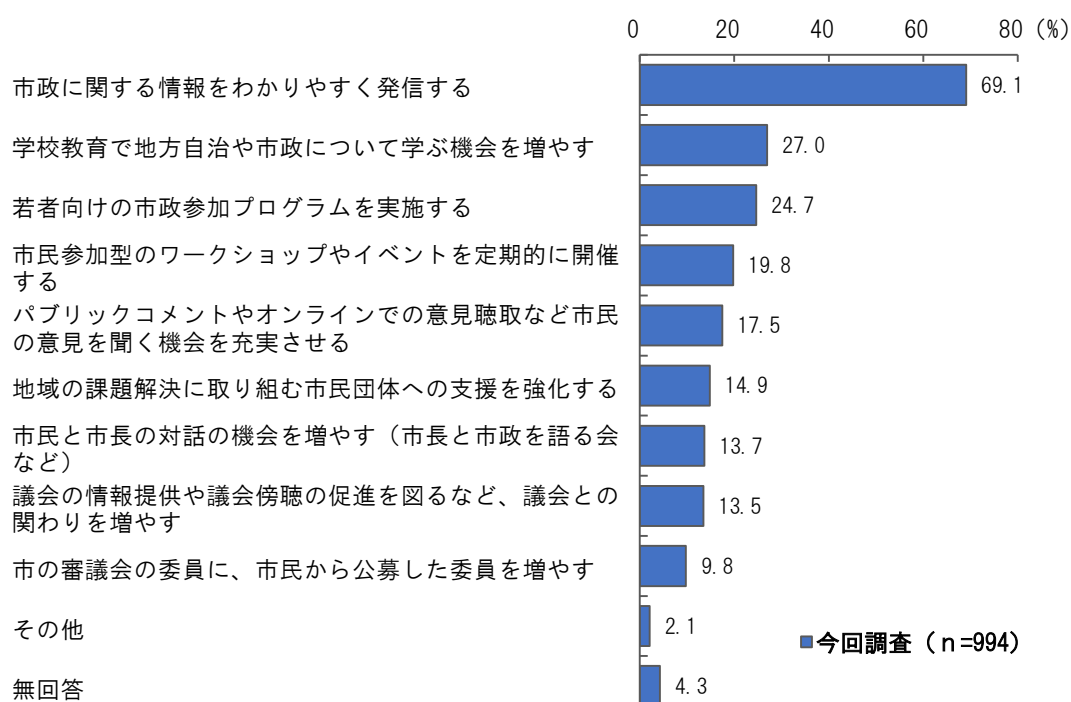
- ・「市政に関する情報をわかりやすく発信する」
- ・「学校教育で地方自治や市政について学ぶ機会を増やす」
- ・「若者向けの市政参加プログラムを実施する」

■傾向

【性別】男女ともに「市政に関する情報をわかりやすく発信する」が最も多い

【年代別】すべての年代で「市政に関する情報をわかりやすく発信する」が最も多い

【居住地区別】すべての居住地区で「市政に関する情報をわかりやすく発信する」が最も多い



■今回調査の結果

- ・「市政に関する情報をわかりやすく発信する」(69.1%)が最も多く、次いで「学校教育で地方自治や市政について学ぶ機会を増やす」(27.0%)、「若者向けの市政参加プログラムを実施する」(24.7%)などとなっている。

■傾 向

- 【性 別】 ・男女ともに「市政に関する情報をわかりやすく発信する」が最も多く、次いで「学校教育で地方自治や市政について学ぶ機会を増やす」、「若者向けの市政参加プログラムを実施する」などとなっている。
- 【年 代 別】 ・すべての年代で「市政に関する情報をわかりやすく発信する」が最も多い。
・30歳未満、40歳代、60歳代、70歳以上は「学校教育で地方自治や市政について学ぶ機会を増やす」が次に多い。
・30歳代は「若者向けの市政参加プログラムを実施する」(31.1%)が次に多い。
・50歳代は「学校教育で地方自治や市政について学ぶ機会を増やす」「市民参加型のワークショップやイベントを定期的に開催する」(それぞれ25.0%)が次に多い。
- 【居住地区別】 ・すべての居住地区で「市政に関する情報をわかりやすく発信する」が最も多い。
・見付地区、西貝・御厨・南御厨・田原地区、天竜・長野・於保地区、竜洋地区、富岡・豊田東・池田地区、井通地区・青城地区、豊岡地区は「学校教育で地方自治や市政について学ぶ機会を増やす」が次に多い。
・中泉・今之浦地区は「若者向けの市政参加プログラムを実施する」(34.0%)が次に多い。
・岩田・大藤・向笠地区は「学校教育で地方自治や市政について学ぶ機会を増やす」「パブリックコメントやオンラインでの意見聴取など市民の意見を聞く機会を充実させる」(それぞれ25.6%)が次に多い。
・福田地区は「学校教育で地方自治や市政について学ぶ機会を増やす」「地域の課題解決に取り組む市民団体への支援を強化する」(それぞれ23.9%)が次に多い。

付録 調査票

(1) 調査票

令和 7 年度 (2025 年度)
磐田市市民意識調査

《回答ご記入上の注意》

1. 宛名の方ご本人が回答をご記入ください。
2. ご本人様がお答えいただけない場合は、ご家族の方がお答えください。
3. 調査票や返信用封筒（切手不要）にお名前を書いていただく必要はありません。
4. お答えいただいた内容は、調査の目的以外に使用することはありません。
5. 回答は回答欄の番号に○印を、また（ ）内には具体的にお書きください。
6. 市民の皆様のお考えを市政に反映させるため、できる限り、すべての質問項目に回答していただきますよう、お願いいたします。
7. なお、問 5・問 35～36 をご回答の際には、別添資料を併せてご覧ください。
8. 回答の記入が済みましたら、記入漏れがないかをご確認の上、7月9日（水）
までに同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにお近くのポストにご投函ください。
なお、ウェブから回答する場合は、紙の調査票を返信していただく必要はありません。

《このアンケートはウェブからでも回答できます》

以下の URL もしくは二次元コードにアクセスいただき、下記の ID 番号とパスワードを入力の上、アンケートにご回答をお願いいたします。

ID 番号：

パスワード：

URL

<https://logoform.jp/f/KRmas>



ID 番号とパスワードはウェブ回答の重複回答を防ぐためのものであり、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容がほかに漏れたりすることは一切ありません。

【お問い合わせ先】磐田市企画部政策推進課

〒438-8650 磐田市国府台 3 番地 1 電話：0538-37-4805 FAX：0538-36-8954

第1章 磐田市のまちづくりについて

1 市の取組みについてお聞きます。

問1 市政全般について、どの程度満足していますか？＜○印を1つ＞

- | | | | |
|------|--------|--------|------|
| 1 満足 | 2 やや満足 | 3 やや不満 | 4 不満 |
|------|--------|--------|------|

問2 市役所の窓口サービスについて、どの程度満足していますか？＜○印を1つ＞

- | | | | |
|------|--------|--------|------|
| 1 満足 | 2 やや満足 | 3 やや不満 | 4 不満 |
|------|--------|--------|------|

問3は、問2で「3 やや不満」又は「4 不満」とお答えの方にお聞きます。◀

問3 その一番の理由は何ですか？＜○印を1つ＞

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 職員の接客態度が悪い | 2 仕事が遅い・待たされる |
| 3 利用時間が不便 | 4 仕事が縦割り |
| 5 手続きがわかりにくい | 6 職員にコスト意識がない |
| 7 仕事のやり方に柔軟性がない | 8 職員の責任感が足りない |
| 9 その他（ ） | |

問4 磐田市では、市の行事や行政サービスなどをお知らせするために、様々な広報活動を行っています。あなたは、普段、市からの情報を何を通じて得ていますか？

＜該当するものすべてに○印＞

- | |
|--------------------------------------|
| 1 広報いわた（紙媒体） |
| 2 広報いわた（電子媒体） |
| 3 議会だより「いわた羅針盤」 |
| 4 市ホームページ |
| 5 自治会などの回覧板 |
| 6 いわたホッとメール※1 |
| 7 市の公式LINEアカウント |
| 8 市の公式SNSアカウント（フェイスブック・Instagram・X等） |
| 9 磐田市情報館※2 |
| 10 新聞やテレビのニュース |
| 11 SBSラジオ「磐田市情報館発！磐田情報局」※3 |
| 12 公共掲示板（市役所や駅、公共施設に設置されている掲示板など） |
| 13 その他（ ） |

※1 携帯電話やパソコンなどのメール機能を利用して、防犯や子育て、イベント、同報無線放送内容など利用者が希望する項目を選択、登録することで、リアルタイムに情報を受け取れるサービス

※2 「ららぽーと磐田」内にある観光や産業をはじめとした市内の各種情報発信拠点

※3 SBSラジオ放送を活用し、「商工」「観光」など磐田市の旬な情報を毎週金曜日に発信

問5 市では、「安心できるまち、人が集まる磐田市」の実現に向け、総合計画に示す次の31の基本施策に取り組んでいます。次の①から⑩の各項目の満足度と重要度について、どのように感じていますか？記入例を参考に、それぞれ最も近いものを選んで○をつけてください。＜○印をそれぞれ1つ＞

※基本施策の主な内容は、別添資料（1～4ページ）をご参照ください。

分野	基本施策	満足度				重要度			
		満足	やや満足	やや不満	不満	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない
例	例 ○○○○○の推進	①	2	3	4	1	②	3	4
産業・雇用・観光・移住定住	① 元気な農林水産業の育成	1	2	3	4	1	2	3	4
	② 中小企業等の競争力強化と企業立地の推進	1	2	3	4	1	2	3	4
	③ 産業を担う人材の育成・就労の支援	1	2	3	4	1	2	3	4
	④ 交流人口の拡大と商業・サービス業の活性化	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑤ ブランド力の強化とシティプロモーションの推進	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑥ 移住・定住の推進	1	2	3	4	1	2	3	4
自治・スポーツ・文化・歴史・共生	⑦ コミュニティと市民活動の活性化	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑧ スポーツの振興	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑨ 文化の振興と歴史遺産の整備、活用	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑩ 学習機会の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑪ 共生社会の確立	1	2	3	4	1	2	3	4
子育て・教育	⑫ 子ども・子育て支援の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑬ 特色ある教育の推進	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑭ 子ども・若者の健全育成	1	2	3	4	1	2	3	4

分野	<div> <div>最も近いものに○印を1つずつ⇒</div> <div>基本施策</div> </div>	満足度				重要度			
		満足	やや満足	やや不満	不満	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない
福祉・健康	⑮ 地域福祉の推進	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑯ 高齢者福祉の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑰ 障がい児者福祉の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑱ 健康づくりの推進	1	2	3	4	1	2	3	4
	⑲ 地域医療体制の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
防災・消防・安全安心	⑳ 危機管理・防災対策の推進	1	2	3	4	1	2	3	4
	㉑ 消防・救急体制の充実	1	2	3	4	1	2	3	4
	㉒ 市民生活の安全・安心の確保	1	2	3	4	1	2	3	4
都市基盤・環境	㉓ 計画的な土地利用の推進	1	2	3	4	1	2	3	4
	㉔ 公共交通体系と道路網の整備	1	2	3	4	1	2	3	4
	㉕ 良好な住環境の整備	1	2	3	4	1	2	3	4
	㉖ 水道水の安定供給と下水道の整備	1	2	3	4	1	2	3	4
	㉗ 環境にやさしい社会の確立	1	2	3	4	1	2	3	4
	㉘ 快適な生活環境の確保	1	2	3	4	1	2	3	4
行財政改革	㉙ 効率的・効果的な行政運営の推進	1	2	3	4	1	2	3	4
	㉚ 持続可能な財政基盤の確立	1	2	3	4	1	2	3	4
	㉛ 機動的な組織体制の構築と人材の育成	1	2	3	4	1	2	3	4

問6 全国的な人口減少が進む中、磐田市では、2060年（令和42年）に総人口13万5千人を確保することを目指しています。（※ 2025年3月末人口：16万4,914人）

問5の①から⑩の取組みのうち、人口減少問題に対して特に重要だと思うものはどれですか？5つまで選んで、その取組みの番号を記入してください。

番号					
----	--	--	--	--	--

問7 人口減少対策の一環として、進学や就職等により県外に転出した若者のUターンを促進するためには、どのような施策が有効だと思いますか？＜○印を3つまで＞

- | |
|--------------------------------|
| 1 磐田市への「誇り」や「愛着」を醸成する取組み |
| 2 磐田市の企業を知ってもらう機会の創出 |
| 3 磐田市の企業とのマッチング支援や就職情報の提供 |
| 4 起業など若者がチャレンジしやすい環境の整備 |
| 5 転居にかかる諸費用や奨学金返済などの経済的な支援 |
| 6 親族との近居同居を推進する取組み |
| 7 磐田市に関する情報の定期的な発信など、“つながり”の維持 |
| 8 まちのにぎわいの創出 |
| 9 若者が希望する職種の企業誘致 |
| 10 その他（ ） |

2 まちへの想いについてお聞きます。

問8 あなたは磐田市に愛着や親しみを感じていますか？＜○印を1つ＞

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 おおいに感じている | 2 少し感じている |
| 3 あまり感じていない | 4 まったく感じていない |

問9 磐田市が誇れるもの、あるいは磐田市を象徴するものは何だと思いますか？

＜○印を3つまで＞

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 1 国分寺跡や旧見付学校などの歴史遺産 | 2 遠州灘や天竜川をはじめとする水資源 |
| 3 山や森などの森林資源 | 4 桶ヶ谷沼などの自然環境 |
| 5 自動車、バイク、楽器、繊維業などの産業 | 6 メロンやお茶、シラスなどの特産品 |
| 7 掛塚まつりや見付天神裸祭などの伝統文化 | 8 住んでいる人の人柄 |
| 9 ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなどのスポーツ資源 | |
| 10 磐田市イメージキャラクター「しっぺい」 | |
| 11 その他（ ） | |

問10 これからも磐田市に住み続けたいと思いますか？＜○印を1つ＞

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 ずっと住み続けたい | 2 当分の間、住み続けたい |
| 3 できれば市外へ転出したい | 4 すぐにでも市外へ転出したい |

問11 磐田市は暮らしやすいと思いますか？＜○印を1つ＞

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 暮らしやすい（問12へ） | 2 どちらかといえば暮らしやすい（問12へ） |
| 3 どちらかといえば暮らしにくい（問13へ） | 4 暮らしにくい（問13へ） |

→問12は、問11で「1 暮らしやすい」又は「2 どちらかといえば暮らしやすい」とお答えの方にお聞きします。

問12 あなたが思う、磐田市の「暮らしやすい」ところはどこですか？＜○印を3つまで＞

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 公共交通機関が充実している | 2 医療サービスが充実している |
| 3 福祉サービスの水準が高い | 4 子育ての環境が充実している |
| 5 子どもの教育環境が充実している | 6 公園などの憩いの場が豊富 |
| 7 文化活動を行う場が豊富 | 8 スポーツをする場が豊富 |
| 9 街並みが美しい | 10 娯楽施設が充実している |
| 11 働く場所が多い | 12 住まいの環境が良好 |
| 13 近隣の人々とのきずなが強い | 14 災害に強い |
| 15 上下水道が整備されている | |
| 16 その他（ | ） |

→問13は、問11で「3 どちらかといえば暮らしにくい」又は「4 暮らしにくい」とお答えの方にお聞きします。

問13 あなたが思う、磐田市の「暮らしにくい」ところはどこですか？＜○印を3つまで＞

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 公共交通機関が不十分 | 2 医療サービスが不十分 |
| 3 福祉サービスの水準が低い | 4 子育ての環境が不十分 |
| 5 子どもの教育環境が不十分 | 6 公園などの憩いの場が乏しい |
| 7 文化活動を行う場が乏しい | 8 スポーツをする場が乏しい |
| 9 街並みが美しくない | 10 娯楽施設が不十分 |
| 11 働く場所が少ない | 12 住まいの環境が良好ではない |
| 13 近隣の人々とのきずなが弱い | 14 災害に弱い |
| 15 上下水道が整備されていない | |
| 16 その他（ | ） |

3 コミュニティについてお聞きします。

問 14 あなたはどのような地域活動に参加していますか？＜該当するものすべてに○印＞

- | |
|---------------------------|
| 1 自治会活動 |
| 2 学校行事（PTAなど） |
| 3 地域での祭やイベント活動 |
| 4 ボランティア活動 |
| 5 子ども会・老人クラブなどの地域活動 |
| 6 環境・リサイクルなどの活動 |
| 7 スポーツ・レクリエーション活動 |
| 8 国際交流活動 |
| 9 その他（ ） |
| 10 参加していない ⇒問 16 へお進みください |

→問 15 は、問 14 で何らかの地域活動に参加しているとお答えの方にお聞きします。

問 15 あなたが、地域活動に参加する理由は何ですか？＜該当するものすべてに○印＞

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1 活動内容に興味・関心があるから | 2 地域や住民の役に立つことができるから |
| 3 参加者同士の交流ができるから | 4 地域の様子を知ることができるから |
| 5 いきがいにつながるから | 6 知り合いや家族が参加しているから |
| 7 時間に余裕があるから | 8 順番がまわってきたから |
| 9 その他（ ） | |

→問 16 は、問 14 で地域活動に「10 参加していない」とお答えの方にお聞きします。

問 16 あなたが、地域活動に参加していない主な理由は何ですか？＜○印を1つ＞

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 活動の情報（回覧板など）がないから | 2 活動の日程が合わないから |
| 3 一人では参加しづらいから | 4 活動時間が長いから |
| 5 人間関係が面倒だから | 6 興味がある活動がないから |
| 7 活動の必要性を感じていないから | 8 仕事等が忙しく参加する時間がないから |
| 9 その他（ ） | |

全員にお聞きます。

問 17 地域活動をより活発にするための支援策として、特に優先すべきものは何だと思いますか？

＜○印を3つまで＞

- 1 活動機会の情報提供の充実
- 2 相談窓口の充実
- 3 リーダーの育成や研修の実施
- 4 小・中学校と地域との連携強化
- 5 活動に対する補助金・助成金支援
- 6 交流センターの整備・機能強化
- 7 組織・団体間の連絡体制のデジタル化支援
- 8 地域づくり協議会^{※1}等組織の育成・強化
- 9 先進事例の情報提供の実施
- 10 その他（ ）

※1 地域の連携体制や団体・活動の見直しなど、地域課題への対応策を考える組織

4 産業（商業・工業・農林水産業）についてお聞きます。

問 18 今後、市内の産業をさらに活性化するために、特に優先すべきものは何だと思いますか？

＜○印を3つまで＞

- 1 地元企業の経営に対する支援強化（補助金、税制優遇など）
- 2 働く人（若者・移住者・外国人・シニア世代等）の確保に対する支援強化
- 3 新規企業の誘致促進
- 4 今ある産業・商品を、成長が期待できる産業・商品へ転換するための支援
- 5 農業のICT化・スマート農業の推進（デジタル技術・先端技術の活用）
- 6 観光産業の振興（地域資源の活用、イベントの充実）
- 7 産学官連携の強化（大学や研究機関との協力、公民連携の推進）
- 8 地域ブランドの確立と販路拡大支援
- 9 起業・創業支援の充実（相談窓口、セミナーの開催など）
- 10 人材育成・職業訓練プログラムの拡充（異業種交流、リスキリング^{※1}の機会充実など）
- 11 地域資源を活用した6次産業化^{※2}の推進
- 12 その他（ ）

※1 新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得すること

※2 生産（第1次）、食品加工（第2次）、流通・販売（第3次）にも生産者が主体的・総合的に関わることで高付加価値化を図る経営方法

5 福祉についてお聞きします。

問19 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、特に優先すべきものは何だと思いますか？＜○印を3つまで＞

- 1 住民がともに支え合う仕組みづくりへの支援（地域のつながりづくり）
- 2 医療・介護・予防・住まい・生活支援についての身近な相談窓口の充実
- 3 認知症や独居高齢者の支援拡充（早期発見・早期対応、在宅介護、家族支援など）
- 4 障がい者の就労支援など社会参加の促進
- 5 生活困窮者への総合的な支援（相談窓口の充実、就労支援、食糧支援など）
- 6 専門的な診療や検査、救急などの医療サービスの拡充
- 7 福祉人材の確保・育成（介護職員、保育士など）
- 8 多世代交流の場の創出（コミュニティカフェ、世代間交流イベントなど）
- 9 道路・商店・病院・公共交通機関などのバリアフリー化
- 10 公共交通など移動手段の確保
- 11 その他（ ）

6 子育て・教育についてお聞きします。

問20 安心して子どもを産み育てるために、特に優先すべきものは何だと思いますか？
＜○印を3つまで＞

- 1 子育て世代が集える交流スペースの整備（親子カフェ、屋内遊び場など）
- 2 保育所・認定こども園の充実と待機児童の解消
- 3 子育て世帯への経済的支援の拡充
- 4 産前産後ケアの充実（妊婦健診の無料化、産後ヘルパー派遣など）
- 5 子育て相談窓口の拡充と専門スタッフの増員
- 6 放課後児童クラブ（学童保育）の充実
- 7 地域ぐるみの子育て支援ネットワークの構築
- 8 仕事と育児の両立支援（育児休業制度の充実、企業への働きかけ）
- 9 子どもの発達支援対策の充実
- 10 小児医療体制の強化（24時間対応の小児科病院、休日診療所の充実）
- 11 その他（ ）

問21 子どもたちに対する教育を充実させるために、特に優先すべきものは何だと思いますか？

＜○印を3つまで＞

- 1 教育現場の待遇改善（教職員の増員や働きやすい環境の整備など）
- 2 不登校・いじめ対策の強化（カウンセラーの増員、相談体制の充実）
- 3 学校施設の改修・整備（エアコン設置、トイレの洋式化、バリアフリー化など）
- 4 放課後学習支援の拡充（学習教室の開設、学習ボランティアの活用）
- 5 ICT教育の推進（1人1台端末を積極的に活用した授業の推進）
- 6 英語教育の強化（ALTの増員、海外交流プログラムの拡充）
- 7 探究的な学び[※]の推進
- 8 郷土教育の充実（地域の歴史・文化・産業についての学習機会の増加）
- 9 特別支援教育の充実（支援員の増員、個別指導の強化）
- 10 地域と連携したキャリア教育の推進
- 11 その他（ ）

※ 探究的な学びとは、生徒自身が自分で問題を設定し、その問題を解決するために情報を収集・分析し、意見を交換したり協働したりしながら進める学習活動のこと

7 環境についてお聞きします。

問22 あなたは環境に配慮した取組みを行っていますか？＜該当するものすべてに○印＞

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 マイバッグの持参 | 2 水筒（マイボトル）の持参 |
| 3 節電・節水の取組み | 4 ごみと資源の分別の徹底 |
| 5 太陽光発電設備の導入 | 6 蓄電池の設置 |
| 7 電気自動車（EV車）の利用 | 8 公共交通機関や自転車での移動 |
| 9 環境美化活動への参加 | |
| 10 その他（ ） | |
| 11 どれも行っていない | |

問23 カーボンニュートラルの取組みを推進するために、特に優先すべきものは何だと思いますか？

＜○印を3つまで＞

- | | |
|----------------------------|----------------------------------|
| 1 再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の導入拡大 | |
| 2 省エネ住宅・建築物の普及支援 | |
| 3 電気自動車（EV）の普及と充電インフラの整備 | |
| 4 公共交通機関の利用促進と自転車専用道路の整備 | |
| 5 環境教育の充実と市民向けの意識啓発 | 6 事業者向けCO ₂ 削減支援制度の拡充 |
| 7 緑地の保全・創出と都市緑化の推進 | 8 ごみの減量化とリサイクルの推進 |
| 9 スマートシティ化による効率的なエネルギー管理 | |
| 10 その他（ ） | |

8 防災についてお聞きます。

問24 磐田市の総合的な防災対策として、特に優先すべきものは何だと思いますか？

＜○印を3つまで＞

- 1 自主防災会活動の強化
- 2 企業・事業所との防災協力体制の強化
- 3 家庭での防災対策（耐震化、備蓄等）
- 4 洪水・土砂災害ハザードマップの周知と理解促進
- 5 避難所・避難場所の周知と整備（備蓄品含む）
- 6 要配慮者（高齢者、障がい者等）への支援体制の構築
- 7 災害時の医療救護体制の整備
- 8 インフラの整備（河川の堤防強化や排水施設の整備、道路や橋梁の耐震化）
- 9 津波対策としての海岸防潮堤の整備
- 10 災害時の情報収集・伝達システムの強化
- 11 その他（)

9 学びについてお聞きます。

問25 磐田市では、すべての世代が生涯豊かに暮らせるよう、学びを楽しみ、人と人との対話を通じた交流が生まれるまちを目指していますが、今後さらに進めなければならないことは何だと思いますか。＜○印を3つまで＞

- 1 多世代交流イベントの定期的な開催
- 2 生涯学習講座（交流センター等）の充実
- 3 地域の歴史や文化を学ぶ機会の拡充
- 4 著名人や専門家による講演会の開催
- 5 オンラインを活用した学習機会の提供
- 6 学校と地域の連携強化
- 7 高齢者の知識・経験を活かすシニアボランティア制度の拡充
- 8 外国人住民との交流・相互理解促進プログラムの実施
- 9 市民主導の学習グループ・サークル活動への支援強化
- 10 学んだ知識・技能・経験を発表・実践する機会の充実
- 11 その他（)

10 物価高騰に対する影響についてお聞きます。

問26 近年の様々な物価高騰の影響のうち、特に影響が大きいと実感しているものはどれですか？

＜○印を3つまで＞

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 食料品や日用品の価格上昇 | 2 光熱費（電気・ガス代）の増加 |
| 3 ガソリン代の高騰 | 4 外食や娯楽にかかる費用の増加 |
| 5 貯蓄や将来の計画への影響 | 6 子育てや教育費用の負担増 |
| 7 住宅関連費用（家賃や住宅ローン）の増加 | 8 医療費や介護費用の負担増 |
| 9 その他（ | ） |

問27 物価高騰への対策として、どのようなことが特に重要だと思いますか？

＜○印を3つまで＞

- | |
|-----------------------------|
| 1 低所得者向けの生活支援給付金の支給 |
| 2 子育て世帯向けの支援金や食料品の配布 |
| 3 高齢者向けの生活支援サービスの拡充 |
| 4 就労支援や職業訓練プログラムの強化 |
| 5 公共料金の負担軽減 |
| 6 市内の中小企業・小規模事業者への経営支援強化 |
| 7 地元農産物の直売所拡充による食料品価格の安定化 |
| 8 市内での消費喚起策（プレミアム付商品券の発行など） |
| 9 エネルギー効率の良い設備導入への補助金制度の拡充 |
| 10 その他（ |

11 男女共同参画社会についてお聞きます。

問28 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについてどう思いますか？＜○印を1つ＞

- | |
|--------------|
| 1 賛成 |
| 2 どちらかといえば賛成 |
| 3 どちらかといえば反対 |
| 4 反対 |
| 5 わからない |

問29 あなたは、次のような分野で女性の意見がどの程度反映されていると思いますか？記入例を参考に、それぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。＜○印をそれぞれ1つ＞

分 野 \ 選択肢	十分反映 されている	ある程度反映 されている	あまり反映 されていない	ほとんど反映 されていない	わからない
例 ○○○○などの場	1	②	3	4	5
① 市議会などの政治	1	2	3	4	5
② 市などの行政	1	2	3	4	5
③ 企業などの職場	1	2	3	4	5
④ 地域づくり協議会や自治会、PTAなどの地域	1	2	3	4	5

問30 男女ともに家庭生活や地域生活、仕事の場で活躍していくためには、特に必要なことは何だと思いますか？＜○印を3つまで＞

- 1 家事・育児参加に対する男性の抵抗感をなくすこと
- 2 年配者や周りの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 3 社会の中で男性による家事、子育て、介護、地域活動についての理解を高めること
- 4 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 5 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 6 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、相談しやすい窓口を設けること
- 7 性別に関係なく能力がある人には責任ある仕事を任せること
- 8 女性自身が責任ある立場につくことへの抵抗感をなくすこと
- 9 育児休暇・介護休暇を男女ともに取得する環境づくりを進めること
- 10 子どものころから男女ともに家事、育児のスキルを身につけること
- 11 その他（ ）

12 多文化共生社会についてお聞きします。

問31 外国人に対する差別や差別意識があると思いますか？＜○印を1つ＞

- 1 差別があると感じる
- 2 ときどき差別を感じる
- 3 あまり差別はないと感じる
- 4 差別はないと感じる

問32 外国人と日本人が互いを尊重し、対等な立場で暮らすために最も必要なことは何だと思いますか？＜○印を1つ＞

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 お互いが日常的にあいさつする | 2 外国人の地域活動への参加を促す |
| 3 外国人が日本語を身につける | 4 外国人に地域のルールや習慣を伝える |
| 5 お互いの文化・習慣を学ぶ | |
| 6 その他（ | ） |

問33 あなたが生活している地域では、防災訓練や草刈り等の地域活動に外国人住民は参加していますか？＜○印を1つ＞

- | | |
|------------|----------------|
| 1 よく参加している | 2 とくとき参加している |
| 3 参加していない | 4 参加しているかわからない |

問34 防災訓練や草刈り等の地域活動に外国人住民の参加を促すために必要なことは何だと思いますか？＜該当するものすべてに○印＞

- | |
|-------------------------|
| 1 外国人に自治会への加入を促す |
| 2 多言語で案内チラシを作成する |
| 3 日本人向けに外国人対応マニュアルを作成する |
| 4 外国人を雇用する企業に協力を依頼する |
| 5 その他（ |

13 セクシュアルマイノリティ（性的少数者）についてお聞きします。

※セクシュアルマイノリティについては、別添資料（5 ページ）をご参照ください。

問35 あなたは、セクシュアルマイノリティ（性的少数者）という言葉を知っていましたか？＜○印を1つ＞

- | |
|-----------------------|
| 1 言葉も意味も知っていた |
| 2 言葉は知っていたが、意味は知らなかった |
| 3 知らなかった |

問36 セクシュアルマイノリティ（性的少数者）と言われる方々は、周囲の理解不足や偏見などにより、社会の中で様々な困難に直面しています。あなたは身近な人（家族・友人等）から、セクシュアルマイノリティであると打ち明けられたとき、受け入れることができますか？＜○印を1つ＞

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 受け入れることができる | 2 受け入れることはできない |
| 3 わからない | |

14 行政運営についてお聞きます。

問37 地方自治体を取り巻く財政状況は厳しく、今までの行政サービスをすべて同じ水準で維持することは難しい状況です。このような時代の中、これからの行政サービスの水準と市民の負担のあり方についてどう思いますか？＜○印を1つ＞

- 1 行政サービスの水準は維持すべきであり、市民の負担が増えることはやむをえない
- 2 公共施設の利用料金など、行政サービスを直接受ける人の負担は増えてもやむをえない
- 3 行政をはじめ、市民・地域・事業者などが協力し合う共創のまちづくりを推進し、持続可能な行政サービスを提供すればよい
- 4 市民・地域・事業者の負担は増やさず、財政状況に応じた行政サービスを提供すればよい
- 5 その他（ ）

問38 磐田市においても行財政改革を推進し、効率的な行政運営に努めているところですが、今後さらに進めなければならないことは何だと思いませんか？＜○印を3つまで＞

- 1 行政手続きや行政サービスのデジタル化・オンライン化の推進
- 2 民間委託の拡大（指定管理者制度の活用、アウトソーシングの推進）
- 3 公共施設の再編と効率的な維持管理
- 4 職員数の適正化と人材育成の強化
- 5 事業の選択と集中（不要不急の事業の見直し、新規事業の厳選）
- 6 市民協働の推進（ボランティア活動の促進、市民参加型の政策立案）
- 7 公民連携・広域連携の強化（民間ノウハウ活用、近隣自治体との共同事業実施）
- 8 歳入確保策の強化（ふるさと納税の活用、企業誘致、未利用財産の活用）
- 9 補助金・助成金制度の見直しと効率化（類似補助金の統合、成果に基づく補助金の見直し）
- 10 行政評価システムの充実とPDCAサイクルの徹底
- 11 その他（ ）

問39 市民サービス向上のため、行政手続きや行政サービスのデジタル化を進めています。
今までに利用したことがあるものを教えてください。＜該当するものすべてに○印＞

- | | |
|----|---|
| 1 | 市公式ホームページでの各種申請書のダウンロード |
| 2 | オンライン申請システム（住民票の写し、印鑑登録証明書等の申請） |
| 3 | 証明書コンビニ交付サービス（マイナンバーカードを利用した住民票等の取得） |
| 4 | マイナンバーを利用した電子申請サービス |
| 5 | 公共施設予約システム |
| 6 | 窓口での手数料支払いの電子決済サービス（PayPayなどを用いた電子決済） |
| 7 | 図書蔵書検索・貸出予約・電子図書館 |
| 8 | 子育て支援アプリ |
| 9 | ごみ分別アプリ |
| 10 | その他（ ） |
| 11 | どれも利用したことはない |

15 市政への市民参画についてお聞きます。

問 40 あなたは、市政への参画についてどの程度関心がありますか？＜○印を1つ＞

- | | | | |
|---|----------|---|-----------|
| 1 | 非常に関心がある | 2 | やや関心がある |
| 3 | あまり関心がない | 4 | まったく関心がない |

問 41 市民の市政参画を促すために、特に必要なことは何だと思えますか？

＜○印を3つまで＞

- | | |
|----|---|
| 1 | 市政に関する情報をわかりやすく発信する |
| 2 | 市民と市長の対話の機会を増やす（市長と市政を語る会など） |
| 3 | 議会の情報提供や議会傍聴の促進を図るなど、議会との関わりを増やす |
| 4 | パブリックコメントやオンラインでの意見聴取など市民の意見を聞く機会を充実させる |
| 5 | 若者向けの市政参加プログラムを実施する |
| 6 | 市民参加型のワークショップやイベントを定期的に開催する |
| 7 | 市の審議会の委員に、市民から公募した委員を増やす |
| 8 | 地域の課題解決に取り組む市民団体への支援を強化する |
| 9 | 学校教育で地方自治や市政について学ぶ機会を増やす |
| 10 | その他（ ） |

16 磐田市のまちづくりについて自由な意見をお聞かせください。

問42 市民の皆さんの暮らしを豊かにするために、意見や提案（アイデア）、磐田市の将来像や夢をお持ちでしたら、ぜひ、お聞かせください。

第2章 回答者ご自身について

17 最後に、あなた（回答者）ご自身についてお聞きします。

問43 あなたの性別をお答えください。＜○印を1つ＞

- 1 男性
- 2 女性
- 3 回答しない

問44 あなたの年齢をお答えください。＜○印を1つ＞

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 20歳未満 | 2 20～29歳 | 3 30～39歳 |
| 4 40～49歳 | 5 50～59歳 | 6 60～69歳 |
| 7 70～79歳 | 8 80歳以上 | |

問45 あなたの職業をお答えください。＜○印を1つ＞

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1 勤め人（会社員・公務員・団体職員） | 2 会社・団体の役員 |
| 3 農林漁業の自営業 | 4 商・工・サービス業等の自営業 |
| 5 自由業・専門的職業（開業医、弁護士、芸術家等） | |
| 6 パート・アルバイト | 7 学生 |
| 8 専業主婦（夫） | 9 無職 |
| 10 その他（ | ） |

問 46 ご家族の構成をお答えください。＜○印を1つ＞

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 単身（ひとり暮らし） | 2 一世代（夫婦のみ） |
| 3 二世帯（親と子） | 4 三世帯（親と子と孫） |
| 5 兄弟姉妹 | 6 その他（ ） |

問 47 あなたには、市内にお住まいの別世帯のご親族（親・子・孫・兄弟など）はいますか？
＜○印を1つ＞

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 48 あなたのお住まいの地区をお答えください。＜○印を1つ＞

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1 見付地区 | 2 中泉地区 |
| 3 今之浦地区 | 4 岩田・大藤・向笠地区 |
| 5 西貝・御厨・南御厨・田原地区 | 6 天竜・長野・於保地区 |
| 7 福田地区 | 8 竜洋地区 |
| 9 富岡・豊田東・池田地区（豊田中学校区） | 10 井通地区・青城地区（豊田南中学校区） |
| 11 豊岡地区 | |
| 12 わからない（具体的な地名をご記入ください： ） | |

問 49 あなたの磐田市にお住まいの年数をお答えください。＜○印を1つ＞

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 2年未満 | 2 2年以上5年未満 |
| 3 5年以上10年未満 | 4 10年以上20年未満 |
| 5 20年以上 | |

問 50 あなたが使用している携帯電話についてお答えください。＜○印を1つ＞

※複数台所有している場合は、メインで使用している携帯電話についてお答えください。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 スマートフォン（スマホ） | 2 フィーチャーフォン（ガラケー） |
| 3 携帯電話を所持していない | |

問 51 あなたは「ウェルビーイング」という言葉をご存知ですか？＜○印を1つ＞

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 言葉も意味も知っている | 2 言葉は知っているが、意味は知らない |
| 3 知らない | |

アンケート調査は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

7月9日（水）までに、返信用封筒に入れ、
切手を貼らずに、お近くのポストにご投函ください。

令和7年度（2025年度）

磐田市市民意識調査

資 料

調査票にご回答いただく際の参考資料として、ご覧ください。

－ 目 次 －

1. 問5 基本施策の主な内容

1 ページ

調査票2～3ページ 問5

2. 「13 セクシュアルマイノリティ（性的少数者）について」 5 ページ

調査票 13 ページ 問 35～問 36

※ご回答が終わりましたら、この資料は返送せず、お手元にて保管ください。

1. 問5 基本施策の主な内容

(調査票2～3ページ 問5)

分野	基本施策	主な内容
産業・雇用・観光・移住定住	1 元気な農林水産業の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の育成や特産品(海老芋)承継事業の推進などによる担い手の確保 ・耕作放棄地解消への支援及び抑止対策の促進 ・いわた茶の将来像の明確化と、新たな「磐田の特産品(レモン)」産地化の促進
	2 中小企業等の競争力強化と企業立地の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新製品の開発や販路開拓を行う中小企業等への支援 ・工場等の新增設を行う企業への支援や企業誘致の推進
	3 産業を担う人材の育成・就労の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・求職者へ就職支援に関する情報を提供 ・Uターン就職の促進(中京圏などで合同企業説明会や面接会等の開催)
	4 交流人口の拡大と商業・サービス業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・軽トラ市の開催支援 ・いわたおんぱく※(いわた温故知新博覧会)の開催 ※その地域の人と場所の魅力を体験するイベントで、一定の期間に小規模のプログラムをいくつも紹介し、顧客を呼び込む事業
	5 ブランド力の強化とシティプロモーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・InstagramなどSNS※を活用した市の魅力発信 ・「しっぺい」を活用した市内外でのPR活動 ※インターネットを介して人間関係を構築できるスマホやパソコン用のWebサービスの総称
	6 移住・定住の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュビロ磐田と連携した移住体験ツアー、移住者交流会の開催 ・小中学生向けの就労・起業啓発事業の実施やUターン就職をした方への奨学金返済の一部補助
自治・スポーツ・文化・歴史・共生	7 コミュニティと市民活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり協議会※の運営支援 ・自治会活動や自治会公会堂整備などへの支援 ※地域の連携体制や団体・活動の見直しなど、地域課題への対応策を考える組織
	8 スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュビロ磐田や静岡ブルーレヴズなど市内のスポーツチームと連携した事業の実施 ・市内スポーツ施設の再編整備、計画的な改修、修繕の実施
	9 文化の振興と歴史遺産の整備、活用	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術鑑賞会(展示会やコンサートなど)の開催や文化芸術活動への支援 ・遠江国分寺跡の整備事業の推進

分野	基本施策	主な内容
自治・スポーツ・文化・歴史・共生	10 学習機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・交流センター講座の開催や生涯学習関連情報(学びの庭・学びの師・学びの友)の発信 ・地域資料のデジタル化や電子書籍サービス※の推進 ※デジタルデータで作成される出版物(電子書籍)を検索・貸出・返却・閲覧できるサービス
	11 共生社会の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人市民への情報提供や外国人情報窓口※¹の設置 ・男女共同参画やLGBT※²に関する講座や講演会の開催 ※¹:外国人の生活相談又生活に関する情報等を常駐するスタッフが多言語で対応する窓口 ※²:レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセクシュアル(B)、トランスジェンダー(T)の頭文字をとった性的少数者の総称
子育て・教育	12 子ども・子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦や子育て家庭、こども、若者、女性のさまざまな相談に対応する「こども若者家庭センター」の設置 ・保育枠確保に向けた施設整備への支援や公立園のこども園化や再編
	13 特色ある教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュビロ磐田・静岡ブルーレヴズのホームゲーム一斉観戦事業や、小中学生の広島平和記念式典への派遣、本物に触れる機会の充実など、体験を重視する教育の推進 ・中学校区単位での小中一貫教育※の推進 ※小学校と中学校の教育課程を調整し、一貫性をもたせた体系的な教育方式
	14 子ども・若者の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ(学童保育)の待機児童対策やサービス拡充、民間児童クラブへの運営補助 ・「磐田市こどもの権利と笑顔約束条例」に基づくこどもの権利の普及啓発やこども・若者の意見を施策に反映する取組の推進
福祉・健康	15 地域福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉ボランティア活動への支援 ・くらしと仕事相談センター設置など更なる相談体制の充実
	16 高齢者福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者在宅福祉サービス(在宅介護手当、タクシー券、紙おむつ券助成等)の実施や介護予防活動の推進 ・高齢者相談・支援体制(地域包括支援センター※などの)拡充や成年後見支援センターの設置 ※高齢者およびその家族からの相談の受付や、高齢者の見守り、心身の状態にあわせた支援を行う高齢者の総合的な相談・サービスの拠点

分野	基本施策	主な内容
福祉・健康	17 障がい児者福祉の充実	・障がいのある方の各種相談などを行う障がい者相談支援センターの機能強化 ・障がい者就労促進への支援
	18 健康づくりの推進	・特定健康診査※やがん等の検診事業の実施 ・健康講座や健康相談を行う「まちの保健室」事業の実施 ※心筋梗塞や脳血管疾患、糖尿病等、生活習慣病の要因となるメタボリックシンドロームに着目した健康診断
	19 地域医療体制の充実	・市立総合病院の施設・設備の充実など、機能強化の推進 ・救命救急センターと急患センターの連携による救急医療体制の強化
防災・消防・安全安心	20 危機管理・防災対策の推進	・避難所施設の環境改善や海岸堤防整備事業の推進 ・木造住宅の耐震化への支援や耐震シェルター※設置補助など、家庭における防災対策の推進 ※地震で住宅が倒壊しても寝室や睡眠スペースなど一定の空間を守ってくれる装置
	21 消防・救急体制の充実	・消防署及び消防団の組織強化（出動体制の見直しや団員の確保） ・新消防庁舎や消防車両等の整備推進及び貯水槽の耐震化の推進
	22 市民生活の安全・安心の確保	・青パト活動をはじめとする、地域の防犯活動への支援や、不審者情報の配信 ・子どもや高齢者を対象とした交通安全教室の実施
都市基盤・環境	23 計画的な土地利用の推進	・幹線道路・区画整理・公園などの計画的な整備の推進 ・磐田市景観計画※に基づく良好な景観形成への誘導 ※景観法に基づく良好な景観形成を維持するための計画
	24 公共交通体系と道路網の整備	・幹線道路や生活道路、通学路の整備 ・デマンド型乗合タクシーの運行充実、自主運行バスの運行、生活バス路線維持のための事業者への補助
	25 良好な住環境の整備	・公園施設の点検と計画的な更新 ・危険な空き家の解消にかかる指導啓発、空き家の活用を支援する補助制度の実施、及び空き家の流通促進にかかる民間事業者等との連携など、空き家対策の推進

分野	基本施策	主な内容
都市基盤・環境	26 水道水の安定供給と下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・水道管の耐震化や老朽管の更新を推進 ・上下水道施設の定期点検の実施と計画的な更新を推進
	27 環境にやさしい社会の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・事業者・行政が一体となった、二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指した取組の推進 ・森林や海岸等の自然環境の保全や動植物の保護活動の推進
	28 快適な生活環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄の防止や市民・関係機関と連携した環境美化活動の推進 ・火葬場の長寿命化と市営霊園の適正な維持管理及び区画の提供
行財政改革	29 効率的・効果的な行政運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参画を推進するため、市長と市政を語る会や現場訪問型市民との対話の場※の実施 ・ホームページの改善や電子申請による行政手続きの簡素化の推進 <p>※市長が市内で活動する個人や市民団体、企業等を訪問し、現場を実際に見て、皆さんの声を聞くことで今後の市政に活かすための活動</p>
	30 持続可能な財政基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税制度※の活用や有料広告等の収入による自主財源の確保 ・利用可能性のない遊休未利用地の売却 <p>※自分の意志で応援したい自治体（都道府県・市区町村）を選んで寄附できる制度</p>
	31 機動的な組織体制の構築と人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・組織機構の見直しや適材適所の人員配置の実施 ・時代の変化に対応した職員能力開発による職員の資質向上

2. 「13 セクシュアルマイノリティ（性的少数者）について」

(調査票 13 ページ 問 35・問 36)

セクシュアルマイノリティ(性的少数者)とは・・・

どのような性別の人を好きになるかという「性的指向」や、自分の性をどのように認識しているのかという「性自認」に関して、少数者である方たちを表す言葉。

セクシュアルマイノリティ(性的少数者)である人々を総称する言葉の一つとして、「LGBT」と表現される場合があります。

頭文字	意味
L(レズビアン)	女性の同性愛者 (心の性が女性で恋愛対象も女性)
G(ゲイ)	男性の同性愛者 (心の性が男性で恋愛対象も男性)
B(バイセクシュアル)	両性愛者 (恋愛対象が女性にも男性にも向いている)
T(トランスジェンダー)	「身体の性」と「心の性」が一致しないため、「身体の性」に違和感を持つ人

(出典：総務省ホームページ)

令和7年度（2025年度）
磐田市市民意識調査 調査結果報告書【概要版】

発 行 令和7年11月

編 集 磐田市 企画部 政策推進課 総合戦略グループ

〒438-8650 磐田市国府台3番地1

TEL 0538-37-4805 / FAX 0538-36-8954